

日本地理

理學士 山上萬次郎 講述



文一ノ七九

地理學ニ關スル教授上ノ注意ハ本號ノ誌上ニ於テ外國地理及ビ地文學ノ部ニ之
 地ニ於タル夏以テ
 級ニ於テ授タル以テ
 班ヲ學生ニ授ケ置カ
 譯出テ教師諸君ノ參
 考ニ供ス原文ノ簡潔
 ナル復本邦坊間行ハ
 ル教科書ニ於ケ
 如キ此ニ非ズ而シテ
 同氏大地理書ニ至テ
 ハ又材料豐富ナルコ
 ト他ニ稀レニ
 見ハルガ如ク左ニ譯
 出スル所ハ大抵原文
 ノ文字通りニシタレ
 ドモ又私意ヲ以テ取
 捨シタル所二三ヶ所
 之レアリ此書ハ嘗テ
 文部省ノ夏季講習會
 ニ於テモ某博士其
 一斑ヲ講述セラレタ
 リト傳聞セリ固ヨリ
 小地理書ノコトナレ
 バ材料其物ニ向テ
 ハ兎角ノ批評ヲ加フ
 ベキニ非ズ其材料ノ
 配置ノ如何ナルヲ
 精細ニ見ンコトヲ要
 ス決シテ輕々ニ讀ミ
 去ル可ラズ此原書ハ
 獨逸文ナルヲ以テ
 本邦ニ知ル人少キヲ

以テ余ハ特ニ其一章ヲ爰ニ掲グルコトトセリ

第一章 緒言 (郷土ノ地理ニ依リテ説明スベシ)

一、正午ニ於ケル陰影ノ方向ハ北ニシテ之ニ反スルハ南ナリ北ニ面シテ右手ハ東ヲ指シ左手ハ西ヲ指ス此ノ四ツノ方向ヲ四方ト稱ス北ト東トノ間ヲ北東東ト南トノ間ヲ南東南ト西トノ間ヲ南西西ト北トノ間ヲ北西北ト稱ス四方ヲ主方位ト稱ス

二、廣大ナル原野ニ立チテ遠ク四方ヲ望ムニ天ハ次第ニ下リテ地ト相接スルヲ見ルベシ此ノ線ヲ地平線ト稱ス太陽ハ一年ニ二回(春分及ヒ秋分)地平線上ノ東點ヨリ出テ、西天ニ没ス日出日没共ニ夏ニハ北ニ偏シ冬ニハ南ニ偏ス南ハ正午太陽ヲ居ル方位ニシテ北ハ夜間北極星ノ居ル方位ナリ北極星ハ夜間其位置ヲ變スルコトナシ

北斗七星ノ内ニ屬スル二星ヲ連テタル線ヲ延長シ其六倍ノ距離ニ達スルトキハ恰モ北極星ヲ指ス

三、夜間仰テ天空ヲ眺ムルニ衆星ハ天ト共ニ二十四時間毎ニ東ヨリ西ニ一回轉ヲ

ナスヲ見ル而シテ其回轉ノ軸ハ北極星ヨリ地球ヲ貫キテ天ノ反對ノ方向ニ達スル線ニシテ吾人ノ見ル能ハザルモノナリ此ノ線ヲ天軸ト稱ス北極星ハ天軸ノ一端ニ居ル此ノ點ヲ天ノ北極ト稱ス他端ヲ天ノ南極ト稱ス

四、太陽モ亦他星ノ如ク以上ノ運動ヲナス然レモ水平線上同一ノ點ニ出沒セザルガ故ニ太陽ノ通路ハ天上ニ長短不等ノ大弧ヲ描クナリ此ノ弧ハ常ニ地平線ト同一ノ傾斜ヲ爲スガ故ニ長キ弧(夏季)ハ其ノ高サモ亦大ナリ而シテ夏季ノ日ハ冬ニ於ケルヨリモ暖カナリ之レ太陽ハ永ク且高ク懸レバナリ

五、地球上ノ熱ハ其主源ヲ太陽ニ仰グ而シテ太陽ノ熱光線ト共ニ地球ニ達スルニ當リテハ先ツ地面ヲ覆ヘル空氣ノ層ヲ通過セザル可ラズ此際其ノ熱ノ幾分ヲ失フ故ニ朝夕又ハ冬季ニ於ケル如ク空氣ヲ通過スルコト長キトキハ熱ヲ失フコト多ク之ニ反シテ正午及ヒ夏季ニ於テハ空氣ヲ通過スルコト短ク熱ヲ失フコトモ亦少シ最モ暖ナル月(六、七、八ノ三ヶ月)ヲ夏ト稱シ最モ寒キ月(十二、一、二ノ三ヶ月)ヲ冬ト稱シ其夏冬ノ間ニ在リテ溫和ナル季節ヲ春秋ト稱ス

六、空氣ノ熱ヲ計ルニハ寒暖計ヲ用ユ水ノ氷結スル時水銀ノ降レル位置ヲ見其上

端ノ點ヲ水點(零)ト稱シ水ノ沸騰スルトキ水銀ノ昇リタル上端ヲ沸騰點ト稱ス水
點及沸騰點ノ間ヲ百又ハ百八十三分ツ華氏ノ寒暖計ハ百八十度ニ分テタルモノ
ナリ故ニ攝氏ノ五度ハ華氏ノ九度ナリ華氏ニ於テハ水點ヲ以テ三十二度トシ攝
氏ニ於テハ零度トス零度以下ハ共ニ(一)符ヲ以テ示ス
七空氣ハ常ニ水蒸氣ヲ含有ス是レ水面濕潤ナル地面並ニ植物ノ表面ヨリ絶エズ
水ノ蒸發スルニヨルナリ此水蒸氣冷却スレバ凝縮シテ湯氣ノ狀ヲナス其地面ニ
近キハ霧ト稱シ高キハ雲ト稱ス尙一層冷却スレバ水滴ニ變ジ又ハ氷結ス之ニヨ
リテ露霜下層ニ在テ冷却スルキ又ハ雨雪上層ニ在テ冷却スルキヲ生ス雲ノ高サ
ハ常ニ低シ雲下ノ空氣ハ藍色ヲ呈スルコトナキハ之レガ爲メナリ又高山ニ登リ
テ雲ノ脚下ニアルヲ見ルモ之レガ爲メナリ
八地球ノ大部ハ海洋ヲ覆フ所ナル海水苦鹹ノ味ヲ有シ飲料ニ供ス可ラス海
外遠ク陸地ニ入り込ミタル所ヲ海又ハ入江ト稱ス
九陸地ハ或ハ小塊ヲナシテ海洋ノ中ニ在リ(島)或ハ連續セル大塊ヨリ成ルアリ(大
陸)島ヲ集リタルヲ群島ト稱シ陸地ハ突出シテ水面水ヲ以テ圍メタルヲ半島ト

文二ノ八二

云陸地ハ海ニ接スル所ヲ海岸ト云陸地ハ海中ニ突出シタル所ヲ岬又ハ崎ト
云

文一ノ八三

十距離ヲ計ルノ尺度ニ尺及ビ里ヲ用ユ學術上ニ於テリヤ(ヤ)ト云及ビ(ヤ)ト云
方秤ヲ用ユ一方里ハ約十六方里ニ等シ一耗(みりめ)ト云
本邦ニ於テ鐵道ノ里程ヲ測ルニ哩ヲ用フ一里ハ約二、四四哩ニ均シ一方里ハ約六
方哩ニ均シ
海上ノ里程ヲ測ルニ海里ヲ用ユ一海里ハ約四、八四哩ニ等シ一海里ハ約六
方哩ニ等シ
十一地面ノ高サヲ測ルニハ總括シテ海面ニ對シテ其法則トシ然レバ其近傍
地ノ比較ニ高低ヲ説クニハ其法則トシ然レバ其近傍
十二六百六十尺以下ノ地ヲ低地ト稱シ以上ノ高地ト稱ス低地ニ位スル平原ヲ
低原ト稱シ高地ニ位スル平原ヲ高原ト稱ス
低地及高地共ニ一面ニ平坦ナルヲ稀以テ然テ多少ノ高低起伏アリ

其ノ低地ニ於ケル高キ部分ヲ丘ト稱シ高地ニ於ケル高キ部分ヲ山ト稱ス其低キ部分ヲ谷ト稱ス

十三、山ノ集リタルヲ群山ト稱シ長ク連続シテ列ヲ成セルヲ山脈ト稱ス數多ノ山脈相集リテ規則正シク並行セルヲ山系ト稱ス山ノ最高點ヲ山頂ト稱シ最低ノ部ヲ麓ト稱シ其間ヲ山腹ト稱ス山麓ノ水平面ト山腹トノ爲セル角度ヲ山ノ傾斜ト云フ傾斜ノ角度ハ三十度ヲ超エルコト稀ナリ四十五度以上ノ傾斜ハ人容易ニ登ルコト能ハス地球上二万四千尺以上ニ達スル山ハ其數甚ダ少ク僅カニ亞細亞洲ニ在ルタミ

山岳ハ高サヲ増スニ從ヒ寒冷トナルヲ以テ高山ノ頂ハ常ニ雪ヲ戴クモノアリ之ヲ稱シテ雪線ト云フ我國ニハ雪線ニ達スル高山ナシ

十四、火山ハ其形圓錐ヲナシ之レヨリ水蒸氣又ハ熔融セル岩汁ヲ噴出スルヲ常トス其歴史時代ニ於テ噴出シタルコトアルモノヲ活火山ト稱シ否ラサルモノヲ死火山ト稱ス

十五、降雨又ハ融雪ニヨリ水ノ地中ニ浸透シ再ビ地上ニ湧出シタルモノハ泉ヲ爲

文一ノ八四

ス泉ハ集リテ小川ヲナシ小川集リテ大河ヲナス川ハ流下スル沿岸地ヲ削リテ土砂ヲ遠方ニ運搬ス

文一ノ八五

十六、河水ヲ起ル所ヲ水源ト稱シ其終ル所ヲ河口ト云フ傾斜ノ度ハ一定セザルモ水源地方ニ最大ナリ河ノ左岸右岸トハ川流ニ沿ヒ川下ニ向テ其左右ヲ稱スルモノナリ

十七、小川アリテ大河ニ注クキハ前者ヲ支流ト稱シ後者ヲ本流ト云フ本流及ビ支流ヲ總稱シテ河系ト云フ一地方ノ雨水及泉水ガ同一ノ河ニ注クキハ其地方ヲ該河ノ流域ト稱ス流域ノ境界線ヲ分水線ト云フ河ニハ上流中流下流ヲ分ツ上流ハ筏ヲ流スコトヲ得ルコトアルモ舟ヲ通スルコト能ハズ中流下流ハ數多ノ支流ヲ容レ土砂ヲ沈澱セシメ且船舶ヲ通スルコトヲ得土砂堆積シテ水面ニ現ハルハ三角洲ヲナス

河ハ海ニ注グヲ常トスレトモ内陸ノ湖水中ニ終リ又ハ沙漠中ニ跡ヲ滅スルモノアリ

内陸ノ湖水ニシテ其流出ノ口ヲ有スルモノハ淡水ナレモ流入ノ河ヲ有シテ排出

ソコナキモノハ鹹水ナリ是レ河水ト共ニ注入スル鹽分ハ常ニ殘留シ次第ニ蓄積
スルヲ以テナリ

十八、植物ハ土地ト密接ナル關係ヲ有シ其乾燥ナルト濕潤ナルトニ依リテ差異アリ又冰陸ニヨリテ差別アリ熱ト濕氣トニ不足ナレバ森林ヲナサズ高山ノ頂ニ近ク森林ヲ見ザルハ是レ熱ト不足ニヨル又降雨極メテ少ク樹木成長セズ僅カニ草ヲ繁茂スル所ヲ草原ト稱シ全ク降雨ヲ少シモ植物ノ成長ヲ見ザルノ地ヲ沙漠ト云フ

十九、動物ノ分布ハ熱及ビ濕氣ノ外ニ食物ノ供給ニ關スルコト大ナリ故ニ特種ノ動物植物ノ存否ニ依リテ差異アリ

二十、人間及ビ家畜ハ何レノ土地ニモ生活ス是レ人爲ニ依リテ寒暑ヲ防キ且食物ノ種類ニ制限アルコト動物ノ如ク甚ダシカラザルニ因ル漁獵牧畜ヲナシテ水草ヲ追テ移轉セバ種族アリ又ハ農工ノ業ヲ營目一定ノ土地ニ居住シテ都邑村落ヲ成スルモノアリ

言語風俗等ヲ同クスルモノ集リテ民族ヲ爲シ文化ノ發達ト共ニ一民族又ハ數民族

文一ノ八六

族ニノ主宰者ヲ戴テ團結シ國家ヲ爲ス國家ハ其政體皆依リテ民主國共和國及ビ君主國ニ分ツ

講述者曰ク以上ノ節ニ就キ敷衍シテ之ヲ授ケンコトヲ要ス其第二節北極星ノ如キハ晴夜北方ヲ眺ムヤハ明晃々ナル北斗七星ヨリ右ニ示セル如ク直ニ推定スルニヨリ得ベキカ故ニ修學旅行其他適當ナル機會ヲ利用シ學生ヲシテ必ズ熟知シ置カシメンコトヲ要ス

第三節天軸ノコトハ後ニ至リテ地軸及ビ地球自轉ノコトヲ説明スルノ豫備トモナルコトアリ實地ニ就テ野外ニテ之ヲ説明スルトキハ學生ニ了解セシムルヲ困難キニ非ズ

第五節太陽光線直射スルト斜射スルトノ差異ニヨリテ斯ノ如キ差異アルコトヲ十分ニ示ス可シ竹ヲ切ルニ斜ニ切ルトキハ切口ノ面積大ニ眞横ニ切ルトキハ切口小ニシテ且斜ニ切リタルモノノ中ニ條メ込ミ得ルコトヲ實地ニ行フテ示サントトヲ要ス

第六節華氏攝氏兩寒暖計ノ比較ノコトハ數學教科擔當ノ人ト打合セ置キテ其

文一ノ八七

練習ヲ怠ラシメザル様ニスベシ

第十節米、秆、糠、里、尺、哩、漚ノコトハ適當ノ問題ヲ與ヘテ改算ニ熟練セシメ置ク可シ哩ハ鐵道ヲ除クノ外成ル可ク用キズシテ他ノ單位即チ里及ビ秆ヲ用キシム可ク呷ノ如キハ斷然排斥スルヲ可トス而シテ漚モ亦海路ニ限リテ用キシム可シ漚ノ代リニ節ヲ用ユルコトアレドモ是レ速度ヲ示スニ用ユル語ニテ即チ十九節ト云ヘバ一秒間ニ十九哩ヲ走ル速度ヲ意味スルナリ事同ジ様ナレドモ其用異レリ注意ス可シ甲乙間ノ距離九百節アリ抔ト云フハ普通ノ用キ方ニハ非ズト知ル可シ

第十三節山ノ傾斜ヲ過度ニ見積リ過スハ人ノ誤リ易キコトナリ本文所載ノ事實ニ通曉セシム可シ
又一年平均温度氷點以下ナリトテ直ニ雪線ニ位スルト思フ勿レ一年平均温度ハ零度以下ナリトテモ夏季ノ温度非常ニ高クシテ積雪融解スルノ地ハ珍シカ

第十六節川ノ左岸右岸ノコトヲ言フニ多ク河源ヲ背ニシ河口ニ向ヒテ左ノ手

文一ノ八八

文二ノ七七

指ス方左岸右ノ手ノ指ス方右岸トアレドモ是レハ河ノ非常ノ屈回セル如キ場合ニテハ不都合少ナカラズ川ノ流ニ沿ヒテ下ニ向フトスル方ヨロシ

自然地理

位置 東洋ノ花彩列島東方ノ君子國即チ我大日本帝國ハ果シテ如何ナル位置ヲ占ムルキ乞フ試ニ世界ノ地圖ヲ披キ見ヨ西北ニ當リテ亞細亞大陸ヲ控ヘ渺茫ノ太平洋ノ西北ニ無數ノ島嶼、珠數ノ相連ナレルガ如キモノハ即チ此レナリイデキ其東西南北ニ於ケル極端ヲ檢ベ見ン

- 東端 東經百五十六度三十二分 千島ノ守占島
 - 西端 東經百十九度二十分 澎湖列島中ノ花嶼
 - 南端 北緯二十一度四十八分 臺灣ノ南岬
 - 北端 北緯五十度五十六分 千島ノ阿賴度島
- 世界ニ於ケル位置既ニ右ノ如シ面シテ其殆ンド中央ニ當レル地ハ何所ナルカ讀者之ヲ見出セヨ

境界 我國ハ海國ナリ四面海ヲ以テ環ラセル島國ナリ故ニ其境ヲ接スルニハ

必不海若クハ海峡ヲ以テセリ夫レ東北ノ天ニ於テ露領西伯利ノ甘察加半島ニ相
對スルニヤ千島海峡ヲ以テセリ北海道ノ正北宗谷海峡ヲ以テハ露領樺太島ト相
對スル朝鮮ヲ限ルニハ朝鮮海峡ヲ以テス黃海臺灣海峡ヲ以テハ支那ニ返リ東方
太平洋ヲ隔テテハ遠ク北亞米利加ニ相向フ而シテ一棹南ニ向ヘバ赤道ヲ過ギテ
濠洲ニ至ルベシ
大島及小島 大小三千有餘ノ大島小島相錯リ東北ヨリ西南ニ相連ナリ其長サ
殆ンド千里ニ垂ントスルハ我國ノ狀態ナリトス今其主ナル大島ト著シキ島嶼ト
ヲ舉ゲレバ左ノ如シ
中央ニ蜿蜒トシテ蟠リ其形蛟龍ノ天ニ冲セントスルガ如キモノヲ本州トス本州
ニ附屬スベキモノニハ北方日本海ニ於テ佐渡アリ隱岐アリ南方太平洋ニ於テ豆
南諸島アリ小笠原群島アリ本州ノ北東ニ當リ赤嶺ノ尾ヲ掉レルガ如キ形ヲ呈ス
ルモノハ北州島(蝦夷島)ナリトス北州島ノ北東一連ノ紐繩強ク東察加半島ヲ引キ
付ケテトスルモノハ千島列島ナリ而シテ本州ノ西南ニ當リ四國九州臺灣ノ三大
島アリ四國ニ屬スル小島ハ淡路島ニシテ九州ニ從フモノハ壹岐對島等ノ島々ナ

亦不臺灣ハ遠ク離レテ支那ニ近ク澎湖列島紅頭嶼其附近ニ在リ琉球列島ハ九
州ト臺灣トヲ堅ク相繋グルガ如シ
海灣、海峡、及灘 海水ト陸地ト相交ル所ヲ連接セザルヲ海岸線ト曰フ海
岸線ハ延長セルト否ヲザルトハ海灣等ノ多數ナルト然ラザルトハ意味ス海灣等
ハ多少ハ交通ニ便否ニ關スルコト至大ナル交通ノ便否ハ貿易文明ノ消長ニ關ス
ル亦著シキモノナリトス夫レ我邦ノ海岸線タルヤ其面積ニ比シテ延長少シ
ト云ス可ズ故ニ吾等ニ與フル天惠ハ實ニ交通貿易等ニ於テ妙ナカラザルコト
熟認スル可カラズ
境界ヲホスベキ海峡及海洋等ニ就イテハ既ニ其著シキモノヲ舉ゲタレバ茲ニハ
其繁ヲ省キテ他ノ物ノミヲ列舉セン
右ノ如ク海國千島列島ノ北方ニ深ク灣入シテ露領ヲ洗フ根室海峡ハ千島列島ト
蝦夷島トノ間ニ在リ而シテ蝦夷島ノ北岸ニハ小樽灣、壽都灣アリ南岸ニハ火山灣
箱館灣アリ
本州ノ最北端ニハ陸奥灣ノ大ナルモノアリ其日本海岸ニハ富山灣、敦賀灣、若狹灣

臺灣の海岸比較的單純ニシテ半島モ著シキモノハ南方ニ恒春半島アルノミニシ
テ富貴角及ビ南岬ハ海中ニ突出セル岬ノ稍名アルモノトス

海岸ニ係カル悉シキ事ハ後日ノ講義ニ至リ日本地理各論ニ於テ記述スベキヲ以
テ讀者今ハ是ヲ以テ甘ンゼヨ

地勢 我邦ハ東北ヨリ弓形ヲ呈シテ西南ニ延ブ此レ其脊椎骨トモ云フベキ山
脈ヲ走レル方向ニ依ルモノナリ其山脈ハ一ハ樺太山系ニシテ東北ヨリ西南ニ走
ル一ハ崑崙山系ニシテ西南ヨリ東北ニ延ブ此二大山系中部ニ於テ相結合シ高山
大岳ヲ起ス見ヨ地圖ノ幅最モ廣キ所ハ何所ナルカ其所コソ即チ結合地ナリ詳言
スレバ東海ノ表ニ巍々トシテ千秋ニ聳ユル富岳ハ實ニ此間ニ在リテ而カモ兩大
山系ヲ結合點ノ目標ヲナセリ故ニ地理學者ハ此結合點以北ヲ日本北灣若クハ北
日本ト曰ヒ以南ヲ日本南灣又ハ南日本ト曰ヘリ(地理學上此結合ノコ
トヲ對曲ト云フ)
右二大山脈ノ外ニ三大火山脈ノ走レルアリ一ハ南北日本ノ結合點ヲ基點トシテ
日本ヲ南北ニ横ギリ南方遠ク太平洋中ニ走ル富士帶ニシテ二ハ東北方ヨリ千島

ヲ經テ北海道ニ入ルモノニシテ千島帶ト曰ヒ三ハ九州ノ西岸及海中ニ出沒スル
モノニシテ霧島帶ト曰フ

蝦夷島ノ地勢 中央ニ石狩岳等ノ山々相重ナリ其脈四方ニ走レリ即チ山脈

ハ不正ノ十字形ヲ呈セリ北スルモノハ東北山脈ニシテ南スルモノハ日高山脈ナ

リ東ハ千島火山脈最モ其勢ヲ加ヘ西ハ後志山脈渡島山脈等走リテ津輕海峽ニ至

ル此等ノ山脈ノ間ニハ土地肥沃ニシテ耕作牧畜ニ適スベキ平原遠ク相瀕レリ

富士山以北本州ノ地勢 北上山脈分水山脈出羽山脈殆ンド相並ンデ北ヨ

リ南ニ走リ南北兩日本ノ結合點ニ達シ往々高峻ナルモノアリ奥州平野關東平原

等ハ此等山脈ノ間ニ介在スルモノトス

富士山以南本州ノ地勢 富士帶近傍ニ於テハ嶺峰重嶺ヲナスコト甚ダシ

ト雖此レヨリ西セバ漸ク其勢ヲ減ゼリ赤石山脈紀伊山脈中國山脈等西ニ向テ走

レル間ニ濃尾平原畿内平野等散在セリ

四國ノ地勢 四國ニハ四國山脈東西ニ一貫シ讃岐山脈此ニ合同セルガ故ニ唯
讃岐平原吉野河畔ノ如キ稍著ハルル平野アルノ外ハ山又山谷又谷ニシテ平坦ナ

ル地ハ實ニ僅小ナリトス
九州ノ地勢 九州南部山脈筑紫山脈等骨椎ヲナシテ南北ニ通シ人跡ノ絶エテ
久シキ地モ尠ナカラズ然レドモ土地幅廣キガ故ニ其西方ニハ筑肥ノ大平野等遠
ク亘レリ
臺灣ノ地勢 臺灣ハ南北ニ走レル大山脈アリテ其支脈東西ニ出ヅルヲ以テ其
東岸ノ如キハ絶壁相連リ平地實ニ少ナシ然レドモ西方ハ稍山勢徐カニ傾ケルヲ
以テ海岸ヨリ深キ内地ニ入ルモ平原ヲ見ルコトヲ得ベシ
我國ノ地勢略前ノ如シ之ヲ要スルニ大山脈ノ連綿トシテ相走レルガ故ニ支脈此
レヨリ生レ平原平野ト稱スベキモノハ山嶺ニアラズンバ河畔ナリ河モ亦サナキ
ダニ土地ノ幅狭キニ加ヘテ中部ニ山又山ノ兀立スル間ヨリ流レ出ヅルモノナル
ハ長河又ハ大河ト稱スルモノハ乏シクシテ且ツ急流ナル故ニ大ナル耕地牧場ヲ
作ルニ暇アラズ予嘗テ曰ク日本ヲ横斷スルノ一大魔力アリテ其力ヲ此ニ盡サ
其斷面ハ正シク三角形ヲ呈シ恰モ屋根ヲ横ニ見ルガ如シ此屋根ヨリ流レ出ヅル
川氷ノ幅廣キ理アラシヤ水嵩サ高キ理アラシヤ又徐々トシテ流レ出ヅル河流ヲ

文二ノ八四

文二ノ八五

生ズルノ理アラシヤト
此レヨリ川流ヲ説明セント欲スレドモ紙數ニ妨ゲラレ次回ニ於テ講説スルコト
トナシ地理研究ノ注意ヲ述ベシ
日本地理ハ郷土地理ノ膨脹ナリ郷土地理ノ智識ハ以テ日本地理ニ擴充セズンバ
アルベカラズ日本地理ノ智識ハ又以テ更ニ外國地理ノ原料ニ供セズンバアルベ
カラズ苟クモ此理ヲ誤ランカ當ニ乾燥無味蠟ヲ嚼ムノ慨アルノミナラズ地理學
ノ根本目的トナスベキ尊王愛國ノ道德心ハ得テ養フ可カラズ今ハ昔シ大槻磐溪
歌ヌテ曰ク江山綺美是吾郷ト此精神此愛郷心ハ臆テ膨脹シテ尊王心トナリ愛國
心トナリテ我邦土ヲ保護スベキ唯一ノ利劔ナリ若シ此理ヲ誤ルコトアランカ所
謂根本ヲ棄テテ枝葉ヲ取ルモノニシテ地理學研究ノ要此所ニ至リテ倒レタリト
曰フベシ然リ果シテ然リトセバ其教授其學習如何ニナスベキヤ此問題ハ吾人ノ
將ニ説明セント欲スル所ノモノナリ
吾人ハ曰フ日本地理ヲ研究スルニハ乞フ須ラク郷土地理ノ智識ヲ充分ニ具備ス
ルノ準備ヲナスベシ此準備堅ク整ハンカ基礎茲ニ整ヘリト謂フベシ即チ日本地

理ノ材料ハ常ニ郷土ニ於ケル材料ト相對照シ比較シテ以テ漸次其歩ヲ進ムベシ
其比較ヤ其對照ヤ當ニ道德心養成ニ利益アルノミナラズ其興味津津々其記憶頗ル
強固此レ其目的ヲ達スルモノト曰フベシ我境土ニ於テ幼時ヨリ游泳セシ川流ト
ハ其幅コシ大トナリタレ其長サコソ遠クナリタレ畢竟利根石狩ノ諸川モ同ジ小
河ハ膨脹セルモノニナラズヤ我愛境ニ於テ幼時攀チ登リシ岡トハ其積コソ増シ
カレ其高サコソ加ハリタレ富士阿蘇ノ山々モ亦同一性質ノモノアルニ非ズヤ
我縣ニ於テ產出スベキ米麥ノ量ハ我日本全國ノ產額ニ比シテ其割合幾何ナルカ
我住メル國內ヲ治スル所ノ地方政廳ヲ首府東京ニ於ケル中央政府ト比シテ如何
ナル差アルカ我日常交際スル所ノ同胞同僚ノ人情風俗ノ著シキ特色ハ全國ニ於
ケル人情風俗ニ對シテ如何ニ發微スベキ所アルカ此等許多ノ問題ハ皆我住メル
郷土我愛セル地方ノ地理的智識ヲ以テ初メテ其成效ヲ見ルベキナリ道ヲ遠キニ
求メテ還キヨリストハ夫レ古哲ノ道德ニ於ケル金言ナリ此金言當ニ此レ道德界
ニ於ケルノミニ止マランヤ諺ニ曰ク燈臺其下暗シト地理學ノ研究予輩此誹ヲ甘
受スベケシヤ讀者幸ニ之ヲ諒セヨ

河湖 我邦ノ地勢狹長ニシテ急斜ナルガ故ニ大河長流ヲ生ズルノ資格ナキコト
ト急流ノ勢少ナラザルコトハ既ニ之レヲ前ニ述タベル如シ然レドモ雨量比較的
夥多ナレバ其間ニ又河流ナクンバアラズ試ニ地圖上ニ於ケルモノヲ見ヨ
北海道ニ於テハ十字形山脈ヨリ流レ出ヅルモノ少ナカラズ西方日本海ニ入ルモ
ソニ石狩川アリ天鹽川アリ其南流シテ太平洋ニ入ルモノニ十勝川アリ殊ニ石狩
川ニ至リテハ其全長百六十七里幅廣キ石狩平原此沿岸ニアリテ灌溉舟運ノ利少
ナシトセズ
本州ニ於テ日本海ニ注流スルモノハ南側太平洋ニ朝宗スルモノト比較シテ其數
少ナク其水大ナルモノ乏シ能代川御物川最上川信濃川江川ハ日本海ニ入ルベキ
モノノ著シキモノ就中信濃川ハ全長百里本州中第一ノ大河ナレドモ他ノ諸河ハ
甚ダシク大ナラズ而シテ太平洋ニ奔流スルモノハ北上川阿武隈川利根川天龍川
木曾川淀川等ニシテ其數實ニ多シ以テ本州ノ地面ハ分水ノ山軸稍北部ニ偏セル
コトト南側ニ雨濕多キトヲ推知スルニ足ラン中ニモ利根川ハ坂東太郎ノ名ヲ得
テ關東平原ハ主トシテ此ノ河ノ流域ニ屬ス

四國ハ川流少ナキニアザルモ大ナルモノトテハ唯吉野川ヲ語ルベキノミ九州ニ至レバ筑後川西ニ流レテ筑紫平原ヲ作り其他ニ大野川球磨川等アリ

臺灣ニ屬スベキモノハ未ダ知悉セザルモノアレモ要スルニ山脈南北ニ奔レルガ故ニ河流ハ東西ニ方ニ流ルルモノノ如シ其大ナルモノトシテハ淡水河濁水溪等數ヘラル

湖沼モ亦我國ニハ大ナルモノ少ナシ今我邦湖沼生成ノ主ナル原因ヲ擧グレバ

(一)火山噴出作用ノ止マリシ後其噴出口ニ水貯溜シテ生セシモノ此種ノ湖水ハ大抵水清ク景麗カナリ

(二)地面陷落シテ凹窪トナリタル爲此所ニ於テ水ヲ湛ヘタルモノナリ

(三)昔ハ一ツノ入海若クハ灣ナリシモノ其口塞ガリ途ニ湖沼ト變形セシモノ

湖沼ノ大ナルモノ其本州ニ在ルモノハ其周圍大ニ其數多シ琵琶湖ハ中央稍以西ニ位シ周圍六十餘里ヲ過ギ實ニ我國第一ニ數フベキモノトス關東平原ニ於テハ霞浦北浦等多ク水ヲ湛フ之ニ次グモノハ蓋シ北海道ニ於ケルモノナラン北海道東部ニ於ケル猿轡間湖楓蓮湖ハ其名著シキモノナリ四國九州ニハ大ナルモノ無ク

文三ノ七八

文三ノ七九

臺灣ニハ中央ニ位シテ水社湖アリ

予ハ地勢論ノ續キトシテ河流平原等ヲモ説明シタリ次ギニ地變ノ主ナルモノヲ攻究セント欲ス何ゾヤ曰ク鑛泉此レナリ

地震 地震ハ世界各地其大小其度數ヨツ差アレ之ヲ感ゼザルノ地ハ蓋シ少ナカラシ然リト雖モ我國ホド地震多キ國ハ其類稀有ナリトス吾人ノ常ニ測知スベキモノ其度數少ナカラズ況ンヤ地震計ニ因テ知ラルベキ所謂微震ニ於テヤ試ニ官報ヲ取リテ日々之ヲ檢セヨ如何ニ其度數ノ頻繁ナルカハ蓋シ思ヒ半ニ過グルモノアラシ故ニ我邦ハ世界ノ人士地震國ノ綽名ヲナスト曰フ殊ニ明治廿四年ニ於ケル濃尾ノ地震ハ實ニ其慘酷ヲ極メ今猶酸鼻ニ堪ヘザルモノアリ爾來此地方ハ微震久シク絶エザリシナリ此以前ニ於テ我國中尤モ頻繁ナリシ處ハ何處ナリシカ此レ筆スルモ忌々シキコトナレドモ 輩殺ノ下既チ東京ヲ推サザリシヲ得ザルハ實ニ千古ノ遺憾ナリ俗ニ江戸ノ大地震トテ今猶珍ラシク語ルモノハ安政二年十月ノ頃トカヤ江戸即チ今ノ東京地大ニ震ヒ月ヲ越ユルモ猶ホ止マズ此時ノ災ニ弊レシモノハ無慮十萬五千人

地震ハ何ニ因テ生成スルカ此レ地文學ニ於テ設明スベキヲ以テ今ハ簡單ニ記述スルヲ以テ足レリトス

(一) 火山地震 火山ノ爆裂スルヤ地盤此レガ爲メニ動搖スルモノ
(二) 斷層地震 地球内部收縮ノ結果トシテ地層ニ變動ヲ來タス即チ斷層ヲナス時其震動傳播スルモノ

(三) 陷落地震 地中ニ空虚ヲ生ジタル爲メ上部ノ地盤陷落シ其動搖ノ四近ニ傳ハルモノ

鑛泉 三伏鑛金ノ苦熱ヲ避ケン爲メ海岸ニ之クモノアリ山中ニ入ルモノアリ其山中ニ入ルモノハ多ク此鑛泉ニ浴セン爲メナリ夫レ鑛泉ハ冷泉ナルナリ温泉ナルアリ其地平均温度ヨリ温カナルト冷カナルトニ因テ分タレ其生成ノ理由ニ至テハ二者共ニ畧性質ヲ同ウス温泉ハ雨水ノ地中ニ滲入セシモノ地熱ヲ受ケ地上ニ湧出スル間ニ地中ニ於ケル諸種ノ鑛物ヲ含有シ來ルモノナリ其鑛物ヲ含ムコト多量ナルヲ以テ種々ノ病質ヲ治愈スルノ効アルモノトス其湧出ハ亦火山地方ニ伴フモノナルヲ以テ我國ノ如キ火山ニ富メル邦土ハ一種ノ疾病者ニ向ツテ

此上ナキ天惠ナリト曰ハザル可カラズ鑛泉ノ温度ハ攝氏寒暖計ノ凡ソ四十度ヲ以テ通常トナスモ時トシテ沸騰點ニ近キモノアリ而シテ冷泉ハ其湧出ノ源地面近キ所ニ存シ地熱ノ作用ヲ受ケザルヲ以テナリ或ハ湧出ノ途中冷却セラレテ生成スルモノモアラン鑛泉ハ其含有鑛物ニ因テ又其名稱ヲ異ニス硫黃ヲ含メルコト多キモノヲ硫黃泉ト曰ヒ鹽類ヲ含メルコト多キモノヲ鹽類泉ト曰フ其他鹽泉、炭酸泉、鐵泉、如キアリ而シテ一ツノ鑛泉ニ二三種ノ鑛物ヲ混有スルトキハ其多量ナル鑛物ヲ以テ名稱ヲ付スルヲ通常トス

我國ノ鑛泉ヲ數フレバ一千有餘ニ達シ硫黃泉ナルモノ最モ多シ而シテ最モ著名ナル地方ハ富士裂帶ノ通過セル近傍ノ東山道諸國及伊豆半島トス即チ上野ノ草津、伊香保、相模ノ箱根、伊豆ノ熱海等最モ著ハレ其他攝津ノ有馬、伊豫ノ道後、豊後ノ別府等モ亦世ニ名高シ
火山作用ハ田畑ヲ損シ人命ヲ殞スコト往往莫大ナルコトアリト雖モ溫泉ノ湧出ハ管ニ疾病ニ向ツテ大幸ヲ賦與スルノミナラズ其四近大概山ヲ周ラスヲ以テ山水ノ景色ハ四季旁午ニ勞ルルノ人士ヲシテ浩然ノ氣ヲ養ハシメ精神ヲ一掃セシ

ムルノ天恵アリ

氣候 氣候ノ溫暖寒冷ヲ定ムルモノハ一ニシテ定ラズ今左ニ其主要ナルモノヲ

舉ゲテ説明セン此レ我邦ノ氣候ヲ講究スルノ準備タルコトヲ忘ル可カラズ

(一)緯度ノ高低 赤道直下ハ太陽ニ直射セラルルヲ以テ其酷熱ナルコトハ曰

フマデモナシ而シテ此地ヲ南北ニ去ルニ從ヒ次第ニ溫度ヲ減ズベキハ明カナリ

ノ理ナリトス

(二)土地ノ高低 緯度ハ大ニ氣候ヲ左右スベシト雖モ土地ノ高キト低キトハ

又大ニ關係アルモノナリ見ヨ夏期ニ於テ苦熱忍ブコト能ハザルモ富士山ニ登レ

ハ其清涼肌ニ徹ルニアラズヤ其一部ニハ雪ヲ見ルコトアルニアラズヤ

(三)風 風モ亦氣候ニ影響スルコト少ナカラズ吾等ハ常ニ南風ノ暖ニシテ北方ノ

冷カナリヲ實驗スルニアラズヤ冬日寒風ハ何レヨリ來ルカ夏時南風ハ何レヨリ

來ルカ風ハ其初メ在リシ地ノ溫度ヲ以テ吹キ來ルガ故ニ從テ氣候ヲ左右スベキ

モ以タルコトハ明カナリ

(四)海流 寒キ地方ヨリ流レ來ル寒流ハ土地ノ氣候ヲ寒カラシム之ニ反シテ暖

キ地方ヨリ進ミ來ル暖流ハ氣候ヲ暖カラシム

(五)海トハ距離 此レ亦等閑ニ視ル可カラズ海水ハ陸地ニ比シテ受熱スルコ

ト遅緩ニシテ放熱スルモ亦遅緩ナリ故ニ夏時陸地ハ大ニ熱スルモ海水ハ未ダ温

カナラズ海水未ダ溫度ヲ失ハザルニ當リテ陸地ハ既ニ冷却セリ是ニ於テ海水ハ

單ニ海流トシテノミ氣候ニ影響スルニ止マラズシテ海水夫レ自身モ亦氣候ヲ左

右スルコトヲ知ルベシ故ニ海ニ近キ土地ト遠キ土地トハ大ニ氣候ニ差異アルモ

ノナリ

此他雨量ノ多少人民ノ多少土地ノ墾否并ニ肥瘠等モ大ニ關係ヲ及ボスト曰フ

諸君次ノ問題ヲ確實ニ答ヘヨ

(一)長河ト大河ハ如何ナル差異アルカ (二)大河ハ如何ニシテ生ズルカ

(三)急流ノ生ズル理如何

(四)大河ト急流トハ伴フベカラズトノ質問ニ答フルノ文ヲ草セヨ

(五)湖水生成ノ理ヲ述ベヨ

(六)琵琶湖ハ如何ニシテ瀦水スルヤ

(七)地震ノ三原因トハ何々カ (八)一日ノ平均溫度トハ如何

(九) 一月ノ平均溫度トハ如何
 (一〇) 一年ノ平均溫度トハ如何
 (二) 火山地方ニ溫泉多キハ何故カ
 (三) 氣候ヲ左右スル原因ハ何々カ
 右ニ列擧セル問題ヲ以テ讀者諸君ハ既ニ業ニ河系、湖沼、地震サテハ鑛泉等ヲ練習セテレ猶氣候ヲ左右スベキ原因ヲモ十分ニ知悉セラレタリト信ズイザ我邦ノ氣候ヲ説明セン

(一) 緯度 我邦ハ既ニ前章ニ於テ北緯五十度五十六分ノ北方ヨリ遙ニ延ビテ南方北緯二十一度四十五分ニ至レルコトヲ説キタリ即チ北端ト南端トハ緯度ノ差實ニ二十九度一分ナレバ南方ニ於ケル氣候ト北方ニ於ケル氣候トハ大ニ其面目ヲ異ニスルモノアリ見ヨ北海道ヨリ來レル音信ノ時候文ト臺灣ヨリ來レル書信ノ時候文トノ如何ニ異ナレルカヲ即チ北緯五十度五十六分ハ北極圈ヲ去ルコト僅カニ十五度半ニシテ南端ニ至ル距離ノ大凡二分ノ一ノミナリ而シテ南端二十一度四十五分ハ熱帶内ニ入ルコト實ニ一度餘ナリ此レヲ以テ我邦ノ氣候ハ南北大ニ差異アルベキヲ知ルベシ

(二) 土地ノ高低 我邦土ハ幅狹ク又山地トテ海岸ヲ距ツルコト少ナケレモ此

ニ因テ氣候ノ差異ヲ來タスコト往往甚シキコトアリ

(三) 風 風ニ就テハ地文學ニ於テ詳シク説明セン只茲ニ一言スベキハ冬時ハ亞細亞大陸方面ヨリ吹キ來ルガ故ニ氣候實ニ冷カナルモ夏時ハ太平洋方面ヨリ暖風吹キ來ルガ故ニ暖カナリ何トナレバ冬ニ於テ亞細亞大陸ハ互寒凜冽ニシテ太平洋面ハ常ニ暖カナレバナリ

(四) 海流 海流ハ南方ヨリ黒潮及其支流ナル對馬海流ノ來タルアリ北部ノ地方ニ於テハ寒流奔リ來ルヲ以テ本邦ノ氣候ハ海流ノ影響ヲ受クルコト少ナカラズ詳シク云ヘバ臺灣九州の南部ハ黒潮ニ洗ハルルヲ以テ氣候稍暖氣ヲ加ヘ又本州の北側日本海ニ面スル部ハ對馬海流ノ爲ニ此レト同ジキ影響ヲ受ク而シテ日本ニ於テハ東面ニ於テ親潮ノ來ルアリ北面ニ於テハ樺太海流ノ流ルルアレバ其影響ヲ受ケテ寒冷ナルノ傾キヲ有ス

(五) 海岸ノ距離 幅狹クシテ四面海ヲ圍ラスヲ以テ此影響ハ殆ンド同様ニ之ヲ受ク即チ海ハ氣候ヲ和グルノ傾キヲ有スルガ故ニ我國ノ各地夏ハ清涼ナル傾キヲ有シ冬ハ溫度ヲ増スノ傾キヲ有ス何トナレバ海水ハ陸地ヨリ遅ク温マリ遅ク

冷ユルモノナレバ陸地ノ急激ナル氣候ノ變化ヲ治療スルモノトス然レドモ北海
道ニアリテハ石狩國上川本邦ニ在リテハ信濃國長野又ハ甲斐國甲府ノ如キ所ハ
内地ニ位シ比較的海岸ヲ距ツルコト遠キヲ以テ氣候自ラ稍峻酷ナリ即チ冬季モ
同緯度ノ沿岸地方ニ對シテハ遙カニ低溫ニシテ夏季ハ是レヨリ高溫ナリ彼上川
ノ如キハ全國測候所所在地ニ在テハ冬季最モ寒冷ナル所ナリト稱ス恐ラクハ千
島ノ大部ヨリモ遙ニ低溫度ナルベシ斯ノ如キハ是レ全ク其内地ニ位スルガ故ナ
リ京都ノ大阪ニ比シテ冬季モ頗ル冷カナルハ比叡下シト稱スル寒風ノ作用モ固
ヨリ與テカアルベシト雖モ職トシテ海洋ノ影響ヲ受ケザルガ爲メナリ岐阜ノ如
キモ伊勢内海沿岸ノ地ニ比シテ冬寒夏熱共ニ烈シトス
前述ノ理由ニヨリテ單ニ平均溫度ヲ以テ一地ノ氣候ヲ定ムル勿レ其最高最低
溫度ヲモ知リ溫度ノ變化四季ニヨリテ如何ナルヤヲ知ルニ非レバ其地氣候ノ
真相ヲ會得スル能ハズ又氣候ノ意義ヲ以テ單ニ溫度ノ高低ノミニ應用スル勿
レ雨量風向其他ヲモ包括スル義ト考フベシ
讀者ハ其最近測候所ニ於テ氣象觀測ノ結果ヲ知り置クベシ

再ビ火山ニ就テ

本邦ノ火山ニ就テハ特ニ詳説スルノ必要ヲ他ヨリモ勸告
セラレタレバ爰ニ追記スベシ抑世界中火山ニ富メルハ太平洋ノ沿岸ニ如クハナ
シ而シテ我邦ノ位置ハ太平洋ノ西岸即チ亞細亞大陸ノ東邊ニアルヲ以テ此大火
山脈中ニ位セルモノナリ蓋シ獨立ノ強國トシテ名ヲ世界ニ知ラレタルモノノ中
ニテ火山ニ富メルハ以太利ト我國アルノミ火山地方ニハ多ク硫黃ヲ産スルコト
ハ已ニ前回ニ於テ之ヲ述ベタリ即チ以太利及ビ本邦ガ世界ニ於テ硫黃ノ二大産
地トシテ知ラレタルモ亦是レガ爲メナリ序ヲ以テ言ハン以太利ト我國トハ蠶絲
ヲ産出スルノ點ニ於テ又美術ノ進歩セル點ニ於テ古ニ非常ニ開ケ中頃頗ル衰ヘ
近世ニ至テ國力ノ旺盛トナリタル點ニ於テ又特ニ近來海軍ノ勢力長足ノ進歩ヲ
ナシタル點ニ於テ或ハ風光及ビ氣候ノ佳良ナル點ニ於テ人種ノ外貌(毛髮)等ニ於
テ我國ト相似タル所少カラズ凡テ斯ノ如キコトハ適當ノ場所ニ於テ教授ノ任ニ
當ル人ハ常ニ説キ及ブコトヲ忘ル可ラズ特ニ地文地理人文地理相連結關係スル
ノ事柄ニ於テハ最モ注意スベシ以太利ハ斯ノ如ク火山ニ富ムト雖モ到底我國ノ
比ニハ非ズ彼レノヴエスヴィアスハ我富士山ノ如ク單成火山ノ整然トシテ規則

正シキモノニ及バズ或ハ阿蘇ノ如キ規則正シキ複成火山ニ比シテモヴエスヱイ
 アスハ稍一步ヲ讓ルノ觀アリ
 我邦ノ火山ニ就テ其火山學上ノ適例トシテ見ル可キモノハ頗ル多ク中ニモ白扇
 倒マニ東海ノ天ニ懸リテ千古絶エザルノ雪ヲ湛フル芙蓉峯ノ如キハ單成火山ノ
 好標本トシテ之ヲ見ル可シ富士山ノコトハ本邦人ノ心ニヨク浸ミ込ミ或ハ富士
 形ト云ヒ或ハ一鷹ニ富士三茄子ト云ヒ其元來ノ名山タル意味ノ外ニ種種ノ事ニ
 應用セラレツツアリ故ニ兒童モ能ク之ヲ知ル嘗テ東京府下ノ某學校ニ於テ尋常
 小學第一年級入學者ニ何ニテモ隨意ニ書ヲ描キ試ミシメシニ其多數ハ富士山ヲ
 描キタルノ事實アリ斯ノ如ク富士山ナルモノハ非常ニ通俗的ノモノナルガ故ニ
 教師ハ本邦天然地理ニ就テハ常ニ此名山ニ關係ヲ附ラルル丈ケ關係ヲ附テ教授
 スルコトヲ忘ル可ラズ特ニ其機會アル人ハ夏季登山ヲ試ミ置ク可シ但シ上部ハ
 空氣稀薄ナルヲ以テ余ノ如キモ大ニ困難セリ然レドモ大抵頂上ニ達スル能ハザ
 ル人ハ稀ナリト云フ是レ此原因ヲ除キテハ山路極メテヨキヲ以テナリ
 次ギニ複成火山ノ例トシテハ阿蘇山ヲ第一ニ推ス可シ是レ迄單成火山ノ名ニ對

文四ノ八二

シテ集成火山ノ名ヲ用キ來リシガ是レハ複成火山ノ方穩當ナリト思惟ス阿蘇山
 ノ舊火口ハ長徑六里餘短徑四里餘ニシテ今ハ舊火山ノ内ニ已ニ中岳・杵嶋岳・烏帽
 子岳・高岳・根子岳ヲ噴起シ通常阿蘇山ト稱スルハ此中央火山ナル五ツノ山ヲ稱ス
 ルモノユテ之ヲ阿蘇ノ五岳ト稱ス此五岳中ノ中岳ニ噴火口アリテ水蒸氣・亞硫酸
 瓦斯・硫化水素・瓦斯等ヲ噴出ス此噴火口ニハ近年迄熱水ヲ湛ヘ居リシガ近年涸
 シタリ舊來ヨリ噴火ノ前ニハ其徵候トシテ此噴火口ノ内部ニ異狀アルヲ常トシ
 タレバ古ハ常ニ國司ヲシテ朝廷ニ其異變ヲ奏聞セシムル例アリシトゾ余阿蘇ノ
 五岳ニ登リテ見ルニ五岳ヲ圍繞シテ恰モ堤防ヲ繞ラセル如キ連山アリ是レ即チ
 舊火口ノ障壁タルモノニシテ火山學上ニテハ之レヲ外輪山ト稱ス此外輪山ト五
 岳トノ間ハ大ナル平野アリ此平野ヲ阿蘇谷及ビ南郷谷ト稱ス斯ノ如ク中央火山
 ト外輪山トノ窪地ヲ火口原ト云フモト火口丘ノ名稱ヲ用キタリシモ此火口原ノ
 名稱穩當ナリト思惟ス然ラバ火口原内ノ水ハ何處ニモ吐出スルノ途ナキカト云
 スニ然ラズ固ヨリ或ル時期ニ於テハ湖水ヲナセシコトモアリシナラン阿蘇神社
 ノ舊記中ニ斯ノ事實ヲ記載セリ然レドモ現今ハ其水相集リテ外輪山ノ一部ヲ破

文四ノ八三

リテ瀑ヲナシ深キ谷ヲ形成シテ西方ニ流レ熊本ニ注グ所謂白川是レナリ此破レ
 ノ口ヲ火口瀬ト云フ山口瀬ト呼ビ來タリシモノナルガ火口瀬ノ語穩當ナリト思
 惟ス此火口瀬ノ部ハ阿蘇山ニ在テハ瀑ヲナシ之ヲ數鹿流瀑布ト云フ近時此水力
 ヲ利用シテ電氣動力トナスノ計畫アリ
 斯ノ如ク阿蘇山ホド複成火山ノ特性ヲ十分ニ了解スベキ山ハ少シ外輪山ヲ下ル
 所ハ急峻ナル傾斜ヲナスヲ以テ新道ノ開鑿セラレタルモノ必ズ非常ニ屈曲ス實
 地ニ之ヲ説明スルニ非レバ十分ニ迂廻ノ狀ヲ悟リ難キ程ナリ凡テ阿蘇山ニ登ル
 ノ途ハ彼火口瀬ナル立野ヨリスルヲ除クノ外スベテ峠ヲ上ルニハ緩ニシテ峠ヲ
 下ルニハ急ナリ阿蘇山ヨリ歸リテ他ノ地ニ移ルニハ之ニ反シテ急ナル峠然ラザ
 レバ彼迂廻セル新道ヲ上リテ然ル後ニ峠ノ頂上ニ達シ緩カニ下ルコトトナルナ
 リ而シテ其峠ノ内側即彼阿蘇山ニ向ヘル側(急ナル方)ニ於テ新道ノ切口ニハ火山
 ヲリ嘗テ噴出シタル火山灰火山礫火山砂熔岩等整然トシテ相重ナリ層狀ヲナシ
 學術的眼孔ナキ人ヲシテ一見水成岩カト怪マシムルニ至ル即チ成層火山體ノ一
 部ナルヲ明カニ示シ且其成層ノ傾斜ハ阿蘇山ノ方ニ向ハズシテ之ニ反スル方向

文四ノ八四

ニ向テリ是等ノ特性ハ何レモ皆外輪山ノ特性ヲ示ス所以ニ非ルハナシ
 箱根山モ亦屢複成火山ノ例トシテ擧ゲラレタル所ナリ然レドモ箱根ニ在テハ熔
 岩ノ流出非常ニ多ク爾後ノ噴火ニヨリ變遷ヲ經タル事甚シキヲ以テ其複成火山
 タルヲ人ニ知ラシムルコトハ稍困難ナリトス即チ箱根ニ在テハ駒ヶ嶽神山二子
 山等ハ中央火山ニ當リ宮城野仙石原等ハ火口原ニ當リ中央火山ヲ圍メル金時峠
 其他ノ連山ハ外輪山ニ當リ塔ノ澤湯本間ハ火口瀬ニ當リ蘆湖ハ火口原ノ一部ニ
 水ノ滯溜シタルモノニテ平林氏ハ之ヲ火口原湖ト稱スルノ穩當ナルヲ説キタリ
 (火口湖ニハ非ズト知ルベシ)箱根ノ場合ニ在テハ阿蘇ニ於ケル如ク中央ニ噴火口
 ヲ存留セズ固ヨリ駒ヶ嶽ノ頂上又ハ二子山ノ頂上ニ於テ平坦ナル部アリテ火山
 礫砂等堆積スル處ハ是レ舊時ノ噴火口ノ遺跡ナルベシト雖モ未ダ判然トシテ噴
 火口ノ跡ヲ存スルモノアルヲ見ズ然レモ大地獄小地獄ノ如キ噴氣孔ハアリ(噴氣
 孔少シトシテ後ニ述ブ可シ)箱根ノ複成火山タルヲ了解スルニハ實地ニテテ却テ困
 難ナリトノ嘆ヲ聞クコト多シ固ヨリ單ニ眼中ニ(地形上ヨリ)其然ルヲ映シメシ
 トナラバ或ハ實地ニ就テ見ルヨリモ地圖ニテ見タル方能ク了解スルコトモアリ

ペシ余ハ實ニ二子山ヨリ又駒ヶ嶽上ヨリ箱根全體ヲ觀察シタルコトアリ成程或
 者ノ言ノ如ク單ニ外觀上ヨリハ複成火山タルコトヲ悟リ難キニ似タリ然レモ富
 土山七合目邊ヨリ又ハ天城山ノ一部ヨリ箱根ヲ見ルトキハ能ク其複成火山タル
 ヲ外觀上ヨリ眼ニ映ゼシメ得ベシト云フ是レ學友某氏ノ實驗談ナリ
 熔岩ハ英語ニテ之ヲ「ラヴァ」ト云フ「ラヴァ」ニ就テハ人ノ屢疑ヲ挾ム所ナレドモ現
 在伊豆大嶋及ハ薩摩ノ沖ナル諏訪ノ湖嶋等ニ至ルトキハ其有様ヲ知り得ベシ取
 訪ノ湖嶋ノ如キニ在テハ噴火口内ヨリ水蒸氣爆裂ノ勢ニヨリテ熔解セル岩汁ヲ
 直上ニ打チ擧ゲ再ビ落下シテ或ハ其元來ノ處ニ精密ニ歸來シ或ハ其近傍ニ落下
 ス其凝固スルヤ多孔隙ノ岩石ヲナス時トシテハ噴火ノ勢頗ル盛ニシテ熔岩ノ流
 出スルコトアリ然ルトキハ噴火口内ヨリ溢ル谷ニ沿ヒ低所ニ就テ長ク流ル延曆
 年間富士山ヨリモ斯ノ如キ熔岩流ヲ流出シテ甲州街道猿橋ニ至リテ止ミシモノ
 ナリ其長サ十數里ニ及ベリ
 又熔岩ノ高ク打チ擧ゲタルモノハ再ビ落下スルトキ地面ニ墜タレテ平キ餅又ハ
 皿ノ狀ヲナス阿蘇山ニ皿石ト稱スルモノ即チ此火山餅石ノ一種ニ外ナラズ富士

文四ノ八六

文四ノ八七

山ニモ之ニ似タルモノ澤山アリ
 富士山ニ登ルモノハ紡錘形ヲナシ長サハ四五寸ノモノアリ一方ニ長クシテ兩端
 稍尖リ少シク捻チラレタル跡ヲ存スル圓形ノ礫石ヲ發見ス可シ是レ即チ火山彈
 ト稱スルモノニテ火山ヨリ打チ擧ゲラレタル熔岩空中ニテ回轉運動ヲ得タル結
 果ナリトス
 火山灰、礫、砂等ニ就テハ人ノ熟知スル所ナルヲ以テ爰ニ畧ス唯一言スベキハ富士
 山ニテ御殿場ニ向ヘル側ニ火山礫砂ノ上ヲズリ落ル處アリテ之ヲ砂走リト呼ビ
 シ様ニ記憶ス
 又火山毛ト云フモノアリ是レハ熔岩ノ打チ擧ゲラレタルモノ此中ニ含有セラレ
 タル瓦斯逃散ノ勢ニヨリテ引キ延バサレ恰カモ玻璃ニ於ケル如クニ細キ毛ノ狀
 ヲナセルモノニテ天明年間淺間山破裂ノ際ニハ之ヲ以テ罹災者ノ毛髮ト思ヒ先
 キハ三本ニウレ根ニ肉ツキシモノ降レリ杯ト記シタルヲ見タリ是等ノ岩石ヲ拾
 ヒ得タルトキハ其山即チ火山ナルカ或ハ其近傍ニ火山アルコトヲ相像スルニ憚
 ル勿レ

火山地方ニハ屢洞穴アリ即チ富士山ノ麓ニ於ケル人穴、雁穴、風穴等ノ如シ就中人穴ノ如キハ仁田四郎入り込ミタルコトアリトテ口碑上有名ナリ(江ノ島辨天岩屋(洞穴)ハ遠ク此人穴ニ連續セル如キ附會ノ説ヲナスモノアリ)斯ノ如キハ或ハ瓦斯ノ一列ニ膨張逃散シテ殘シタル跡ナリト云ヒ或ハ埋没セラレタル樹木熔岩ノ熱ノ爲メニ燃燒シタル跡ナリト云フ何レノ説モ長サ數町又數哩ニモ亘レル長大ナル洞穴ヲ説明スルコト能ハザルナリ抑熔岩流ノ上面ハ早ク已ニ凝固シテ外皮ヲ作ルコト恰モ袋ノ中ニ餠ヲ包ミタルガ如シ而シテ其外端ハ内部熔岩ノ重量ニ堪ヘズシテ破裂流出スルトキハ其跡ニ長大ナル洞穴ヲ生成ス可シ若シ又其上部ノ外皮モ下ニ陷落スルトキハ深ク狭キ谷ヲナス可シ要スルニ富士山ノ如キニ在テ其上部ハ火山灰又ハ熔岩ノ分解ニヨリテ赤土ノ狀ヲナスト雖モ下部ニハ此熔岩アリ此熔岩中ニハ規則正シキ長キ洞穴又ハ不規則ニ錯雜セル洞穴ヲ有スルコト固ヨリ疑フ可ラズ而シテ水ノ滲透セルモノハ此洞穴多キ熔岩ニ吸収セラレ地形ニ從テ山麓ノ低所ニ向テ流出ス蓋シ富士山麓ヨリ上ルニ通常ノ山ニ於ケル如ク清泉ノ流出ニ極メテ乏シキニ反シテ彼大宮町淺間神社境内ニ於ケル如ク山麓

文四ノ八八

文四ノ八九

ノ熔岩中ヨリ噴水ノ狀ヲナシテ急劇ニ湧出スルモノアルハ全ク前記ノ理由ニヨリテ然ルナリ此噴水ハ地面ノ傾斜ニヨリテ急流ヲナシ富士製紙會社ハ此下流ノ水力ヲ利用シツツアリ

噴氣孔●我邦ニテハ通常地獄ト云フ例ヘバ箱根ノ大地獄、小地獄、早雲地獄ノ如シ噴氣孔●所在ヲ知ラントセバ地獄ハ何レニアリヤト尋スルニ如クハナシ此噴氣孔カルヲ活火山ノ時期ヲ過ギタル火山ニアリテ即チ死火山ニ多シ舊時ノ噴火口之ガ場所ヲ占メ即チ同時ニ噴氣孔タルモノモアレドモ中ニハ所ヲ擇バズ火山地體ノ一部ニ就テ盛ニ瓦斯ヲ噴出セルモノアリ噴氣孔中最モ多キハ硫質噴氣孔ニシテ此四近ニハ硫黃ノ堆積頗ル多ク本邦ノ硫黃ニ富メル事實モ亦此ニ基スルナリ炭酸噴氣孔ハ蓋シ其數多カラズ思フニ炭酸質噴氣孔ハ硫質噴氣孔ノ如ク實用上ノ關係極メテ薄ク又特異ナル現象少キヲ以テ人ノ注意ヲ惹カザルモ多カルベシ火山地方ニ能ク風穴ト稱シ冷氣人ヲ襲フ如キ穴アリ其穴ヲ能ク調査スルトキハ或ハ此種ノモノアル可シ三瓶ノ島ノ地獄ハ前ニ述ベタリ豊後ノ九重山ノ麓ニテ殺生石ナルモノヲ嘗テ見タルニ是ハ石ニ非ズシテ石ノ傍ニアル穴ガ殺生

石ノ實タルヲ知り得タリ是ハ一二ノ實驗ノ後炭酸質噴氣孔ナルヲ断定セリ
 火山ハ禿山ナリナド思惟シタルモノアリ斯ノ如キハ嘗テ火山ヲ見タルコトナキ
 人ナリ火山何故ニ常ニ禿山ナルカ又或ハ火山地方ヲ以テ地味肥沃ナリト断定セ
 ル人アリ是レ亦偏見ナリ火山ハ何故ニ常ニ肥沃ナル地味ヲ生ズルカ要スルニ一
 括ノ論ハ極メテ正確ナルコトニ非レバ説ク可ラズ或人日本ノ内帯ニハ人文地理
 三於テモ外帯ニ比シテ特異ノ點アリトシ其人人文地理上ノ出來事内帯ニ少キヲ一
 括的ニ説キシ人アリ斯ノ人ハ一方ニ於テハ京都、瀬戸内海、肥前ノ鹿嶋等ノ内帯ニ
 位スルコトヲ認メナガラズノ如ク一括論ヲナシテ誤謬ニ陥リタルナリ
 火山ハ常ニ富士形ヲナスモノト妄リニ断定スル勿レ單成火山ノ規則正シキモノ
 ●能ク此形ヲ維持シ得ベシ●斯ノ如キハ寧ロ稀レナリ富士山ノ如キハ世界ニ於
 ●テモ其儔蓋シ少シ富士ノ側ヲナセル優美ナル曲線ハ數學上カタナリト稱スル
 ●種ノ曲線ニ屬シ積ミ重テラレタルモノガ最モ安全ニシテ動カザル位置ヲ取ル
 ●トキノ曲線ナリ彼ノ城ノ石垣ノ側ハ内ニ少シク凹ナル一種ノ曲線ヲナスコトハ
 人シ能ク知ル所是レ亦最モ安定ナルモノニテ前ト同シ曲線ノ一部ナリ

文四ノ九〇

文五ノ七九

本邦ノ火山脈

本邦火山ノ配列ヲ按ズルニ大別シテ富士帶、霧島帶、千島帶、中
 帶ノ四大火山脈ニ區別スルコトヲ得可シ關連ヲ考メテ見ルニ本邦ノ火山脈ハ
 富士帶ハ樺太山系ト崑崙山系ト對曲スル地ニ現レ遠ク南洋ノマリアナ群島ニ
 連リ西北西(北西)西トノ間ノ方向ニ延ビ小笠原群島、伊豆七島ヲ經テ本州ニ入リ
 伊豆半島ニ於テ天城山ヲ起シ函根群山、愛鷹山、富士山ヲ經テ甲信ノ境ナル八ヶ嶽
 ヲ含ミ越後ノ燒山群山ニ終ル富士山ハ此脈中ノ最モ著名ナルモノナルヲ以テ此
 名ヲ取リテ富士帶ト稱セリ
 霧島帶ハ富士帶ニ似タル大火山脈ニシテ弓形ノ配布ヲカシ南日本ノ地ニ現ハル
 ルモノニシテ琉球ノ鳥嶋ニ起リ河邊七嶋、口之永良部嶋、竹島、硫黃嶋、黑嶋ヲ經九州
 ノ地ニ入リ海門(岳)池田池、鰻池、山川港ニ亦噴火口ノ跡ナリ櫻島、霧島群山、温泉岳
 ヲ經テ多良岳ニ終ルモノニテ霧島山最モ著名ナルヲ以テ地名ヲ取リテ霧島帶ト
 稱セリ
 千島帶ハカムチャツカ半島ノ火山脈ニ連リ千島諸島ノ火山ヲ起シ釧路ノ硫黃山、
 雄阿寒、雌阿寒ノ諸山ヨリ夕張岳ニ連リ之レヨリ内浦灣ノ周圍ニ峙立スル火山群

ニ連ル内浦灣ノ周圍ニ峙タル火山ニハ梅前後方羊蹄有珠惠山駒ヶ嶽等アリ
 富士帯ニ屬スル火山ノ中特ニ記スベキハ天城山ハ群集セル火山ニテ噴火口ノ
 跡數多アリ(寄生火山多シト云フ)熱海モ亦一ノ噴火口ノ跡ナリ。箱根ハ複成
 火山ノ好例ナルコト前回ニ之ヲ述ベタリ。富士山ハ單成火山ノ好標本ナリ但シ
 麓ニハ寄生火山數多アリ又人穴風穴雁穴等ノ洞空アリ熔岩灰砂等ニテ堰止
 メラレテ生成シタル湖水數多アリ。裾野ハ最モ美ナリ。愛鷹山ニモ噴火口ノ跡ト
 シテ見ルベキモノ現存セリト云フ。八ッ嶽ハ南ノ方甲府近傍ヨリ望ムトキハ複
 成火山ノ如キ外觀ヲ呈スト雖モ其實風化水蝕ノ爲メニ斯ノ如キ形狀ヲ呈シタ
 ルヲミテ過ギズ。八ッ嶽以北ニモ立科山及ヒ和田峠(其實ハ和田峠近傍ノ山岳ニ
 連ル。諏訪湖ハ富士帯中ニ屬スルニツク噴火口ノ跡ハ如クニ之ヲ考スルモノア
 レドモ其實此湖ノ近傍特ニ東方ニ峙ユル山岳ヲ見ルニ之ヲ掩ヘル熔岩ハ湖水
 流レ方ニ流シタルヲ示シ湖水ヨリ流出シタルノ跡ヲ示サザルヲ以テ噴火口トシ
 テ之ヲ見ルハ穩當ニ非ズ。又此ノ湖水ノ圓形ヲナスヲ以テ噴火口ノ跡タル說ヲ
 唱フルハアレドモ此湖水ハモト願ル大ニシテ隨テ形モ圓カラズ近頃縮小シテ

四五ノ八〇
四五ノ八一

現今ノ輪廓ヲナシタルモノナリ故ニ形ノ圓キコトハ更ニ噴火口ノ證トハナラ
 ズ。焼山群嶋ニハ焼山及ヒ妙高山ノ如キ名高キ火山アリ。偕富士帯ニ屬スルモノ
 ハ凡テ一線ニ配列セララルノミニ非ズシテ本體ハ一帯ナルモ之ガ支脈トシテ
 見ルベキ。小碓裂帯モ澤山アルベシ。
 霧嶋帯ノ火山脈ニ屬スルモノ中ニ就テ著シキ事實ヲ舉クレバ琉球ノ鳥嶋ハ
 琉黄ノ産出ヲ以テ名アリ。川邊七嶋ノ中諏訪之瀬嶋ノ如キハ現今尙ホ熔岩ヲ流
 シタルアリ。本嶋火山ノ中最モ活動ヲ逞フセルモノ現今ニ於テハ此嶋ニ如クモ
 此ハケルマシ屋久嶋ハ火山ニ非レドモ其西ニアル口之永良部嶋ニハ判然タル
 噴火口アリ。歴史時代ニ噴火シタルコトアリ現今モ尙ホ琉黄質ノ瓦斯ヲ出ス。
 川邊ノ如ク三嶋ノ稱アル竹嶋琉黄嶋黒嶋ノ中琉黄嶋ニハ判然タル噴火口アリ。盛
 ンニ琉黄ヲ噴出ス。昔時俊寛僧都ノ流サレタル鬼界ヶ嶋トハ此島ノコトナリ。薩
 摩大隅ノ間ナル鹿兒島灣ノ入口ヲ扼スル開聞岳(一名海門岳)ハ其形狀ノ美麗ナ
 ル富士形タルニ於テハ富士山ニ匹敵スルト云フモ可ナリ。薩摩富士ノ名アル又
 偶然ナラズト云フ可シ。櫻島ハ安永八年ノ大破裂ヲ以テ有名ナリ。此時ハ噴出セ

經石一時ハ海上ヲ厚ク掩ヒシカバ難ヲ避タルニ急ナルハ民ハ之ヲ蹈ンテ對
 岸ニ逃レ去リタルノ事實アリ霧島山ハ一ノ群集火山ニシテ大別シテ東霧島山
 西霧島山トニ分ル噴火口ノ跡ノ非常ニ多キコトハ此山ニ及ブモノハアラザ
 ル可シ其中東霧島山ニ屬スル御鉢ノ噴火口ハ今モ尙活動セリ其東ニハ有名ナ
 ル高千穂ノ峰アリテ頂上ニ天ノ逆錐ト稱スル奇形ノ劍ノ如キモノヲ安置シ温
 泉岳ノ歴史時代ニ起リタル噴火ハ最モ有名ニシテ對岸肥後ノ地ニハ此時木津
 浪アリシナリ
 千島帶ニ屬スル火山ニ就テ二三ノ事實ヲ舉グレバ西方ナル膽振火山群トモ稱
 スル内浦灣ノ周圍ニ峙立スル火山ハ其數頗ル多キコト前ニ之ヲ舉ゲタル如
 シ内浦灣一名噴火灣ノ稱アルハ全ク之レガ爲メナリ釧路ノ硫黃山ハ近來マデ
 硫黃ノ産額本邦第一タルヲ以テ有名ナリシガ現今ハ頗ル産額ヲ減シタリトゾ
 千島諸島ニハ火山頗ル多ク其記事ハミルン氏ノ日本火山論英文ニ見エタルヲ
 以テ詳細ヲ知ラントスル人ハ之ヲ參照ス可シ
 前ニ述ベタル如ク富士帶ハ崑崙山系及ヒ樺太山系ノ對面地方ニアリ千島帶及

霧島帶ハ千島ノ弓形(千嶋灣)ノ内面霧嶋帶ノ内面(内面外面)ノコトハ後ニ説ク
 可シニ存スルモノナリ然レドモ内面ノ火山脈中別ニ中帶ト稱ス可キ火山脈ア
 リ左ニ述ブ可シ
 中帶火山脈ハ一列ノ火山脈ニ非ズシテ本州ノ弓形ニ略ホ相平行セル數多ノ火山
 脈ヨリ成ヒリ現今本邦火山學上ノ進歩ハ著名ナルヲ以テ爰ニ之ヲ斷言スルヲ得
 ズト雖モ原田博士ノ日本地質構造論(地學雜誌第一卷乃至第五卷參照)ニヨレバ北
 日本ノ内面ニ屬スルモノニ三條ノ平行脈アリ東邊ニアルモノヲ那須火山脈ト云
 ヒ中央ニアルモノヲ岩木火山脈ト云ヒ西邊ニアルモノヲ彌彦火山脈ト云フ那須
 岩木ノ兩火山脈ハ地皮ノ褶起ニ成レル山脈ノ上又ハ傍ニ現ハル即チ那須火山脈
 ハ分水山脈ノ稱アル奥羽街道ノ西邊ニ隆起セル山脈ノ上ニ現ハレ岩木火山脈ハ
 出羽山脈ノ上ニ現ハル

那須火山脈ハ津輕海峽ニ接スル恐山ニ起リ陸中ノ岩手山トナリ之レヨリ藏王
 吾妻盤梯那須高原日光白根赤城榛名等ノ諸山ヲ經テ富士帶ニ屬スル八ッ岳立
 科等ニ連ル此中那須山最モ著名ナルヲ以テ此火山脈ニ那須火山脈ノ名アリ盤

梯山ハ明治二十一年夏吾妻山ハ明治廿六年夏破裂シタルハ今尙人ノ記憶スル所ナリ。岩木火山脈ハ陸奥ノ岩木山ニ起リ鳥海、月山、淺草、苗場、白根、淺間ニ連ル那須岩木兩火山脈ノ間ニハ尙數多ノ噴火口アリ森吉山、沼澤湖、尾瀬沼等是レナリ是等噴火口モ亦彼兩火山脈ノ支脈トシテ見ルベキモノナラン。彌彥火山脈ハ信濃川以西越後ノ海岸ニ沿ヒ北ハ粟生島、飛鳥ヨリ八郎海ノ西ニアル寒風山ニ連ル其彌彥山ヨリ西南ニ走リテ角田山、米山等ヲ經富士帶ニ接スル所ニ數多ク大ナル噴火山即チ妙高、黒姫、飯綱、燒山等ノ集合スルヲ見ル富士帶ノ燒山群山ト稱スルモノ是レナリ

中帶火山脈ノ南日本ニ屬スルモノニ四條ノ火山脈アリ其中最南ニアルモノハ阿蘇火山脈ニシテ東邊ニアルモノヲ御岳火山脈トシ北邊ニ現ハルルモノヲ能登火山脈及ヒ白山火山脈トス

阿蘇火山脈ハ日本地體内外兩面ノ界ナル中央線(後ニ説ク可シ)ニ沿ヒ信濃、參河、遠江ノ境界ナル風來寺山ヲ起シ伊賀ノ南ナル寶生山、四國ノ北岸ナル飯野山、讃岐富士ノ名アリ(伊豫三津ヶ濱ノ西ニ當ルル興居嶋(伊豫富士ノ名アリ)石槌山九

文五ノ八四

文五ノ八五

州ニ渡リテ豊後ノ二子山、鶴見嶽、由布岳(豊後富士ノ名アリ)久住山、及ヒ其近傍ノ諸火山峰ヲ起シ阿蘇山ニ至リ金峰山ニ連ル之ヲ阿蘇火山脈ト云フ阿蘇山ノ集成火山トシテ實ニ完全ナル一標本タルコトハ前回之ヲ述ベタリ。又御岳火山脈ハ飛驒山脈ノ西側ニ連リ立山ニ起リ燒岳、硫黃岳、乘鞍岳等ヲ經テ御岳ニ終ルモノヲ云フ。白山火山脈トハ白山ニ起リ中國ノ北岸ニ沿ヒ若狹丹後ノ國境ニアル青葉山、但馬ノ間鍋山、伯耆ノ大山、雲石二州ノ境ニアル三瓶山ヲ經テ長門萩ノ北ニ終ルモノヲ云フ。能登火山脈ハ佐渡ノ金北山ヨリ能登ノ北部ヲ經テ隱岐兩島ニ連ルモノナリ隱岐ノ島前ト稱スル一群島ハ地形ノ上ニ於テモ希臘ノサントリン島ニ肖タル所アリ是等四條ノ火山脈ノ外處々ニ噴火山アリ例之ハ九州ノ彦山ノ如キ是レナリ是等ハ皆其支脈トシテ見ルベシ又四條ノ火山脈ヲ總稱シテ南日本中帶火山脈トス

又本邦ノ地ハ亞細亞ノ東邊ニ位シテ太平洋西部火山脈ノ一部ヲナス抑世界ノ火山脈ハ其數頗ル多シト雖モ之ヲ總括スレバ四條アリ即一ハ太平洋ノ東部沿岸ニ噴起シテアンデス、ロツキー兩山脈ノ高峰ヲナセルモノニテ之ヲ太平洋東

部沿岸火山脈ト稱スニハアラスカ半島ノ一端ヨリアリユーシアン諸島ニ渡リ
 本邦ヲ經テ南洋諸島ニ連ルモノニシテ之ヲ太平洋西部沿岸火山脈ト稱ス第三
 ハ大西洋ノ火山脈ニシテ第四ハ世界ヲ略ホ東西ノ方向ニ横斷セル一大緯裂地
 帶ニ沿ヒタルモノナリ(東印度諸島ノ一部ハ此第四及ビ第二ノ兩火山脈相會ス
 ル所ニ當レリ)而シテ本邦ノ火山脈ハ實ニ第二ナル太平洋西部沿岸火山脈ノ一
 部ナリトス

本邦火山脈ノ配列ヲ見ルニ彼ノ富士帶ハ崑崙樺太兩山系ノ對曲スル所ニアリ其
 他ハ凡テ本邦地體ノ内面ニ殆ンド全ク存在シテ外面ニハ至テ少シトス凡ソ地皮
 ノ褶曲ニ成レル山脈ノ構造ヲ見ルニ自ラ一定ノ規律アリ其最モ著明ナル事實ヲ
 舉グレバヒヤラヤアルプスノ如ク變形ヲナスコト是レナリ而シテ其變形ノ凸ナ
 ル側ト凹ナル側トノ地質構造ヲ比較スルニ顯著ナル差異アルヲ認メザルコトナ
 シ故ニ地學上ニ於テハ凸ナル側ヲ以テ外面トナシ凹ナル側ヲ以テ内面ト稱ス(或
 ハ之ヲ表面及ビ裏面ト稱ス)外面ハ完全ナル地層ノ褶波ヨリナリ火成岩ノ噴出頗
 ル少シ之ニ反シテ内面ノ地質構造ハ頗ル複雜シ地層ノ變位陷沒ニ富ミ火成岩ノ

文五ノ八六

文五ノ八七

噴出頗ル多シ(大凡ソ山脈生成ノ原因ハ地皮ノ褶波ナリ蓋シ地球ノ冷却スルニ從
 ヒ地皮ハ内部ノ收縮セル實質ニ比シテ大ニ過グルヲ以テ褶曲スルハ必然ノ結果
 ナリトス而シテ褶波ヲ呈スル壓力即チ地學上所謂造山力ノ方向ニ直角ニ山脈ヲ
 生成シ其力ノ衝ニ當レル内面ト其反對ノ側ナル外面トニ於テ前記ノ如キ地質造
 構ノ差異ヲ生ズルニ至ルモノナリ本邦ノ地體ニ就テ云フトキハ阿武隈山脈北上
 山脈若シテ紀伊四國ノ山脈ノ如キハ外面ノ部ニ屬シ瀬戸内海中國山脈出羽山
 脈ノ如キハ内面ニ屬セリ知ル可シ火成岩ノ多クシテ外面ニ少ナキコトヲ若シ彼
 ノ對曲地方ヲ別ニ措テ考フルトキハ外面ノ地體ニ多少少ク火成岩アリトスル
 モ新火成岩即チ火山岩ニ至テハ頗ル乏シク現ニ噴火口ヲ有シテ之レヨリ歴史時
 代前ニ又ハ歴史時代以後ニ噴出シタル死活ノ火山ニ至テハ其數實ニ寥寥ナリト
 ス霧島帶ノ九州以南ニ連續セル狀態ヲ見ルニ余ノ實踐シタル所ニヨレバ屋久島
 種子島武島沖繩島等ハ水成岩ヨリ成リ其西側ニ列スルモノ此霧島帶ナリトス
 此火山脈亦琉球灣ノ内面ニ排列スルモノタルハ余ノ確信スル所ナリ火成岩
 臺灣島モ其東岸即太平洋面ニ於テ火山岩ノ噴出ニ富マズ而シテ澎湖列島及火山

岩ヨリナルヲ以テ見レバ亦内面ノ地體ニ屬スルモノノ如ク而シテ基隆四近ノ火山群ハ琉球灣ト臺灣灣ト相對曲スル所ニ當ルコト恰モ彼富士帶ノ樺太崑崙兩山系ノ對曲スル所ニ當レルガ如シ此見解ヲ果シテ正當ナルヤ否ヤハ他日臺灣地質調査ノ進歩ト共ニ判然タルベキナリ

千島帶モ亦千島灣ト稱スベキモノノ内面ニ排列スルモノナラン但シ此場合ニ於テハ沖繩諸島ニ於ケルヨリモ尙一層甚ダシク陷沒シテ其所謂外帶ト稱スベキモノノ痕跡少キニ非ルカ吾人ハ未ダ千島ノ地質ニ關シテ詳細ナル報告ヲ手ニスルコト能ハザルヲ以テ今日ニ於テハ單ニ自己ノ所信ヲ略陳スルノミニ止メタリ

抑日本外面内面ノ區別ハ單ニ地質ノ上ニ於テノミ然ルニ非ズ今假リニ瀬戸内海畿内平原琵琶湖ヲ含メル一帯ノ凹地即地學上所謂瀬戸内地溝帶ナルモノヲ除キテ考フルトキハ人文地理ノ上ニ於テモ兩面ノ差ハ常ニ莫大ナルモノナリ讀者ヨロシク之ヲ察スベシ

内外兩面ノ境ナル中央線ノコト及ビ日本地質構造ノ大畧ニ就テハ次回ニ之ヲ述ブ可シ

本邦ノ地質構造 前回ニ於テ本邦地質構造ノ一端ヲ述ベタリシガ今爰ニ其

詳細ヲ述ブ可シ

本邦ノ地體ヲ考察スルニ三個ノ弓形ヨリ成レルヲ見ル即チ一ハ千島灣ト稱ス可

キモノ一ハ北海道大部及ビ本州四國九州ノ地體ヲ大ナル弓形三ハ琉球灣ト稱

スベキモノ是レナリ而シテ臺灣ハ此外ナリト知ルベシ

今先以中央ナル第二ノ弓形ヨリ論ジ始ムベシ

此弓形ノ地體ヲ見ルニ三個ノ地皮隆起體ヨリ成レルヲ見ル即チ一ハ北方ニ出現

スルモノ一ハ北々東ヨリ南々西ニ走ル之ヲ樺太山系又ハ日本北緯ト稱ス一ハ

南方ニ出現スルモノ一ハ北東東ヨリ南西西ニ走ル之ヲ崑崙山系從來支那山系

ト稱シタルモノ一又ハ日本南緯ト稱ス此兩山系ハ關東四近ニ於テ相結合ス

凡ソ一山脈ノ構成ハ粗同一ナル方向ヲ有スル造山力(前回參照)ニ起因スルモノニ

シテ造山力方向ノ不等ニヨリテ成ルルニ山脈ノ相接スル處ニ於テハ當ニ特別ナ

ル現象ヲ見ル之ヲ稱シテ山脈ノ對曲ト云フ

前ニ述ベタル如ク山脈ノ通常變形ヲナシ其凹側ト凸側トハ地質ノ構造大ニ差

異ナルナリ而シテ二山脈ノ接スル端相結合スルトキハ四側ハ反對ニ位スル形ヲナスモノナリ

崑崙樺太兩山系ノ對曲スル地方ハ關東四近及ビ飛騨、信濃、甲斐、駿河ノ地方ニシテ日本ノ地體中幅最モ廣ク高サ最モ大ナル所ナリ而シテ此處ニ於テ富士帶ト稱スル火山脈ノ通過スルコト已ニ前回ニ之ヲ述ベタル如シ

霧嶋帶ノ火山脈モ琉球、嶺南山系(日本南緯)ノ對曲スル所ニ當リ其他千嶋帶、臺灣北部ノ火山脈ニ就テハ已ニ之ヲ前回ニ述ベタル如キヲ以テ之ヲ爰ニ略ス

又本邦ノ弓形ニ平行シテ重要ナル一縱斷線ナリ此ヲ中央線ト稱ス此線ハ土地ノ凹窪部地層ノ陷落部、海灣ノ存在、又ハ火山ノ噴出等凡テ地皮ノ罅裂ヲ以テ示サレ畧本邦地體ノ中央ヲ其弓形ニ沿フテ通過ス尙後ニ論ズ可シ

日本北緯ノ表面 富士帶以北ナル本州北翼及ビ北海道本島ヲ名ケテ日本北緯ト云フ右ニ説キタル中央線ハ北海道ノ正中ヨリ少シク西ヲ貫通シテ平原ヲナシ石狩ヨリ苫小牧ニ至ルノ間ニ亘リテ石狩、千歳、勇拂等ノ平野ニ當リ目下鐵道ノ通過スル所ナリ此中央線ノ東ハ樺太山系ノ方向ニ從ヒ南北ニ連レル日高山脈及ビ

東北山脈ニシテ即チ表面ナリ又西ハ裏面ニシテ噴火作用烈シク地質ノ陷沒ニ富ミ噴火灣ノ四近最モ名アリ表面ノ地質ハ太古層及ビ花崗岩ノ如キ古キ水成火成ノ岩ヨリナル而シテ北海道本嶋ト千嶋トノ關係ハ前回ニモ述ベタル如ク未ダ詳ナラズト雖モ東北山脈及ビ日高山脈中ニ數多ノ火山聳立シ又根室半嶋等ガ千嶋諸嶋ノ方向ニ從テ突出スルガ如キハ是レ千嶋帶ノ存スル關係ニヨリテ然ルナリ

津輕海峽ヲ打渡リテ本州ニ入レバ日本北緯ノ表面ハ地層ノ陷沒ニ成レル平原及ビ海灣ニヨリテ五個ノ區域ニ分ル即チ北上山脈、阿武隈山脈、尾足山脈、上總安房三浦山脈及ビ關東山脈是レナリ

馬淵川及ビ北上川ノ縱谷ハ南北ニ走リテ中央線ヲ示ス此東ニアル表面ハ北上山脈ニシテ古ルキ水成火成ノ岩ヨリ成リ其原性ヲ呈ス第三紀層及ビ新火成岩ハ全ク欠乏セリ而シテ中生層ノ發達著シ

地層ノ方向言葉ヲ換ユレバ山脈ノ方向ニ並行スル谷ハ縱谷ニシテ之レヲ橫斷(直角又ハ斜メニ)スルモノハ橫谷ナリ

阿武隈川ノ縱谷ハ中央線ノ續キヲ示スモノナリ其東ハ日本北緯表面ノ一部ニシ

テ阿武隈山脈ト稱ス前者ト同シク高原性ヲ呈シ且古ルキ水成火成ノ岩ヨリ成レドモ顯著ナル中生層ノ存セザルト新火成岩及ビ第三紀層ノ配布所々ニ之レアルトハ北上山脈ト異ナレル所ナリ

中央線ハ阿武隈縦谷ヨリ那須野ニ入り關東平原ニ連續スルニ似タレドモ其實ハ宇都宮近傍ヨリ曲折シ日光及ビ中禪寺湖ヲ經テ足尾山脈ノ裏ヲ繞ルモノナリ是レ此山脈ノ構造ヲ見ルニ東北ヨリ西南ニ連ナリ整然タル地皮ノ皺波ヨリ成リ古ルキ水成火成ノ岩ヨリ組立ラレ全ク阿武隈山脈ノ餘波タル山脈ノ地質構造ト符合シ日本北彎表面ノ一部タルコト明ナレバナリ

上總安房三浦山脈ハ頗ル低卑ナル隆起帶ニシテ浦賀水道ノ爲メニ二分セラレ房總半嶋及ビ三浦半嶋ニ分ル其地質ハ新火成岩及ビ第三紀層ニシテ舊岩ノ露出ハ極メテ少シ

關東山脈ハ日本北彎ノ最南部ニシテ東南東ヨリ西北西ニ走レル數多ノ並行セル地皮ノ隆起帶ヨリ成リ本州ニ屬スル北彎表面中最高ノ部分ナリ主トシテ古生層ヨリ成ル此山脈ノ東端ヲ見ルニ西北西ヨリ東南東ニ向ヘル岩層突然横斷セラレ

テ地體陷落ス此陷落ハ關東平原ノ主タル起因ナルガ如シ然ルニ眼ヲ轉ジテ遙カニ東方ヲ望ムトキハ關東平原ノ東北ニ當リテ筑波八溝ノ諸連山ノ走レルモノアリ其方向ヲ見ルニ八溝ノ連山ニ於テハ地層ノ走向全ク阿武隈高原ノモノニ等シクシテ北ヨリ南ニ向フト雖モ之レヨリ南ニハ漸々右ニ曲リテ筑波ニ於テハ遂ニ西南ニ走リ彼ノ關東山脈ト連絡ヲ求メントスルノ勢アリ此ノ如ク平原ヲ隔テテ兩山脈ノ相對スルヲ見レバ其關東平原生成以前ニ在リテハ相連續シテ相共ニ彎曲セル一大山脈タリシコトハ疑フ可ラズ

以上述ブル所ニヨリテ日本北彎ノ表面ハ津輕海峽仙臺平原關東平原浦賀海峽ノ爲メニ分離セラレタル一彎形ヲナシ其方向ハ主トシテ南北ニシテ南ニ進ムニ從ヒ漸次西北西ニ向テ彎曲ス

日本北彎ノ裏面 日本北彎ノ裏面ハ全國ニテ地質構造最モ錯雜シ地皮ノ最モ變動ヲ受ケタル部分ナリ故ニ火山頗ル多ク温泉モ亦少カラズ其地層ハ主トシテ第三紀ノ凝灰岩ニシテ千米以上ニ達スルノ高峯ヲナスコト稀ナリトセズ是レニ由テ之ヲ觀レバ第三紀即チ地史上比較的新シキ時代ニ於テハ裏面ノ大部ハ海

底ナリシコト明カナリ而シテ古岩ハ恰モ海中ニ嶋嶼ノ散布セルガ如ク中央線ニ
 並行シテ凝灰岩及ビ新火成岩中ニ露出スルヲ見ル可シ斯ノ如キ古岩嶋嶼ノ列ハ
 本州ニ於テハ二隆起線ヲナシ其東ノモノハ太平洋及ビ日本海ノ分水線ヲナスト
 雖モ其高度ハ西ノモノニ劣リ低卑ニシテ著シキ連山ヲナサズ此分水山脈中最モ
 低キ所ハ猪苗代湖ノ東ニシテ海面上五百五十米ニ過ギズ兩隆起線ヲ結合シテ東
 西ニ走ル横走ノ山脈アリ是ニ因テ梯子形ヲナセル地形ノ排列ヲ生ジ即チ兩隆起
 線間ノ窪地ハ是等横走山脈ノ爲メニ切斷セラレテ數多ノ凹形ナル平地ニ分ル弘
 前能代川御物川山形米澤會津ノ諸平原是レナリ此等諸平原ニ集ル所ノ水ハ悉ク
 西邊ナル連山ヲ貫テ日本海ニ入ル

日本北緯ノ裏面ニ於ケル火山ノ排列ヲ見ルニ三並行線ヲナス即チ那須岩木彌彦
 ノ三火山脈ニシテ已ニ前回ニ説キタル所ナリ

富士帶 富士帶ニ就テハ前回ニ之ヲ述ベタリ本邦地質調査ニ與テ功勞アリシ
 獨逸人ナウマン氏ハ富士帶ノ本州ニ屬スル部分ヲ以テ大ナル地溝帶トシ之ヲ大
 溝ト名付ケタリ

地溝帶大ルモノハ數多ノ並行セル斷層ノ爲メニ地盤ノ分割セラレテ其一部分
 ガ兩側ニ於ケルヨリ深ク陥没セシモノヲ云フ富士帶ノ西邊ヲ見ルニ赤石山脈
 飛驒山脈急峻ナル斜角ヲ以テ空際ニ聳立シ恰モ絶壁ノ如キヲ以テナウマン氏
 ガ之ヲ以テ地溝帶ナリト想像シタルハ無理ナラヌ事ナレドモ其實ハ斯ノ如キ
 現象ニ非ラズシテ地溝帶ト稱ズベキモノハ僅カニ其一小部分タル天守駒ヶ嶽
 兩山脈ノ間ニ横ハレル富士川ノ縦谷アルノミ

立科八ヶ嶽四近ハ關東赤石兩山脈ノ相對スル所ナリ兩山脈ヲナセル古生層相
 接近シ唯北流スル宮川及ビ南流スル釜梨川筋ニ從ヘル一斷層ヲ以テ分離セラ
 ルルガ如シ特ニ注意スベキハ其岩層ノ走向關東山脈ニ於テハ一般ニ東南東ヨ
 リ西北西ニ向フト雖モ漸次彎曲シテ東西ノ方向ニ變ジ遂ニ八ヶ嶽ノ南麓ニ於
 テハ西南ニ走リ以テ赤石山脈ノ方向ト同一ノモノニ變移スルコト是レナリ

關東山脈ノ西南端ヲ見ルニ二個ノ大ナル陥落地アリ即チ甲府ノ平原及ビ富士山
 四近是レナリ此ニ陥落地域ノ間ニ御坂天守ノ二山脈アリ

御坂山脈ハ中生紀ニ屬スル噴出岩及ビ凝灰岩ヨリ成リ關東山脈ノ地盤管子峠邊

ニ於テ分離シタルモノニテ始メハ西ニ向ヒ漸次ニ南ニ轉ジ彎曲シテ遂ニ天守山脈ニ連續シ遂ニ赤石山脈ノ走向ニ並行ス是ニ由テ之ヲ觀レバ御坂山脈ハ關東山脈ノ餘波、天守山脈ハ赤石山脈ノ餘波ニシテ前者ノ左曲シテ後者トナルヲ以テ見レバ其日本南北兩彎ノ對面山脈タルコトハ明瞭ナリトス

甲府平原ハ其形狀凡ソ圓形ヲナシ山岳四方ヲ圍繞シテ桶底ノ如キ地盤ノ陷落ニヨリテ成リシモノナレバ所謂地槽陷落ニヨリテナリシモノナリ

富士四近ノ陷落地域ハ北及ビ北東ニ於テハ關東山脈ノ南部ヲ以テ圍繞セラレ桂川ハ此境界ニ沿フテ流ル又西北及ビ西ニ於テハ御坂天守兩山脈ヲ以テ界セラレ其中央ニ富士箱根等ノ火山アリ又主トシテ中生紀ノ噴出岩及ビ凝灰岩ヨリ成レル御坂及ビ丹澤山脈アリ此兩山脈ハ一方ニ於テハ關東山系ノ南部一方ニ於テハ淺間山四近及ビ燒山群山ハ何ゾ火山作用ノ發達劇甚ナルヲ蓋シ此ノ如キ現象ヲ呈出シタルモノハ他ナシ此處ハコレ富士帶ガ日本北彎ノ裏面ト結合シタル所ニシテ地皮ノ罅裂頗ル多キヲ以テナリ

文六ノ八六

文六ノ八七

信濃ニ於テ千曲川及ビ犀川ノ間ニ聳立スル山岳アリ稱シテ千曲連山ト云フ之ヲ構成スル地質ハ中生紀ノ凝灰岩火成岩及ビ第三紀層ト新火成岩ニシテ其地層ノ走向ハ東ニ於テハ東西ノ方向ニ走リ西スルニ從ヒ樺障山脈ニ並行シテ南北ニ走ル是レ亦富士帶四近ニ於テ日本南北彎ノ對面スル一證ナリトス

是ニ由リテ之ヲ觀レバ富士帶ハ一ノ地皮罅裂ニシテ噴火作用ニ富メルモノナリ而シテ其本州ニ屬スル伊豆半島以北ノ部分ハ南北彎ノ對面地ナルコトハ明カリトス

以上述ブル所ニヨリテ富士帶ハ其一小部分タル富士川ノ縱谷ヲ除クノ外地溝帶タルノ形跡之レアルヲ見ザルナリナウマン氏ガ地溝帶ナリト發言セシニ當リテ澳大利國ノ有名ナル地學者ジユース氏之ニ對シテ異議ヲ換ンデ曰ク是レ思フニ南北彎ノ對面地ナラシト是レ蓋シ當テ得タルノ考ナリシナリ嘗テ地質調査ノ際併セテ地磁力觀測ヲ行ヒタルニ富士帶四近ニ於テ著シキ差異アルニ似タリシヲ以テナウマン氏ハ愈大溝説ノ正當ナルコトヲ主張シタリシコトアリト雖モ最近之時ニ於テ本邦ノ物理學士ニ依テ測定セラレタル結果ニヨレバ此ノ如キ現象

之レアルコトナシ吾人固ヨリナウヤン氏ガ本邦地質調査ノ初期ニ於ケル功勞ヲ埋没スベカラズ然レドモ氏ノ大溝説ニ至テハ吾人ハ其事實ニ一致セザルヲ知ルナリ

人往々分水山脈ト那須火山脈トハ同一ナルヤ否ヤ抔ノ質問ヲナスモノアレドモ是レ火山脈ノ何タルヲ解セザルニヨリテ斯ノ如キ奇問ヲ發スルニ至レルナリ蓋シ火山脈ハ地皮ノ隆起ヨリ成レル地層褶曲ノ山脈ト異ナリテ地皮ノ裂線ニ沿フテ出デタルモノナルヲ以テ其火山峯ノ走勢ハ相連續スルコトアリト雖モ其火山峯嶺ノ綿々トシテ連ルコトハ極メテ稀ナリトス而シテ地皮ノ裂線ナルモノハ地皮隆起帶ナル褶曲ノ山脈ノ方向ニ並行シテ此中ニ現ハレ或ハ之ヲ横斷スルモノナリ此事ハ地文學山脈生成ノ條下ニ之レヲ述ブ可シ而シテ彼分水山脈ナルモノハ地皮ノ隆起帶ナル山脈ナリ今日ニ於テハ火山噴出物其他ノ爲メニ掩ハレテ地表ニ露出セズシテ點々島嶼ノ如ク存在スル古層ニ依テ示サレ居ルト雖モ那須火山脈ナルモノハ此分水山脈ニ沿フテ其中ニ現ハレ居ルモノナリ

文六ノ八八

文七ノ七九

●日本南嶺ノ表面 富士帶以西ナル日本南嶺ノ表面ヲ見ルトキハ天龍川大井

川ノ水源地方ヨリ紀伊半島四國九州南部ニ連續シ薩摩ノ飯島ニ及ベル一ノ地帯ニシテ其骨髓トモ稱スベキハ片麻岩結晶片岩ノ如キ古キ水成岩火崗岩ノ如キ古キ水成岩ヨリナリ古生層間ニハ中生紀ニ屬スル水成岩層小區域ヲオシテ所々ニ發達シ其中生層ノ分布ヲ通覽スレバ亦古ルキ中軸ノ地層ニ沿フテ帶狀ノ排列ヲオセルモノノ如シ

中軸ノ地層ハ最モ古ルキ水成岩ナル太古層ヨリ成ルコト已ニ之ヲ述ベタリ此地層ヨリ構成セラレタル部分ヲ考フルニ西ハ肥後國ノ南部ニ少シク其端緒ヲ露ハシ之レヨリ北東ニ向セ豊後國佐賀關ノ西方ニ至ルマデハ他ノ地層ノ爲メニ掩ハレテ時々其跡ヲ示スノミ佐賀關近傍ニ於テ稍顯著ナル發達ヲナシ一タビ豊後海峽ニ於テ切斷セラレ伊豫ニ打渡リ佐田岬ヨリ東進シテ四國半島ノ中央ヨリ少シク北邊ヲ貫キ以テ阿波ノ徳島ニ至ル是ニ於テ再ビ紀伊水道ニ依テ切斷セラレ紀伊半島ニ打渡リ和歌浦ヨリ紀ノ川ノ南岸ニ沿ヒ以テ志摩ニ至ル是ニ於テ三タビ伊勢海ノ爲メニ接斷セラレ三河ノ地ニ入り此ニ於テ是レマデハ西南西ヨリ東北

東ニ向ヒ來リシ地層ハ漸々彎曲シ遂ニ北々東ニ向ヒ天龍川水源ノ東諏訪湖ノ近傍ニ於テ富士帶ニ終レリ然ラバ則チ以上陳述シタル地帯ハ其最西ナル部ヨリ志摩ニ至ルマデ殆ンド一直線ヲナシ伊勢内海ノ東邊ニ於テ一個ノ彎形ヲナシ凸圓形ヲ以テ太平洋ニ向ヒ伊勢内海紀伊水道豊後海峡ヲ以テ三タビ切斷セラレタルモノナリ

本邦ノ地圖ヲ開クモノハ常ニ紀伊半島四國及ビ九州半島ノ地形ノ密似セルコトヲ見ルベシ是等ノ土地ハ單ニ外形ニ於テ相似タルノミナラズ一タビ實地ヲ踏査シタルモノハ其地勢ニ於テ實ニ一致セルモノアルヲ感ゼザルハナシ請フ見ヨ紀伊半島ノ沿岸四國ノ東西兩岸九州南部ノ東岸ハ其沿岸犬牙錯綜出入頻繁ニシテ皆地層ノ走向ニ沿ヒ突出シタル岬角凹入シタル小灣ヲ以テ緣取ラレタルニ非ズヤ斯ノ如キ海岸ハ獨逸地學者ノ所謂リアスキュラシナル種類ニ屬スルモノナリ又見ズヤ紀伊半島ニ屬スル熊野川ノ谷十津川ノ谷四國四萬十川ノ谷九州五箇ノ谷ノ如キ其幽邃ノ風色急峻ノ側壁水蝕ノ有様等ニ於テ全く同一ノ標式ニ屬スルニ非ズヤ彼紀伊川ノ縱谷吉野川ノ縱谷共ニ全ク同一ノ式ヒヨリテ成レリ四國

文七ノ八〇

文七ノ八一

山脈紀伊山脈九州南部山脈ノ如キ何レモ等シク高原性ヲ帶ビ火山質ヨリ成レル諸峰ノ如ク甚シキ高低アルモノハ稀ナリ斯ノ如キ所以ノモノハ他ナシ全く地層構造ノ同一ナルニ由來セルモノナリ

日本北緯ニ於ケル如ク南緯ニ於テモ亦一個ノ著明ナル中央線アリ以テ裏面ト表面トヲ分ツ此中央線ハ伊勢内海以東ニ於テハ天龍川ノ上流及ビ豊川ノ方向ニ沿フ其表面ハ即チ赤石山脈ナリ赤石山脈ハ地質構造上大ニ關東山脈ニ類似シ其裏面ニ接スル所ニ於テハ最古ノ水成岩ナル片麻岩及ビ結晶片岩ノ外古ルキ火成岩ナル花崗岩ヨリ成リ其東南部ニハ片麻岩結晶片岩ニ次テ古ルキ古生層ノ皺ヨリナレリ

伊勢内海以西ニ於テハ中央線ハ殆ンド一直線ヲカシ紀伊半島ヲ貫キ大阪灣ノ南岸ニ至リ紀伊水道ヲ打渡リ淡路ノ中央ヲ貫キ四國ノ北岸ニ從テ走レリ

紀伊山脈四國山脈ハ共ニ高原性ヲ呈シ其山脈ノ各部ニ著シキ高低ナシ其地質構造ヲ見ルニ非常ニ相一致シ北邊ニハ片麻岩結晶片岩ノ如キ最古ノ水成岩アリ其南ニハ整然タル皺ヲナセル古生層アリ而シテ古生層地帯ノ兩面ニ中生層ノ所々

ニ分布セルヲ見ル最近ノ調査ニヨレバ是等中生層ノ分布ハ一個ノ帶狀排列ヲナスヤ疑ナシ

豊後海峡ヲ渡レバ中央線ハ大分ノ近邊ヨリ阿蘇山ノ南麓ニ沿ヒ八代ノ南ニ走ル九州ノ地質ヲ見ルニ其表面ニ屬スル部ハ大ニ四國紀伊ノ山脈ニ密似シ其地質構造全ク同一ナリ即チ北部ニ結晶片岩ノ中軸アリ此南ニ古生層アリ此古生層ノ中ニハ所々ニ中生層アリテ其分布ノ狀四國及ビ紀伊ニ於ケルト同ジク帶狀排列ヲナス此日本南嶺ノ南端ハ霧島帶ノ近傍ニ於テ琉球嶺ト結合シ其結合スルニ由テ又對曲ノ現象ヲ起スコト恰モ日本南北兩嶺ガ富士帶近傍ニ於テ對曲スルト其趣全ク相同ジ

日本南北兩嶺ノ表面ノ差異 日本南嶺ノ表面ト北嶺ノ表面トハ前ニ述ベタル如ク其地質構造密似セリト雖モ又或ル點ニ於テ差異ノ存スルアリ第一日本北嶺ハ縱谷ニ乏シキニ反シテ南嶺ノ表面ハ非常ニ顯著ナル縱谷ヲ有ス大井川宮川紀伊川四國ノ吉野川ノ如キ其最タルモノナリ第二南嶺ノ表面ニハ特別ナル圓形ノ海灣ヲ四國ノ南岸ニ於テ室戸崎、嵯陀岬間又蒲生田崎、室戸崎間及ビ紀伊

ノ東南岸ノ如キ是レナリ斯ノ如ク沿岸ノ凹ミタル圓形ヲナス所以ハ圓形ナル地體陷落ニ歸スルモノナリ北嶺ニハ更ニ斯ノ如キ圓形ノ海灣ヲ見ズ

日本南嶺ノ裏面 日本南嶺ニ於テモ其表面ト裏面トノ地質構造ノ差ハ猶北嶺ニ於ケルト同一ノ現象ヲ呈セリ即チ表面ハ地皮ノ整然タル皺波ニナリテ火成岩ノ噴出ニ乏シト雖モ裏面ハ地體ノ變動ニ富ミ火成岩ノ噴出頗ル多シ即チ南嶺ノ裏面ト北嶺ノ裏面トハ其地質構造ニ於テ密似セルモノナリ

南北嶺裏面ノ差異 北嶺ノ裏面ニ於テハ最モ古ルキ時代ノ水成岩即チ片麻岩及ビ結晶片岩ノ露出頗ル少シ唯岩代羽前兩國ニ跨リテ吾妻山四近ニ少シク之レアルノミ其他北海道ニ狭少ナル面積ヲ占ム之ニ反シテ斯ノ如キ最古層ハ九州中國飛騨等ニ於テハ屢々少カラザル露出アリ是レ南北嶺裏面ノ差異ノ第一ナリ又南嶺ノ裏面モ固ヨリ新舊ノ火成岩ニ乏シカラズト雖モ之ヲ北嶺ノ裏面ガ非常ニ此岩石ニ富メルニ此スレバ到底及ブ所ニ非ズ特ニ新火成岩ニ至リテハ九州ノ阿蘇溫泉ニ岳ヲ始メ其他所々ニ噴出ノ區域之レアリト雖モ然レモ之ヲ花崗岩ノ如キ落火成岩ノ露出夥シキニ此スレバ甚シキ差異アリ此嶺ノ裏面ニ於テハ斯ノ

如キ現象ナク新火成岩非常ニ多キコト南緯ノ裏面ニ勝リ又新火成岩ハ舊火成岩ヨリモ廣大ナル面積ヲ占ム是レ南北緯裏面ノ差異ノ第二ナリ
 北緯ノ裏面ニ於テハ廣大ナル第三紀層ノ分布アリテ殆ンド全體ニ亘レリ而シテ舊ルキ時代ノ岩石ハ此第三紀層ノ中ヨリ所々ニ狭小ナル區域ヲナシテ露出シ恰モ第三紀層ノ大海中ニ舊岩ノ小嶋嶼アルガ如キ觀ヲ呈スルハ日本ノ地質圖ヲ披クモノ、常ニ見ル所ナリ南緯ノ裏面ニ於テハ然ラズ第三紀層ヲ配布ハ之ヲ北緯ノ裏面ニ比シテ非常ニ狭小ニシテ現今ノ沿岸或ハ内陸ニ小區域ヲ占領スルノミ故ニ舊岩ノ廣瀾ナル陸地ノ中ニ第三紀ノ時代ニ於テ數多ノ内海又ハ湖アリシガ如キ觀ヲ呈ス是レ南北兩緯裏面差異ノ第三ナリ
 又化石ヲ含有スル中生層ノ配置ヲ見ルニ北緯ノ裏面ニ於テハ飛驒山系ノ東麓即チ信濃安曇郡ニ植物化石ヲ含メル侏羅層アルノミ更ニ南緯ノ裏面ヲ調査スレバ此侏羅層ハ美濃飛驒ノ高原ノ北西部ニ於テ廣大ナル面積ヲ占メ其他中生層ハ所々ニ分布セラレ其排列又一ノ帶狀ヲナスモノ、如シ是レ南北兩緯裏面差異ノ四ナリ

文七ノ八四

文七ノ八五

南緯裏面ノ地形上最モ人ノ注意ヲ惹クハ琵琶湖ヨリ淀川瀬戸内九州ノ大分以北ニ及ベル一窪地帯ナリ其北ニアル山脈ヲ中國山脈ト云フ中國山脈ハ敦賀ノ南ナル柳ヶ瀬峠ヨリ起リ西ニ突出スル半嶋ノ骨髓ヲナス此窪地帯ハ地學者ノ瀬戸内地溝帶ト稱スルモノ是レナリ
 瀬戸内地溝帶ハ特ニ大切ナルヲ以テ余ガ「天地人」第二號及ビ第三號ニ投書シタル「地學上ノ瀬戸内海中ヨリ二三ノ節ヲ抄録スベシ」
 日本ノ南北緯ヲ隆起セシメタル造山力ハ如何ニシテ生ジタルカ造山力ハ即チ地皮ノ横壓力ナリト云ヘバ斯クハ如キ地皮ノ横壓力ハ如何ニシテ生ジタルカ蓋シ弓形ヲナセル日本群嶋ノ構造ヲ見ルニ其太平洋ニ面セル側ハ凸ナル側ニシテ其日本海ニ面セル側ハ凹ナル側ナリ是レ地皮ノ横壓力即チ造山力ガ日本海方面ヨリ太平洋方面ニ向テ活動シタルノ結果ナリトス思フニ此造山力ハ主トシテ日本海ノ陷落與テ力アルモノ、如シ抑モ日本海ノ一陷落區域タルコトハ已ニ原田博士ノ明言セラレタル所ナリ蓋シ亞細亞大陸東岸ニ於ケルト同一ノ化石ヲ有スル地層ヲ我國ニ於テ播布少カシザルコト及ビ東邦東岸ハ比較的急峻ナル角度ヲ以

テ彼世界最深ノ故ヲ以テ有名ナルタスカロエ海床ニ接セルコト、朝鮮海峡ノ深サハ百尋ヲ超ヘザルコト其他生物地理學(動物植物ノ播布等)上ノ證據ニヨリテ之ヲ考フレバ本邦ノ地體ハ往古ノ時代(地質學上ニテハ比較的新シキ時代)ニ於テ亞細亞大陸ト連續シ此大陸地區ノ東部ヲナシタルモノナルヲ疑フ容レシ日本海ニシテ一ノ陷落區域ナリトセバ本邦地體ノ弓形ニ平行セル數多ノ火山脈ノ如キハ此陷落地域ニ並行シタル罅裂ニ由來セルモノニ外ナラズ蓋シ日本海ノ陷落ハ地皮一部ノ褶曲トナリテ本邦ノ脊骨ヲナセル山脈ヲ造成シ之ト共ニ幾多ノ罅裂ヲ生ズルニ至リタリ是等ノ罅裂ハ或ハ山脈ヲ橫斷シ或ハ之ヲ斜斷スルモ多クハ之ト並走スルヲ常トス而シテ其罅裂線ノ性質ニ至テハ或ハ單一ナルモノアリ或ハ複雜ナルモノアレモ往々相並行セルモノアリ蓋シ瀬戸内海ハ本邦山脈ノ主軸ニ並行セル並行罅裂線間ノ地盤深ク陷落シタルガ爲メニ生ジタルモノナリ

瀬戸内海ノ性質ヲ見ルニ北ニハ中國山脈蜿蜒トシテ山陰山陽兩道ノ界ニ横ハリテ高臺狀ヲナシ南ニハ四國山脈連亘シテ四國ノ中軸ヲナシ此兩山脈ノ間ニ狹クシテ溝狀ノ凹窪地ヲナセリ是レ地形上ノ特性ナリトス更ニ地質構造上ヨリ觀察

スルニ南方四國山脈ノ地層ハ整然トシテ相重リ地層ノ陷沒變位乏シキニ反シ瀬戸内海ノ嶋嶼及ビ其沿岸地質ハ錯雜一ナラズ陷落シタルノ跡變位シタルノ徵歷々トシテ之ヲ指示ス可シ就中地質變動ノ著シキハ火山岩ノ饒多ナルコト是レナリ玄武岩、安山岩、石英粗面岩等ヲ始メ數多ノ火山岩ハ花崗岩、古生層、第三紀層等水成火成ノ諸岩ヲ貫テ噴出セリ試ニ農商務省ノ元地質調査所ニ於テ刊行シタル豫察西部地質圖ヲ披テ瀬戸内海地方ノ地質ヲ一見セバ火山岩ノ發生如何ニ夥多ナルカヲ知ルニ足ラン而シテ是等火山岩ノ大部ハ瀬戸内海ノ地形ニ沿ヒ約テ東西ノ方向ニ現出セリ是レ地溝帶ハ地皮ノ弱所ナルヲ以テ火山岩ハ此中ヲ貫通シ地溝帶ノ方向ニ並行セル罅裂ニ沿フテ填出シタルヲ以テナリ

斯人如キ奇異ノ地形ト錯雜セル地質トハ瀬戸内海ノ地溝帶タルコトヲ證明スルニ足ルモノナリ而シテ此地溝帶ノ陷沒區域ハ單ニ瀬戸内海ニ止ラズ東ニハ畿内ノ平原ヲ經テ琵琶湖ニ至ルノ窪地ヲナシ西ニハ九州ノ地域ニ進入シ豊後肥後ノ北部ヲ占ム琵琶湖ノ西岸ヲナセル比良嶽神戸市ノ後ニ屹立セル花崗岩ノ峻峰ハ稍此陷沒地域斷層ノ縁タルヲ信ゼシメ又近時巨智部博士ハ神戸市ノ北方ニ湧出

スル炭酸泉ハ此縁ニ沿フテ噴出スルモノナルヲ説キ諸般ノ徵證ヲ舉ゲテ之ヲ地
 學雜誌上ニ論ゼラレタリ要スルニ地學上ノ瀬戸内地溝帯ハ琵琶湖ニ至ルマデヲ
 包括シ琵琶湖モ亦口碑ノ傳フル如ク一大陥沒地ニ外ナラズ瀬戸内地溝帯ノ四方
 ニ延長セル部即チ豊後肥後ノ北境ニ於テハ水山岩ノ噴出劇甚ニシテ阿蘇山英彦
 山ノ如キ高峻ナル山岳峙立セルヲ以テ今日ハ巴ニ窪地タルノ外觀ヲ缺クト雖モ
 是等火山岩ノ噴出ヲ除クトキハ瀬戸内地溝帯ハ遠ク有明沖ニ至ルマデ連続スベ
 キナリ尙天地人第二號百十三頁乃至百十八頁及ビ第三號九十一頁乃至九十五頁
 フ参照スベシ

瀬戸内地溝帯ニ就テハ尙一言ヲ附記ス可シ讃岐小豆嶋屋嶋五劍山等ニ於テ第三
 紀ニ屬スル安山岩質巒岩ノ花崗岩上ニアリテ殆ンド一平面ヲナスヲ以テ見レバ
 昔時陸績シタリシ一個ノ層タルコトヲ證シ且瀬戸内沿岸ニ於テハ第三紀層ノ變
 動ヲ受ケシコト中國北岸ノモノヨリ烈シキヲ以テ見レバ瀬戸内地溝帯成立ノ變
 動ハ地史上ノ近時即チ第三紀層沈澱ノ後ニ至ルマデ其餘波ヲ及ボセシコト明カ
 ナリ而シテ其成立ノ前ニ於テ地體ニ不規則ナル罅裂アリ爲メニ數多ノ地塊ニ分

裂シテ其各地塊ノ陥沒各不同ナリシ爲メナリ瀬戸内海ノ絶勝ヲ致セル群島海ハ
 實ニ斯クノ如クシテ成長シタルナリ

瀬戸内地溝帯ノ以東ニアル南緯裏面ノ區域ハ地質ノ構造頗ル錯雜ヲ極メタリ而
 シテ富士帯ニ接續シテ南北ニ連レル本邦ノ最高山脈アリ之ヲ飛驒山脈ト云フ越
 後ノ西部ヲ流貫スル姫川ノ深溪ヨリ西方ヲ望ンデ此山脈ノ聳立スルヲ見ルトキ
 ハ恰モ屏風ヲ立ツル如キ非常ナル絶壁ヲナシ其秀峯ハ往々三千米以上ニ達シ越
 後信濃及ビ越中飛驒ノ國境ニ於テハ人馬ノ通行ヲ許ササル如キ天然ノ隔壁ヲナ
 セシ飛驒山脈ハ主トシテ花崗岩安山岩ノ如キ新舊ノ火成岩ト古生層トヨリ成リ
 南ヨリ北ニ連レル糸魚川泊間ノ急崖ニ於テ突然トシテ横斷セラレテ日本海ニ陥
 レリ

飛驒山脈ハ又遙カニ南方ニ延長セルヲ見ル而シテ其延長部ニシテ鳥居峠以南ニ
 於ケルモノヲ稱シテ木曾山脈ト云フ木曾山脈ハ一方ニ於テハ木曾川一方ニ於テ
 ハ天龍川及ビ豊川ノ分水界ヲナシ其走向ハ北々東ヨリ南々西ニ連リ其幅ハ南ス
 ルニ從テ漸々其廣キヲ加ヘ伊勢海ノ東北部ニ至テ此山脈ハ終リヲ告グルナリ其

山脈中ノ最高點ハ駒ヶ嶽及ビ惠那山ニシテ其高度ハ各二千三百米内外ナリトス
 此山脈ハ主トシテ片麻岩ノ如キ最古ノ水成岩ト古生層及ビ花崗岩トヨリナリ其
 走向ハ大概赤石山系ニ並行セリ即チ北部ニ於テハ北ヨリ南ノ方向ニ走リ南方ニ
 至ルニ從テ北東ヨリ南西ノ方向ニ向フヲ常トス飛驒木曾兩山脈ヲ觀察スルニ其
 其東側ハ姫川ノ谷松本平天龍川ノ谷豊川ノ谷ニ向テ急斜シ其西側ハ規則正シキ
 地層ノ皺波ヨリナレル一大高原狀ヲナス此高原ノ區域ハ飛驒ノ全部美濃ノ大半
 及ビ之ニ接近スル越中加賀越前近江ノ部ヲ含有ス故ニ之ヲ稱シテ美濃飛驒高原
 ト云フ之ヲ構成スル地質ハ主トシテ片麻岩及ビ結晶片岩ノ如キ最古層ヨリナル
 其上部ニ厚キ古生層アリ彼片麻岩等ノ古層ハ其飛驒ノ部ニ多ク古生層ハ其美濃
 ノ部ニ多ク其走向ハ東北ヨリ西南ナリ而シテ舊火成岩ノ噴出頗ル多ク又新火成
 岩ノ噴出モ亦少カラズ而シテ地質上特ニ注意スベキハ飛驒越前加賀越中ニ露出
 スル侏羅層ナリ此層ハ植物化石ヲ含ミ砂岩及ビ頁岩ノ累層ヨリ成ル其化石ヲ含
 むルヲ以テ特ニ大切ナリ
 美濃飛驒高原ノ南部ニ接シテ一大窪地アリ即チ美濃尾張ノ低地ト伊勢内海及ビ

其沿岸ノ低地ト是レナリ

此窪地ノ西ニ接シテ正三角形ノ地體アルヲ見ルベシ此正三角地體ノ弦ハ西北ニ
 アリテ琵琶湖淀川及ビ和泉洋ニ接シ其股ハ彼中央線ニシテ紀伊山脈ニ接セリ又
 其股ニ並行シテ南北ニ連レル三箇ノ小山脈アリ養老山脈笠置山脈葛城山脈是レ
 カリ養老笠置兩山脈ハ間ニハ伊賀ノ低地アリ而シテ養老山脈ハ關ヶ原ニ於テ美
 濃飛驒高原ノ西南隅ニ連リ此山脈ハ彼三小山脈中ニ在テハ最モ大ナルモノナ
 リ
 瀬戸内地溝帯ノ北ニ接スル中國山系ハ凸凹起伏一ナラズト雖モ概スルニ高キ山
 岳ナク又大ナル山岳ナシ就中千五百米以上ニ達スルノ高峰ハ至テ稀ナリ而シテ
 山脈ノ主軸ハ比較的北方ニ偏シ且海岸ニ並行シ以テ日本海ト瀬戸内トノ分水線
 ヲナセリ此山脈ヲ横斷シテ流ルモノハ僅カニ江川アルノミ江川ハ此山脈主軸
 ノ南ナル備後ノ一部ニ發シ北西ニ流レ石見ニ於テ日本海ニ入ル而シテ此山脈中
 所々ニ聳立スル秀峰ニハ往々火山アリ是レ白山火山脈ハ通過スル所ナレバナリ
 伯耆ノ大山ハ山陰山陽第二ノ高山ナリト稱ス其高サ千六百四十四米ニ達スル死

火山ナリ中國山系ノ構造ヲ見ルニ整然タル地層ノ皺波ヲナシ主トシテ古生層及
 ビ花崗岩ヨリナリ其他新舊ノ火成岩モ亦所々ニ之ヲ貫ケリ此等火成岩ノ排置ヲ
 見ルトキハ其東西ノ方向ニ大ナル緯裂アルノ證ヲ有セリ又中生代中三疊紀ニ屬
 スル砂岩及ビ頁岩アリテ備中國川上郡成羽ノ近傍ニ於ケル如ク不整合ニ古生層
 ヲ掩フモノアリ

九州ノ瀬戸内地溝帶以北ノ部分ハ其地質構造ノ等シキヨリ之ヲ見ルモ全ク中國
 山脈ノ東南ニ連續シタルモノナルコト疑ナシ但シ此區域ニ於テハ中國ニ於ケル
 ト特ニ異ナレル一大事實アリ即チ九州ニハ重要ナル石炭層アリテ筑前筑後豊前
 肥後ニ於テハ廣大ナル炭田ヲ作レリ

南灣裏面ニ於ケル噴火脈ノ排置ヲ見ルニ四條ノ噴火脈アリ阿蘇火山脈御岳火山
 脈白山火山脈能登火山脈是レナリ其他尙所々ニ噴火山アリ是レ已ニ條下ニ於テ
 述ベタル所ナリ

以上ハ是レ原田博士日本地質構造論ノ本論ナリ吾人ハ殆ント二三ノ點ヲ除クノ
 外原文ノ儘ニ之ヲ陳述シタリ

博士ノ説ハ日本群嶋ノ弓形ハ單一ナル彎ヨリ成ルニ非ズシテ千嶋彎(日本北緯
 日本南緯琉球彎等)ノ諸彎ト富士帶霧島帶千島帶の如キ火山ニ富メル地帯トヨリ
 ナレルヲ示セリ思フニ日本地質構造論出デテヨリ今日ニ至ルマデ殆ント十年ナ
 ヲマン氏ノ創業和田氏ノ經營原田博士ノ監修ヲ經テ巨智部博士ノ之ヲ承クルニ
 及ビ其間本邦ノ地質調査事業ハ駸々乎トシテ日ニ步ヲ進メ實用ノ物料ヲ發見シ
 テ國家ノ需用ニ應ズル所以ノモノ日一日ヨリ多シ加フルニ帝國大學ノ教授諸師
 ハ其專攻ノ學識ヲ以テ深遠ノ研究ヲ專ニシ地史ノ幽ヲ開キ秘ヲ顯ハシタルモノ
 亦日一日ヨリ盛ナリ特ニ火山ニ關スル研究ハ震災豫防調査會ノ囑ニヨリテ我地
 質學者ニヨリテ大ニ步ヲ進メタリ是ニ於テ乎既ニ蒐集セラレタル材料ト發見セ
 ラレタルノ事實トニヨリテ原田博士ガナウマン氏ノ單純ナル日本地質構造論ヲ
 反古ヒシタルノ日本地質構造論ヲ唱ヘタリシガ如ク更ニ百尺竿頭一步ヲ進メタ
 ル日本地質構造ノ新論ガ世ニ出シトハ蓋シ遠キニ非ルベシ

日本地質構造ノ新論ガ何人ノ手ニヨリテ如何ナル時ニ顯ハルルモノナルニモセ
 ヲ吾人ハ其新論ニ於テハ第三紀層ノ配布ニ特ニ重キヲ置キタルモノナルベキコ

ト及ビ日本ノ地質構造ハ從來想像シタルヨリモ一層複雑ナル地皮ノ罅裂陥没及
 ビ之ニヨリテ生シタル褶曲ニヨリテ説明スベキモノナルコト此二ツノ事柄ハ吾
 人ノ爰ニ豫言スルヲ憚ラザル所ナリ蓋シ本邦ノ地史ニ於テモ其變動ノ最モ甚ダ
 シカリシハ第三紀ノ時代ニ於テセシコトハ之ヲ先輩ノ定論ニ徴スルモ昭々トシ
 テ明カナリ然ラバ則チ此第三紀層ノ配布ヲ研究センコトハ特ニ必要ナルハ固ヨ
 リ言フ待タザル所ナリ而シテ此配布ノ細別ヲ論ズルハ化石ノ證ニヨルヲ以テ最
 モ正當ナリトス何トナレバ第三紀ノ地質ハ大抵砂岩頁岩凝灰岩ニシテ何レモ岩
 質非常ニ相似タルモノニシテ其細別ノ如キハ化石學ノ助ケヲ借ルベキモノ
 ナレバナリ夫レ我國第三紀化石ノ比較的饒多ナルハ斯學ニ入ルモノノ皆首肯ス
 ル所而シテ本邦全般ヲ炭層ト幾多ノ鑛床トハ殆ンド皆第三紀層ト密接ナル關係
 ヲ有セリ然ルニ從來我邦第三紀以後ノ化石誌最モ少キノ憾アリシナリ淺井郁太
 郎氏甲斐ノ國ニオービトイドト稱スル化石ヲ含有セル石灰岩ヲ發見シ吾人ヲシ
 テ我國ニ第三紀層中ノ始新層アルコトヲ信ゼシメブラウンス氏(モト東京大學地
 質學ノ教師)ノ東京地質編ナトリルスト氏(瑞典ノ有名ナル化石學者)ノ茂木植物編

ハ吾人ヲシテ中新層最新層アルヲ知ラシメナウマン氏我邦地質調査事業創立ノ
 際監督者タリシ人ノ日本象齒編ハ吾人ヲシテ日本洪積層或ハ第三紀層ノ存在ヲ
 確認セシメタリ近時大學院學生吉原重康氏專ラ本邦第三紀ノ化石ヲ攻究セラル
 思フニ本邦第三紀層ノ化石學ハ單ニ地質構造論ノ上ヨリスルモ前途頗ル有望ナ
 リト云フベシ

原田博士ハ其日本地質構造論ノ局ヲ結バルルニ際シテ左ノ如ク斷論セラレタリ

弓形ヲナセル日本群島ノ地體ニハ數多ノ罅裂アリ就中最モ著シキハ富士霧島ノ
 二帶トス霧島帶ハ琉球彎ヲ裏面ノ方向ニ向ヒテ連續シ富士帶ハ南ニ向テ一帯ノ
 淺海ヲナシ遠ク大洋州中ノマリアナ列島ニ達ス前者ハ日本ノ弓形ヲ縱斷スル大
 罅裂ニシテ後者ハ之ヲ橫斷スル大罅裂ナリ(原田博士ハ霧島帶ヲ以テ橫斷ノ罅裂
 トシテ論ゼラレタレドモ最近地質調査ノ結果ニヨレバ一ノ縱斷的罅裂ナリ博士
 ニシテ今尙生存セラルルナラバ此說ヲ訂正セラレタルヤ疑ナシト信ズ)而シテ日
 本群島ノ地質ヲ縱斷スル罅裂ハ尙此外ニ頗ル多シトス其最モ著シキハ彼中央線

ナリトス中央線ノアル所ハ或ハ斷層ヲ以テ或ハ窪地ヲ以テ外形ニ見ハレ以テ表裏兩面ヲ界セリ其表面ハ主トシテ規則正シキ地層ノ皺波ヨリナリ新火山岩ノ迸發及ビ溫泉ノ湧出ノ如キハ特ニ稀有ナリ(蓋シ磐城平ノ近傍ニハ湯ノ岳ト稱スル山アリ火山岩ヨリ成ル又平ヲ距ルコト遠カラズシテ湯本ト稱スル所ニハ溫泉アル如キハ外面ノ地體ニ在テハ寧ロ例外ニ屬スルノ現象ナリ)然ラバ則チ外面ノ地體ニハ地皮ノ變動之レアラザルカ、曰ク然ラズ所々ニ之ヲ橫斷セル罅裂アリ陷落アリ津輕海峽、仙臺ノ窪地、關東平原、伊勢内海、紀伊海峽、豊後海峽ノ如キ其最モ著明ナルモノナリ而シテ是等表面橫斷部ニ於テ地震最モ多シ是レ地皮變動未ダ全ク閉息セザル所ナレバナリ

裏面ニ於テ地層ノ規則正シキ皺波ヨリナレルハ唯美濃飛騨高原及ビ中國ノ地體アルノミ而シテ其地質ノ構造ヲ見ルニ皆複雑ナル地質ノ變動ヨリ成リタルモノナリ本州ノ北翼ニ於テハ連山階狀ノ如キ排列ヲナシ日本南端ニ於テハ瀬戸内地溝帶ノ如キ陷没ヲ生ゼリ又裏面ハ頗ル新舊ノ噴出岩ニ富ミ南北彎ヲ通ジテ共ニ火山脈頗ル多シ而シテ溫泉ト火山トハ密接ナル關係ヲ有スルモノナルヲ以テ溫

七八ノ八〇
七八ノ八一

泉ノ所在地ハ専ラ裏面及ビ富士、霧嶋兩帶ノ地方ニ存セリ火山及ビ溫泉ハ同一ナル現象ノ兩極ニ非ズヤ噴火力ノ強弱ニヨリ兩極ノ間ニ數多ノ種類アリ熔岩ヲ流出スル活火山アリ硫質汽狀又ハ炭酸質ノ噴氣孔アリ而シテ瀛狀噴氣孔ト溫泉トハ間髪ヲ容レサルノ二現象ナリ彼ノ熱海ノ間歇溫泉ノ如キハ其性質汽狀噴氣孔ニ密似セルハ實地ヲ目撃シタルモノノ容易ニ首肯スル所ナリ而シテ近來本邦火山ノ破裂ハ其二三ノモノヲ除キ大抵真正ナル噴火トシテ見ルベカラズ僅カニ平日湧出スル溫泉ノ一時ニ烈シキ硫質噴氣孔ニ變ジタルモノニ過ギザルナリ(尙此事ニ就テハ拙著新撰地文學ノ中ニ於テモ之、論置キタリ)

本邦鑛脈ノ配置ヲ見ルニ表面ノ地帶ニ於テモ全ク之レナキニ非ズト雖其最モ多キハ裏面ナリトス

是レ蓋シ偶然ニ然ルニハ非ルナリ蓋シ鑛脈ノ原因ハ鑛泉ノ作用ナルコトハ鑛床學上最モ然ルモノニシテ而シテ溫泉ハ單純ニシテ一物ヲモ含有セザルハ殆ンド例外ニ屬シ大抵皆鑛泉ナレバナリ而シテ溫泉ハ火山ト密接ナル關係アルコト已ニ之ヲ前ニ述ベタル如シ宜ナルカナ本邦鑛脈ノ裏面ニ多キコト今夫レ奥羽地方

ノ鑛脈ハ阿仁院內草倉ノ如キ何レモ殆ンド第三紀以後ニ迸發セシ火山岩或ハ其
凝灰岩ハ存スルニ非ズヤ陸奥湯ノ澤鑛山ハ坑内ニ溫泉ノ噴出スル爲メニ採鑛ニ
苦シミタリシニ非ズヤ又見ズヤ中國地方ノ大鑛脈生野及ビ大森ノ如キハ何レモ
其鑛脈ハ火山岩中ニアルニ非ズヤ

本邦ハ世界ニ於テ有名ナル地震國ナリ而シテ本邦地震ノ最モ頻繁部分ハ何處ニ
アルカ是レ蓋シ前ニモ述ベタル如ク關東平原仙臺平原陸奥北部半嶋北海道根室
半嶋甲府平原美濃尾張平原紀伊阿波ノ沿岸等ナリ即チ本邦地震ノ烈シキ區域ハ
專ラ日本南北緯表面ノ地帶陷落ノ爲メ横斷セラルル地方及ビ富士帶ナリト云フ
モ可ナラン歟故ニ本邦ノ地震ハ火山地震ヲ除クノ外盡ク地這リ地震ニ屬スルモ
ノナリ

日本ノ北翼ニ於ケル地震ノ源ハ多ク東ノ沿岸四近ニアリ果シテ然ラバ彼ノ有名
ナルトスカロラ海床ニ接スル海底部ハ地震ト重要ナル關係ヲ有スベキモノナラ
ン是レ吾人ノ大ニ注意スベキ所ナリ

東京四近ニ地震多キコト全國第一ナリ而シテ其震動ノ來レル方向ヲ見ルニ專ラ

東南又ハ南ヨリスルモノ、如シ是レ少クトモ原田博士ガ日本地質構造論ヲモノ
セラレタル當時マデノ觀測ノ結果ニ於テハ實ニ然リシナリ斯ノ如ク東京近傍ノ
震源ガ内陸ノ方ニ非ズシテ外海ノ方ニアル所以ハ何ゾヤ原田博士ハ之ヲ以テ三
浦及ビ房總半島ヲ通ズル一斷層線ニ歸シタリキ抑モ三浦半島ニ於テハ古ルキ噴
出岩ナル蛇紋岩ノ露出アリ安房峯岡山脈ニ於テモ蛇紋岩閃綠岩及ビ安山岩ノ露
出アリ又房總半島ノ東南岸ニハ天津勝浦ノ間ニ特ニ絶壁ヲナシ急斜ヲ以テ海底
ニ入ル部分アリ百尋ノ等深線ハ安房小湊ノ南ニ於テ突然トシテ陸地ニ接近セル
アリ又安房前原村海濱ニ於テ陸地陷落ノ著明ナル現象アリ是等ノ事實ハ地質構
造上極メテ重要ナルモノナリ

天津勝浦ノ間ニ於ケル海岸ノ絶壁ヲナシ急斜ヲ以テ海底ニ入ルコト及ビ小湊ノ
南ニ當リテ海底ニ突然トシテ深所アルハ是レ西北西ヨリ東南東ニ向ヒ來レル加
茂川ノ谷ノ窪地帯ガ海中ニ延長スルニヨルナリ而シテ此窪地帯ハ北ハ第三紀ノ
砂岩凝灰岩ノ如キ新シキ水成岩ヨリナレル地帯ニ接シ南ハ峯岡山脈ニ接セリ峯
岡山脈ニハ古ルキ噴出岩タル蛇紋岩ノ露出アリ且安山岩ノ現出アリ是ニ由テ之

ヲ觀レバ加茂川窪地帯及ビ峯岡山脈ニ沿ヒ地皮ニ皸裂アリ之レニヨリテ古岩ヲ新岩中ニ露出シ又ハ彼ノ窪地帯ヲ生成スルノ變動アリシナリ三浦半島ニ於テ三浦郡ノ山口及ビ平作村ニ蛇紋岩ノ第三紀層中ニ露出スルハ安房ヲ東西ニ横斷スル所ノ斷層線ノ右ニ曲リテ浦賀海峡ヲ横斷シテ三浦半島ノ地體ヲ東南ヨリ西北ニ向テ貫通スルニヨルナルベシ

斯ノ如ク房總山脈及ビ三浦山脈ニ於テハ其地層ノ走向ニ從ヘル一縱斷層アリ而シテ前原四近ニ於テハ土地ノ陷落尙行ハレ且東京近傍地震ノ源ハ多ク南及ビ南東ニ位スルハ此斷層線ニ沿ヒテ地體變位ノ餘動尙未ダ靜止セザルニヨルナラン

本邦ノ水界 波浪ノ性質ニ就テハ外國地誌ノ部ヲ參照スベシ又日本海ノ如キ大ナル海ニ於テ唯波雄波ノ如キ區別アルコトモ此中ニ已ニ述ベタレバ爰ニ略ス

其他本邦沿岸ノ波ニ就テハ特ニ此ニ説明スルニ足ルノ事實未ダ發見セラレザルヲ以テ何等ノ事ヲモ述ブル能ハザルナリ但シ日本舊來ノ船乗ノ言フ所ニヨレバ常陸鹿島ノ沖及ビ薩摩大隅ノ沖ト大島トノ間ナル七島灘ニハ三角ノ波(外形ヲ云フ)立ツトノコトヲ説クモノアリ後者ニ於テハ余ノ實地ニ見タルニ稍斯ノ如キ現

八九ノ八二

象アリ其起因ハ後ニ述ブ可シ

潮汐ノ一般ノコトニ就テハ外國地誌ノ部ヲ參照ス可シ此中ニモ本邦ノ事實ニ論及シ置キタリ尙漏レタル所ヲ左ニ追加セン

潮流ノ速度ハ阿波ノ鳴門ニ於テ最モ大ニシテ一時間ニツキ平常ノ大潮ニ於テモ七哩乃至八哩半ニシテ特ニ強キ時ハ十哩乃至十一哩ニモ増大スルコトアリ鳴門ニ次デ最モ烈シキハ長門海峡ニシテ其速度ノ最大ナル場合ニハ一時間七哩八分ノ一ニ及ブコトアリ第三ハ伊豫ノ來島海峡ニシテ其最大速度ハ一時間五哩四分ノ一ニ至ルコトアリ其他天草下島ト長島トノ間ノ海峡ニ於テハ一時間五哩津輕海峡ニ於テハ四哩乃至五哩薩摩ノ黒瀬戸ニ於テハ四哩四分ノ三明石ノ瀬戸ニ於テハ四哩半肥前ノ早崎水道ニ於テハ四哩豊後水道ニ於テハ三哩半友ヶ島海峡ニ於テハ二哩半ナリトス(以上一時間ニ付テノ最大速度ヲ云フ)

今本邦各地ノ沿岸ニ付テ潮ノ高低及ビ潮ノ滿ツル時刻ヲ見ルニ潮浪ガ本邦ニ達スルハ先ヅ津輕海峡ノ兩岸ニ於テス其時刻ハ新月滿月ノ日即チ朔望ノ日ニ於テハ大陰ガ其地子午線ヲ經過シタル後凡ソ三時半ナリトス(以下スベテ之ニ倣フ)而

シテ之ニ次デ潮ノ波ノ早ク達スルハ北海道本島即チ北洲及ビ本洲ノ東岸ニシテ北洲ノ東岸ニ於テハ四時乃至四時半ヲ以テ通過シ本洲ノ東岸ニ於テハ四時乃至五時半ヲ以テ達ス本洲ノ南岸ニ於テハ五時乃至七時ヲ以テ通過シ紀伊水道ヨリ四國ノ南岸及ビ本州ノ東岸ニ達スルニハ概スルニ六時ヲ以テシ大隅及ビ琉球諸島ニ達スルニハ六時乃至七時半ヲ以テシ九州ノ西岸ニ達スルニハ七時乃至九時半ヲ以テシ九州ノ北岸ニ達スルニハ九時乃至十時ヲ以テシ本洲北岸ノ西部ニ達スルハ十時乃至十二時ヲ以テス而シテ豊後水道ヨリ入ルモノハ七時ヲ以テ佐賀ノ關ニ達ス佐賀ノ關ヲ越ユルノ後分レテ二派トナリ其一派ハ東シテ伊豫安藝備後ノ沖ヲ經讃岐國粟島ノ近傍ニ於テ止マル其止マル所以ハ紀伊水道ヨリ入り込ミ鳴門及ビ明石ノ瀬戸ヲ越テ來ル潮ト相會スレバナリ第二派ハ北方ニ進ムヲ暫時ニシテ更ニ西ニ折レ八時四十五分ヲ以テ豊後ノ姫島ニ達シ九時二十二分ヲ以テ下ノ關ニ達シ十時ヲ以テ下ノ關海峡ヲ過ギ去リ此處ニ於テ九州ノ北岸ヨリ來ル潮ノ波ト相合シ共ニ日本海ニ向テ靜ニ向フニ似タリ

余ハ本講義ニ於テハ專ラ天然地理ニ重キヲ置キテ他ノ事項ハ之ヲ普通ノ教科書ニ譲リ續リナリシガ右ハ本會ノ旨趣上一般讀者諸君ノ希望ニ反スルノ趣ナリトナシタリ讀者諸君ヲ尤ムル勿シム幸甚

河津 人文地理

種族 我日本ニ住スル民族ハ廣キ意義ニテ先ヅ一括ニ之ヲ解スルトキハ世界ノ五大人種中モンゴリア人種ニ屬スルモノナリ其人類學上ノ性質ハ暫ラク之ヲ措キ我日本ニ住スル民族ハ精密ニ云フトキハ五ノ別アリ第一ハ最多數ヲ占ムル大和民族ニシテ其言語其風俗其習慣ヲ一ニシ二千五百有餘ノ間歷世天皇ノ鴻恩ニ浴シ祖先ノ忠勇武烈ニ依リ今尙右文左武ノ氣象ニ富メリ

第二ハアイヌ族ニシテ昔時大ニ繁殖シ嘗テ本州ノ東部ニ住シタルノ言傳アレドモ今ハ北海道ノ一部ニ住スルノミ(我國以外ニテハ樺太ニアイヌアリ樺太ノアイヌハ我アイヌト大同小異ナリトス)

第三ハ琉球種族ニシテ大和民族ニ似タル所アレドモ又之レニ異ナル點アリテ其關係未ダ充分ニ明カナラズ本邦ノ人類學者ハ先ヅ之ヲ大和民族ヨリ別ニ置クヲ以テ至當トナスモノ、如シ

第四ハ臺灣ニ住スル支那種族ニシテ其數凡ソ二百萬ト稱ス

第五ハ臺灣ニ住スル蕃人ニシテ近來ノ調査ニヨレバ其人類學上ノ性質ハ馬來種ニ屬スベキモノナリトス

衣食住ノコトハ人文地理上最モ大切ナルコトナレドモ大和民族ニ關シテハ吾人ノ已ニ通曉セル所ナルヲ以テ之ヲ爰ニ畧ス其他ノ種族ニ關シテハ稍煩ニ涉ルノ嫌アルヲ以テ畧ス

四族 我日本民族ニハ皇族、華族、士族、平民ノ別アリ

上御一人ニ對シ奉ルトキハ斯ノ如ク分ツベキモノナレドモ日本臣民トシテ大別スルトキハ華族、士族、平民ノ三ツニ分ツヲ至當トスベシ

皇族ハ歷世天皇ノ御血統ナルガ故ニ固ヨリ尊嚴ニシテ犯ス可ラザルナリ
華族ハ歷世ノ天皇ニ從ヒ參ラセシ名族即チ所謂公卿、維新前各地方ニ分封セラ

レタル舊諸侯即チ所謂大名并ニ國家ニ勳功アリテ新ニ爵位ヲ賜リタルモノナリ現今尙政治上ニ於テ多少ノ特權ヲ有シ社會ノ交際上ニ於テモ位階稍高ク從テ士族及ビ平民ト稍趣ヲ異ニスル所アリ
士族ハ維新以前舊諸侯ニ隸屬セシモノヲ多シトス即チ所謂武士是レナリ現今ニ於テハ其社會上ノ位置之ヲ平民ニ比シテ大差アルヲ見ズ政治上ニ於テハ殆ド至ク同一ナリ
平民ハモト農商工ノ業務ニ從事シテ武士タラザリシ所ノ多數ノ庶民ニシテ現今ニ於テモ亦最モ多數ヲ占ム其政治上及ビ社會上ノ位置ハ之ヲ士族ニ比シテ異ナル所アルヲ見ズ

人口 本邦ノ人口ハ頗ル増殖シ臺灣ヲ合スルトキハ現今凡ソ四千五百萬人ノ上ニ出ヅルコトハ疑ヲ容レズ其人口ノ詳細ハ之ヲ統計年鑑ニ讓リテ爰ニハ之ヲ省クベキモ今各畿道ニ就テ人口ノ疎密ヲ見ルニ其最モ密ナルハ畿内ニシテ一方里ニ付五千八百四十九人ニ當リ最モ少キハ北海道ニシテ一方里ニ付キ僅カニ七十人ニ當ル(但シ本邦人口平均ノ密度ハ一方里ニ付キ一千七百〇五人ナリ)以上明

教育 維新以後朝廷大ニ教育ヲ獎勵シ給ヒシカバ大小ノ學校盛ンニ起リ學齡兒童ニシテ就學セザルモノハ僅カニ十中ノ三餘ナルニ過ギズ大學ハ京都及ビ東京ニ各一アリ東京帝國大學ニハ法、醫、工、文、理、農ノ六分科大學ヲ置キ京都ニハ農科文科ノ如キハ末ダ開校セズ分科大學ノ上ニハ大學院アリテ學術技藝ノ蘊奧ヲ極ムルノ用ニ供ス又北海道ノ札幌農學校ハ農科大學ニ準ズル專門ノ學校ナリトス高等學校ハ東京、仙臺、京都、金澤、熊本、山口ノ六ヶ所ニアリモト鹿兒島ニモアリシモ惜哉中途ニシテ廢セラレタリ軍人ヲ養成スル學校ニハ陸軍大學校、海軍大學校、陸軍士官學校、海軍兵學校等アリ又中央幼年學校、地方幼年學校等アリ教員ヲ養成スルニハ東京ニ高等師範學校各府縣ニ師範學校アリ又府縣ニ尋常中學校アリ小學校ノ數ハ殆ンド二萬七千ニ垂ントス其他公私ノ設立ニ係ル各種學校頗ル多シ

本邦ニ於テ特ニ外國ニ比シテ劣ルモノハ書籍館及ビ博物館ナリトス然レドモ帝國圖書館ノ完成ハ近キニ在ラントス且東京、京都、奈良ニ帝國博物館アリテ其規模漸次宏大ナラントス

八九ノ八九

美術 我邦ノ美術ハ其淵源頗ル遠ク三韓ノ媒介ニヨリテ佛法ノ傳來ト共ニ繪畫彫刻鑄造ノ術一生面ヲ開キ次デ支那トノ交通頻繁ヲ加フルト共ニ又多少ノ進歩ヲ來タシ遂ニ今日ノ盛大ヲ致セリ其他陶器、漆器、磁器等ノ技術モ亦大ニ發達シ日本ノ美術ハ其名海外ニ高シト云フ

宗教 我邦ニ於テ行ハル、宗教ハ先ヅニツト見ルベキカ彼ノ神道ノ如キハ祖宗ノ威靈ヲ祭祀シ又ハ國家ニ勳功アリシ人々ヲ崇拜スルモノニシテ特別ニ經典ト稱スベキモノナク其趣自ラ所謂宗教ナルモノトハ異ナレリ故ニ先ヅ之ヲ除キテ云フトキハ我國ノ宗教ナルモノノ中最モ行ハル、モノハ佛教ニシテ基督教ノ如キハ左程盛ンニハ非ズ

佛教ハ欽明帝ノ朝初メテ傳ハリテ數多ノ盛衰アリシト雖モ其古來ヨリ流布久シキト其他種々ノ關係トヨリシテ今尙其信徒最モ多シ

基督教ハ後奈良帝ノ朝始メテ我邦ニ渡來シタルモノニシテ一時ニ盛大ナリシモ久シク國禁トナリタリキ維新後此禁ヲ解カレタルヲ以テ稍行ハル、ニ至リシカドモ未ダ盛大ナラズ

政治

政體 政權一たび武門ニ移リテヨリ久シク封建ノ制度ナリシガ明治維新ト共ニ
王政古ニ復シ明治二十二年ニ於テ帝國憲法ノ欽定成リ同廿三年ニ於テ帝國議會
召集セラレ爰ニ於テ立憲政治ノ形體ヲ成スニ至レリ

天皇ハ國ノ元首ニシテ統治ノ大權ヲ總攬シ給フコト已ニ伊藤伯ノ憲法義解ニ
見ユル所ノ如シ而シテ百般ノ政務ハ國務大臣之ヲ輔弼シ奉リテ其責ニ任ジ立
憲法ハ帝國議會ノ協贊ヲ要シ司法權ハ天皇ノ名ニ於テ裁判所之ヲ行フ
帝國議會(帝國議會)ノミヲ以テ完全ナル立法部ト誤認スル人アリ注意スベシハ
貴族院及ビ衆議院ヨリ成立ス貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニヨリ皇族華族及
ビ勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス其數凡ソ三百人アリ貴族院ニ關シテハ貴
族院令ヲ參照ス可シ衆議院ハ撰舉法ノ定ムル所ニヨリ各府縣ニ於テ公撰セラ
レタル議員ヲ以テ組織ス其數三百人アリ
行政部ハ内閣及ビ外務、內務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、逓信ノ九省アリ
地方ニハ道廳ニ長官府縣ニ知事アリ道廳、府、縣ヲ小分シテ市、區、郡トス各其長ア

文九ノ九〇

郡ハ又細分シテ町村トス町村トモ亦其長アリ須要ナル嶋地ニハ特ニ島司ヲ
置キ之ヲ支配シシム
司法權ヲ行フ裁判所ニハ四階級アリ區裁判所、地方裁判所、控訴院及ビ大審院是
テシテ大審院ハ東京ニ唯ニアルヲ主トシテ控訴院ハ七區ニテ東京、大阪、名古屋、廣嶋、長
崎、仙臺、函館ニアリ地方裁判所ハ各府縣ニ各一北海道ニ三ノ外區裁判所ハ其數
ハ三百餘アリ
臺灣ニハ天皇以親任ニ係ル臺灣總督ヲシテ之ヲ支配ス其地方ニハ縣及ビ廳、內
山地ハ縣廳ニ混ズル勿レテ置キ縣ニ知事、廳ニ長ヲ置キ部内ノ政務ヲ行ハシム
又宮内省ハ行政部ノ外ナリ宮内大臣之ガ長官ニシテ帝室ノ事及ビ華族ニ關スル
事ヲ主ル
中樞密院ハ天皇以最高顧問府ナリ之下會計検査院ハ狹キ意義ニテ解釋スル上
京キ行政部ノ外ナリ

區劃 全國ヲ畿内、入道ニ分割シ更ニ之ヲ八十四國ニ分ツ而シテ琉球及ビ臺灣
分實ニ此外ナリトス

各畿道國以名ノ通常人ノ能ク知レル所ナルヲ以テ之ヲ畧ス
古來ヨリ關八州ノ名大抵ハ相模、武藏、安房、上總、下總、常陸、土野、下野ニシテ又之ヲ關
東ト稱スル也トアリ

中山道又ハ中仙道ヲ以テ東山道ノ中近江、美濃、飛騨、信濃、上野、下野ヲ含メルコト近
來ノ通稱ナルガ如シ而シテ殘リノ七國ヲバ奥羽ト稱スルコト古ヨリ然リ近來ハ
又之ヲ東北地方ト稱スル也
山陰山陽ヲ合シテ中國ト通稱アリ
以上行政ノ區劃トシテ其性質ヲ異ニセルモノハ行政ノ區劃ニハ色々アレ
ドモ普通ノ行政區劃但シ時ノ便宜ニ從フヲ以テ既往ニ於ケル如ク將來ニ於テモ
變化ナキヲ保セスハ現今北海道、三府、四十三縣ナリ而シテ臺灣ハ實ニ此外ナリ
各府縣名官廳所在地、管轄區域ハ爰ニ之ヲ省ク但シ明治廿九年、同冊年ニ於テ國界
郡界之變更等アリシコトヲ忘ル可ラズ
兵備ニ我邦ノ軍隊ハ世々天皇ノ統率シ給フ所ニシテ維新前ハ全ク武士ヲ以テ
之ニ充テタリシガ現今ハ帝國ノ男子十七歳ヨリ四十五歳マデ悉ク兵役ノ義務ヲ有

文一〇七

スルコトトナリ、兵役ヲ分テ四種トス、常備兵役、後備兵役、補充兵役及ビ國民兵役
是ガ別、常備兵役ヲ分テ二トナス、現役及ビ豫備役是レナリ
滿三十年以上至六十歳ニ至ル者ハ徵兵適齡トナリ此年滿ニ達セシメテ始メテ常備兵役ニ服シ
然ル後國民兵役ニ服ス、陸軍ハ全國ヨリ募兵ノ制ナレドモ海軍ハ沿海地方及ビ嶋
嶼ヨリ之ヲ採用スルノ制ナリ
陸軍ノ常備兵役ハ現役三年豫備役四年四月ニシテ海軍ノ常備兵役ハ現役四
年豫備役三年ナリ
後備兵役ハ陸軍海軍共ニ五年ナリトス
補充兵役ハ三種アリ、第一補充兵役及ビ第二補充兵役ナリ、第一補充兵役七年四
十月月ニシテ其年ニ要スル所ノ現役兵員ニ超過スルモノ之ニ服シ、第二補充兵役
一年十月月ニシテ第一補充兵員ニ超過スルモノ之ニ服ス
國民兵役ハ滿十七歳乃至四十五歳ニシテ常備兵役、後備兵役及ビ補充兵役以外ノ
國民及ビ是等ノ兵役ヲ終リタルモノ之ニ服ス
國民兵役亦第一國民兵役及ビ第二國民兵役ノ三種ニ分ル

陸軍は全國の陸軍ヲ近衛及ビ十二師團ニ編制ス三師團ハ通常歩兵二旅團騎兵一聯隊野戰砲兵一聯隊工兵一大隊輜重兵一大隊ヨリ成ル而シテ一旅團ハ二聯隊ヨリ成リ三聯隊ハ三大隊ヨリ成リ一大隊ハ三中隊ヨリ成ル一師團ハ兵凡ソ二萬人アリ師團長ハ中將旅團長ハ少將聯隊長ハ大佐若クハ中佐大隊長ハ少佐中隊長ハ大尉之ニ當ル此ニ省ク讀者ヨロシク職員録ノ首ヲ參照スベシ(但シ本年ノ春ニ少シク變化アリ)

小笠原島、佐渡、隱岐、五嶋、大嶋、沖繩、對馬ハ警備隊ヲ置カルベキ所
 對上シテ指定セラレタリ
 臺灣ノ守備兵トシテハ三ツノ混成旅團アリ近衛及ビ十二師團中ヨリ交代シテ衛戍ス
 更ニ三都督部ヲ以テ第一師團以下十二師團ヲ配當スルコト左ノ如シ
 京都督部所在地
 管轄師團
 東京第一師團、第二師團、第七師團、第八師團
 東部

支一〇ノ八

中部 大阪 第三 第四 第九 第十

西部 小倉 第五 第六 第十一 第十二

砲臺ノ既ニ成レル場所左ノ如シ

東京灣、横須賀、紀淡海峽、下關海峽、對馬淺海灣

參謀本部ハ出師國防作戰ノ計畫ヲ主リ、元帥ハ大元帥陛下ニ對シ奉リテ軍事ニ

對スル最高顧問タリ

陸軍軍人ヲ養成スル學校ニハ陸軍大學校、士官學校、中央幼年學校、地方幼年學校、戶山學校、乘馬學校、教導團、軍醫學校、經理學校、砲工學校等アリ皆教育總監部ノ監督スル所チリ

海軍 臺灣ヲ除キ全國ノ海軍及ビ海面ヲ五個ノ海軍區ニ區別シ每區ニ鎮守府

ヲ置キ數多ク軍艦ヲ分屬セシム各海軍區ノ名稱、軍港及ビ所管區域等ハ之ヲ省ク讀者ヨロシク職員録ニ就テ之ヲ知ルベシ
 軍艦ニハ富士、八嶋、鎮遠ヲ始メトシ數多アリ此外建造中ノモノ亦少カラズ多クハ

外國ニ注文セラレタリ
 海軍ノ軍令部ハ一方ニ於テハ出師國防作戰ノ計畫ヲ主リ一方ニ於テハ教育訓練ヲ監督ス
 海軍々人ヲ養成スル學校ニハ海軍大學校海軍兵學校海軍主計學校海軍機關學校等アリ
 外交 神武天皇紀元九百年代ニ於テ神功皇后三韓征伐ノコトアリコレヨリ以前ニ於テモ外交ノ事之レナカリシニハ非リシカドモ其頻繁ヲ極メタルハ此時ヲ以テ始メトナス之レヨリ三韓ノ媒介ニヨリテ支那トノ交通ヲ來タシ支那ノ文物技藝ハ盛ニ輸入セラル、ニ至レリ我紀元二千二百年代ニ於テホルトガルノ船來リテ互市ヲナセシ以來イスパニアオランダイギリスノ商船モ亦來テ通商ヲナセリ然ルニ彼ノ有名ナル島原ノ騷動ニヨリ徳川氏ハ嚴令ヲ布テ外國船ノ來航ヲ禁止シ獨リ朝鮮支那オランダノミ交通ヲ許サル、コトトナレリ
 我紀元二千五百十三年則チ嘉永五年ニ於テ北米合衆國ノ使節ペルリ來テ互市ヲ求メシヨリヨロツバ各國ノ使節次第ニ來リ遂ニ諸外國トノ條約成レリ現今我

文一〇ノ八二

國ノ條約國左ノ如シ

アジアニ於ケルモノ

朝鮮(支那)

暹羅

ヨロツバニ於ケルモノ

イギリス

オランダ

イスパニア

ベルギー

オランダ

アメリカニ於ケルモノ

北米合衆國

オセアニアニ於テハ從來ハワイハ我條約國ナリシガ近時遂ニ北米合衆國ニ合併セラル、ニ至レリ

生業

文一〇ノ八三

山林業

夫レ森林ノ國家ニ必要ナルハ人ノ能ク知ル所ナリ彼ノ林産物ノ一大富源タルハ固ヨリ言ヲ待タズ其他氣候ノ調和、水源ノ涵養、風景ノ保存等ニ一日モ缺ク可ラザルナリ我政府近來大ニ見ル所アリテ林政ノ設備ヲシテ完美ノ域ニ進シメンコトヲ期シ居レリ

最モ大ナル山林ハ恐ラクハ信濃國木曾ニ如クモノアラザベシ其樹木ハ檜ヲ多シトス

其他陸奥、羽後、上野、下野、越中、伊豆、伊勢、大和、紀伊、日向ニモ廣大ナル山林アリテ其樹木ハ松、杉、檜、樺、椴ヲ多シトス

全國ノ山林ヲ分テ三種トス御料林、官林、民有林是レナリ

我國ハ山林ニ於テ大ニ屬望スベキニモ係ラズ山林ノ利用ニ於テ缺クル所アルハ頗ル惜ムベシ要スルニ我國ノ山林事業ハ其發達之ヲ獨逸ノ如キ林制ノ完美セル國ニ比シテ非常ニ幼稚ナリト云フ可シ

牧畜業 牧畜業ノ如キハ我邦ハ之ヲ歐米諸國ニ比シテ非常ニ幼稚ナリ然ルニ肉食ノ益盛大ナルニ隨テ此業ノ必要益大ナルコト明カナリ現今ノ勢ヲ以テス

文一〇ノ八四

文一〇ノ八五

レバ食用ノ畜産次第ニ缺乏ヲ來スガ如シ

畜産ノ主ナルモノヲ牛馬トシ豚及ビ家禽之ニ次グ

牛ハ九州及ビ中國ニ多シトス但馬牛最モ名アリ

馬ハ奥羽及ビ九州ニ多シトス南部馬最モ名アリ

水産業 我國ハ四面環海ノ地ナルニ係ラズ水産業ノ發達實ニ幼稚ナルハ實ニ惜ムベシ

水産物モ處ニヨリテ其種類ヲ異ニシ鯨、鮭、昆布ノ如キハ北海道ニ多ク鱈、鯉、鯨ノ如キハ南部ノ海ニ多シ

重要ナル漁業區域ハ北海道ノ沿岸、九十九里ノ濱、及ビ長崎縣五島ノ近海ナリ是等地方ノ水産ハ支那ニ輸出スル高少カラズ

製鹽ノ業ハ瀬戸内海地方ニ最モ盛ナリトス然レドモ我邦製鹽ノ業ハ實ニ尙幼稚ナルモノナリ

讀者ハ本邦重要水産物ト海流及ビ氣候トノ關係ニ就テ知レル所アルベシ尙此事ニ就テ研究セヨ

農業

我國ハモト農國ナリシナリ而シテ氣候地味モ亦宜シキヲ得タルヲ以テ農業夙ニ開ケ農民ハ現今ト雖モ人口ノ凡ソ三分ノ二ヲ占ム最モ重要ナル農産物ハ米ニシテ麥之ニ次グ其他大豆甘藷等ノ産額亦少カラズ

米産地ノ主ナルモノハ本會川ノ平原ヲ以テ第一トス其他肥後ノ平地關東平原新潟平原等アリ

麥産地ノ主ナルモノハ利根川ノ水域ヲ以テ第一トス尾張備前等之ニ次グ奥羽ノ地ハ麥ノ産額少シトス

養蠶ノ業ハ近來次第ニ盛大ヲ來タシ東山道産額最モ多シ而シテ生絲ハ輸出品中ノ第一位ヲ占ム

製茶ノ業ハ製糸ニ次デ盛大ヲ來タシ畿内及ビ東海道ノ一部産額最モ名アリ

鑛業 本邦ハ鑛物ノ種類ニ乏シカラズト雖モ産額尙微々タルモノナリ然レド

モ銅及ビ石炭ハ産額稍多ク本邦輸出鑛物ノ中ニテハ最モ重要ナルモノナリトス而シテ銅ニ於テハ本邦ハ世界第三ノ産出國ナリ主要ナル石炭産地ハ九州及ビ北海道ニシテ盤城長門之ニ次グ主要ナル銅産地ハ下野ノ足尾及ビ伊豫ノ別子ナリ

文一〇ノ八六

文一ノ七七

トス由リ、養蠶ノ業ハ近來次第ニ盛大ヲ來タシ東山道産額最モ多シ而シテ生絲ハ輸出品中ノ第一位ヲ占ム

製茶ノ業ハ製糸ニ次デ盛大ヲ來タシ畿内及ビ東海道ノ一部産額最モ名アリ

鑛業 本邦ハ鑛物ノ種類ニ乏シカラズト雖モ産額尙微々タルモノナリ然レドモ銅及ビ石炭ハ産額稍多ク本邦輸出鑛物ノ中ニテハ最モ重要ナルモノナリトス

而シテ銅ニ於テハ本邦ハ世界第三ノ産出國ナリ主要ナル石炭産地ハ九州及ビ北海道ニシテ盤城長門之ニ次グ主要ナル銅産地ハ下野ノ足尾及ビ伊豫ノ別子ナリ

製絲業ノ最モ盛大ナル地方ハ養蠶業最盛ナル地方ニ限レリ而シテ綿絲紡績ノ最盛ナル地方ハ大阪岡山三縣下ナリトス

織物業ノ最モ盛大ナルハ本州ノ中部即チ京都桐生足利福井ノ諸地方ナリトス其他陶磁器ノ主要ナル製造地ハ愛知佐賀石川ノ諸縣ニシテ漆器ノ製造ハ中國地方最モ盛ナルハ和紙ニ在テハ高知縣ニシテ洋紙ニ在テハ東京及ビ神戸ナリ

製紙ノ最モ盛ナルハ和紙ニ在テハ高知縣ニシテ洋紙ニ在テハ東京及ビ神戸ナリ

酒類醸造ノ最モ盛ナルハ兵庫及ビ愛知二縣ニシテ醬油製造ノ業ハ千葉縣最モ盛
 大ナリ、
 商業 維新以來商業モ亦稍盛大トナレリ商業ヲ分テ二トナス内國商業及ビ外
 國商業是レナリ我國ノ外國商業ハ之ヲ歐米諸國ニ比シテ尙微々タルモノナリト
 ス
 内國商業ハ交通機關ノ發達ト共ニ益盛大ヲ極メ其中心ト見ルベキハ大阪及ビ東
 京ナリ之ニ次グヲ名古屋、仙臺、廣嶋、箱館、德嶋、福嶋、福岡等トス即チ地理上何レモ必
 須ノ地下ニ致セリ
 近時銀行會社ノ組織益盛ニシテ金融ノ調和之ニ由テ成レリ銀行ノ主要ナルモノ
 ヲ日本銀行及ビ正金銀行トス日本銀行ハ東京ニアリ全國金融界ノ整理ハ之ニヨ
 リ成ル正金銀行ハ橫濱ニアリテ海外貿易ノ調和ハ之ニヨリテ成ル其他勸業銀
 行ハ東京ニアリ各府縣ニ農工銀行アリ何レモ實業發達ノ機關タラントス
 此外國立、私立ノ銀行其數甚ク多ク大ナル銀行ハ主要ナル地ニ支店ヲ設置セリ
 又政府ハ發明ニ關スル特許其他意匠、商標ノ登録ニ就テ必用ナル規定ヲ作り或ハ

文一ノ七九

博覽會ヲ開キ共進會ヲ設ケ以テ商工業ヲ獎勵ヲ計レリ

地方ニ於テ商業會議所及ビ取引所ヲ設立ヲ認可シテ商業ノ進歩ヲ圖レリ
 外國貿易ハ近來稍進歩シタリト雖トモ之ヲ歐米各國ニ比スルトキハ其額實ニ微
 々ナルモノナリ我邦ノ貿易品ノ中ニ於テ輸出額ノ最タルハ生絲ナリ其次ハ絹、茶、米
 石炭、銅、マツチ、水産物等トス而シテ我邦ガ主トシテ向ケテ輸出スル國即チ我邦ノ
 得意先ハ北米合衆國ヲ第一トス近時東洋諸國ニ對スル輸出額ハ非常ニ増加シ今
 尙増加シツ、アリ北米合衆國ニ次テ輸出國ノ主ナルモノハ香港、フランス、支那、イ
 タリヤ、英領印度ニシテ之ニ次グモノヲドイツ、イタリヤ、ロシア、露領アジヤトス
 卒若シ是等輸出國ニ對スル輸出品ヲ舉グレバ北米合衆國ニ對シテハ生絲、綠茶、絹
 布、手巾、米ヲ主ナルモノトシ支那ニ對シテハ石炭ヲ主ナルモノトシ香港ニ對シテ
 ハ石炭、マツチ、錫、樟腦、米ヲ主ナルモノトシイギリスニ對シテハ生絲ヲ主ナルモノ
 トシフランスニ對シテハ生絲、絹布、厚絲ヲ主ナルモノトス
 輸入品ニ就テ征消ノ役後諸種ノ關係ヨリ非常ニ増加シタリ而シテ新條約ニヨリ
 テ海關稅增加スルヲ以テ此前ニ輸入シ置カントシテ明治三十一年上半季ノ如キ

文一ノ七九

毛非南米輸入ノ超過ヲ見ル我邦人最モ得意先ハ必ズシモ彼ノ最モヨキ得
 先記ハ非ズシテ輸出國トシテ米穀米合衆國第一トシテモ輸入國トシテハイ
 リス第一トシ英領印度支那トシテ北米合衆國ハ其次ニ位セリ
 今若シ主要ナル輸入國ノ輸入スル品物ヲ舉グレバイギリスハ絹糸織物類毛織子
 傘巾、洋車及汽船等ヲ輸入シ支那ハ米、綿、實、綿ヲ輸入シ北米合衆國ハ石油、綿、絲ヲ
 輸入スルニシテ、輸出品トシテ、日本ハ、絹糸、織物、毛織子、傘巾、洋車、汽船等ヲ
 外國貿易ノ年々増加ノ勢アリト雖モ征清ノ役後事業ノ勃興ト共ニ俄ニ輸入ノ超
 過ヲ致シ且前ニ述ベタル如ク新條約ノ實施、海關稅ノ増加ノ前ニ、外商等ガ非常ニ
 輸入シ置キタルガ爲メ明治三十二年上半季ノ如キハ大ニ輸入ノ超過ヲ致スル
 事トシ、今後ハ輸出入ノ平均ヲ得ンニシテハ難カエザルベシ、輸出品トシテ、
 外國貿易ヲナス港ニハ制限アリ通商條約ヲ結ビタル國大ニテハ何レノ國々作
 成ル所ニ貿易ヲ力ニ得ル所ノ普通貿易港ハ横濱、神戶、長崎、新潟、箱館、大阪、
 神戸、此他ニ國ヲ限ラズ貿易ヲナス所ノ港アリ例之ニ朝鮮トシテ貿易ニ限リテ之ヲ
 勿論トシ、下ノ關、博多、嚴原、鹿見、佐須、奈此三港ハ對馬國ニアリノ五港ナルガ如シ尙清

文二ノ八〇

國ニ限ル港モアリ朝鮮及ビ浦鹽斯德ニ限ル港モアリ又帝國臣民所有ノ船舶ニテ
 帝國臣民ガナスコトヲ許サレタル特別輸出入港ナルモノハ其數甚ダ多シ
 特別輸出港ト稱スルハ米、麥、麥粉、石炭、硫黃等モトハ五品ノミナリシガ近時其物品
 ノ數追加セラレタリヲ輸出スルコトヲ許サレタル港ニテ其數少カラズ
 以上ノ貿易港中輸出入額ノ第一ニ位スルハ横濱及ビ神戶ニシテ横濱ノ方神戶ニ
 比シテ少シク多ケレドモ其額ハ殆ンド相等シク先ヅ同一ノ位置ヲ占ムルモノト
 稱シテ可ナリ
 右ノ外臺灣ニハ基隆、淡水、安平、打狗ノ四貿易港アリテ是等ノ港ヨリ茶、砂糖、樟腦ヲ
 輸出ス

文二ノ八一

交通 維新前ハ交通ノ點ニ於テハ非常ニ不完全ヲ極メタリ是レ數多ノ原因アリ
 リト雖モ主トシテ封建ノ制度ノ爲メニ諸大名ハ特ニ交通ノ不完全ナランコトヲ
 却テ希望シタルニヨレリ

維新後ニ至テ嘗テ存在セシ關所番所ノ制ヲ打破シ彼ノ越中越後ノ間ニアリシ親
 不知ノ險スラモ山上ニ平坦砥ノ如キ新道ヲ作りテ之ヲ避ケ碓氷峠ニ於テハアブ

ト式ト稱スル急勾配ノ鐵道ヲ布クニ至レリ而シテ鐵道、航路、郵便、電信、電話何レモ少カラザル進路ヲナセリト雖、凡之ヲ歐羅巴諸國及ビ北米合衆國ニ比スレバ本邦ノ交通ハ未ダ幼稚ナルヲ免レザルナリ

我邦ノ道路ヲ分テ國道、縣道、里道トス國道トハ東京ヨリ北海道廳及ビ各府縣廳各開港場並ニ伊勢太廟ニ達スルモノ及ビ北海道廳各府縣廳ト師團本部トヲ連絡スルモノヲ云ヒ縣道トハ各府縣ノ廳ヲ連接スルモノ師團ヨリ分營ニ通ズルモノヲ云ヒ里道トハ此以外ノ道路ニシテ多クハ各村間又ハ都邑間ノ道路ナリ

國道ノ幅ハ道幅五間乃至七間ニシテ縣道ハ四間乃至五間ヲ限リトスルノ制規ナレドモ在來ノ道路ノ制ノ儘ナル處多シ里道ニハ一定ノ道幅ナシ

本邦ニ於テ交通ノ最モ不完全ナルヲ北海道及ビ臺灣トス北海道ハ次第ニ開發ノ緒ニ就キ交通モ漸次開ケタリト雖、凡臺灣ノ道路ハ最モ不完全ヲ極メ其交通ノ不便ナルコト我邦内地ノ比ニ非ルナリ

鐵道 我邦ニテ鐵道ヲ敷設シタル始メハ明治五年東京ト橫濱トノ間ニ於テセシモノヲ始メトス之レヨリ後鐵道線路ハ次第ニ延長セラレ今日ニ於テ全國ニ於

文一ノ八二

文一ノ八三

ケル鐵道線路ノ長サハ三千里ヲ超ユルニ至レリ青森ヨリ馬關ニ至リテ本州ヲ縦貫スル本線ハ殆ンド方ニ落成セントシテ周防ノ三田尻ニ至ルマデ已ニ開通セリ又九州ニ於テハ門司ヨリ八代ニ至ルマデ已ニ開通シ北海道ニ於テハ岩見澤ヨリ上川ニ達セリ其他橫斷線モ漸次延長ノ緒ニ就ケリ但シ四國及ビ臺灣ニ於テハ線路ノ延長未ダ十分ナラズ

航路 我邦四面ハ海ヲ環ラセリ即チ我邦ハ地勢上海國タレバ航海ノ業ハ特別ノ發達ヲ要スルモノアリ維新後ニ至テ政府大ニ爰ニ見ル所アリ航海事業ノ獎勵發達ヲ圖リ且征清ノ役後ハ諸般ノ必要ヨリ海事頓ニ勃興シタリト雖、凡之ヲ歐米諸國ニ比スレバ非常ナル幼稚ノ域ニ在リト云ハザル可ラズ

右ニ述ベシ如ク征清ノ役後上下舉テ大ニ航路ノ擴張ヲ計リシカバ今ヤ日章ノ旗ヲ翻ス所ノ船期ヲ定メテ往來スル路筋ハ東ハ北米合衆國西ハ印度及ビヨーロッパ南ハオーストラリアニ及ベリ

本邦人ノ手ニ成レル航海業ノ會社ニハ日本郵船株式會社最モ大ナリ之ニ次グニモノヲ大阪商船株式會社トス兩社共ニ多少政府ノ保護ヲ受ク其航路ハ橫濱ヲ中心

トシテ西ハ四日市、神戸、長崎ニ至リ更ニ上海、芝罘、天津、牛莊、香港ニ及ビ又朝鮮及ビ浦鹽斯德ニモ延長シ東ハ萩ノ濱、箱館、小樽、根室、千島諸島ノ間ニ至リ更ニヨーロッパ及ビアメリカヘ向ケテ航路ヲ延長スルニ至レリ

大阪商船株式會社ハ主トシテ關西ノ航海ニ從事シ大阪ヲ中心トシテ多度津、宇和島、宇品、馬關ヨリ境ニ至リ又德島、和歌山ニ及ブ其他朝鮮、鹿兒島、琉球、長崎、臺灣ノ間ヲ往復ス此頃又支那ノ長江航路即チ揚子江沿岸ノ航路ヲ開始シ上海ト漢口トノ間ヲ往來シ來ル明治三十二年一月一日ヨリハ上海、宜昌間ヲ往來スベキ都合ナリ

本邦ノ郵便制度ハ諸般ノ交通機關中最モ完全ヲ極メタルモノニシテ其開始ハ遠ク明治四年ニアリ現今ニ至リテハ我邦至ル處郵便ノ利ヲ感ゼザル所ナシ而シテ本邦ガ萬國郵便聯合ノ組合ニ加入セシハ實ニ明治十年六月ノ昔ニアリトス

電信 電信線ノ始メテ架設セラレタルハ明治二年東京橫濱間ニ於ケルモノ是レナリ而シテ此事業モ其後次第ニ發達シ現今ニ至テハ電線悉ク須要ナル市邑ノ間ヲ連綴ス又海底電線モ次第ニ多キヲ致シ征清ノ戰役後ハ沖繩及ビ臺灣ヘモ相通ズルニ至レリ

又海外ニ通ズル海底電線ハ上海ヨリ長崎ニ至リ長崎ヨリ浦鹽斯德ニ通シ又對馬ヨリ朝鮮ニ至レリ若シ夫レ太平洋ヲ橫斷シテ米國ニ至ルノ線路落成スルニ至ラバ海外ニ對スル我邦電信ノ利便ハ一生面ヲ開クノ時機ニ達スベキナリ

電話ハ明治十八年ニ於テ始メテ架設セラレ今ハ東京、大阪、京都、神戸、名古屋、橫濱、堺、福岡、馬關、長崎ノ諸市邑ニ行ハレ尙非常ナル勢ヲ以テ發達シツ、アリ蓋シ最モ新シキ時ニ始リテ最モ大ナル進步ヲナセルハ電話事業ナリトス

地方誌

以上述ブル所ニヨリテ吾人ハ本邦ノ天然及ビ人文地理ノ如何ヲ知り得タリ以下各地方ニ就キテ其地理ノ概要ヲ述ブ可シ

地方誌ヲ説クニ當リテ便宜上之ヲ三大部ニ區別ス第一ハ吾人ガ内地ト從來稱シ來リタル所ノモノニシテ本州、四國及ビ九州ヲ包括ス吾人ハ爰ニ之ヲ中區ト稱ス可シ第二ハ北海道本島及ビ千島ヲ包括ス吾人ハ之ヲ北區ト稱ス可シ第三ハ琉球及ビ臺灣ヲ包括ス吾人ハ之ヲ南區ト稱ス可シ

我邦ノ大體ヲ見ルニ略三箇ノ弓形ヲナシ本州、四國、九州ヲ含メル第一ノ弓ハ中央

ニアリ北海道及ビ千島諸島ヲ含メル第二ノ弓ハ北ニアリ琉球諸島及ビ臺灣ヲ含メル第三ノ弓ハ南ニアリ而シテ中央ノ弓ニ屬スル三大島ハ崑崙山系ノ餘波西ヨリ來リ樺太山系ノ餘波北ヨリ至リ本州ノ中央ニ於テ相合ス此接合ノ部ニ於テ富士帶火山脈貫通シ之レヨリ東北ト西南トハ凡テノ點ニ於テ著シキ差違アリ故ニ中區ヲ分テ東西二部ニ分チテ左ニ要點ヲ摘録ス可シ

第一章 中區ノ東部

區域

内地ノ中ニテ富士帶火山脈以東ノ府縣ヲ包括ス即チ東京、埼玉、神奈川、千葉、茨城、栃木、群馬、福島、宮城、岩手、青森、秋田、山形、新潟、長野、山梨ノ一府十五縣ヲ含メリ

山系

此區域ノ山脈ニ二ツアリ一ハ樺太山系ノ一部ニシテ北上山脈、阿武隈山脈、分水山脈、羽越山脈等ノ小部分ニ分ル其詳細及ビ此脈中ニ屬スル火山ノ名ハ吾人已ニ之ヲ自然地理ノ部ニ説キタルヲ以テ爰ニ略ス

第二ハ富士帶火山脈ニシテ之ヲ就テモ前ヲ參照スヘシ

水系

此區域ノ中央ヲ貫通スル分水山脈ハ本區域ノ水系ヲ分テ太平洋斜面區域ニ屬スルモノト日本海斜面區域ニ屬スルモノトニ分ツ然ルニ太平洋斜面區域

中ニハ分水山脈ノ那須岳ト阿武隈山系ノ八溝山トヲ連接スル一ノ低キ山脈アリテ南北ニ二分セラル

其南ニハ即チ關東ノ平野ニシテ其大ナルコト本邦第一タリ而シテ此間ヲ貫通スル河ニハ利根川、荒川、馬入川、那珂川等アリ利根川ハ源ヲ三國山脈ニ發シ東南ニ流レテ關宿ニ於テ分レテ二派トナル其支流ヲ江戸川ト云フ本流ハ鬼怒川ヲ合セ遂ニ銚子ノ口ニ注グ長サ七十三里舟楫灌溉ノ便極メテ多シ

八溝山ヨリ北ナル太平洋斜面區域ニハ北上阿武隈ノ二大河之ヲ貫流ス奥ノ平野ハ即チ其灌域ニ當レリ

北上川ハ其源ヲ分水山脈ニ發シテ南ニ流ル其長サ六十六里アリ阿武隈川ハ源ヲ白河近傍ニ發シ北ニ流ル其長サ五十餘里兩河ノ口共ニ仙臺灣ノ岸ニ開ケリ此兩河ノ口ヲ連接スル一帯ノ平地中ニハ仙臺ノ大市アリ

日本海斜面區域ハ海岸近キ處ニ於テ火山脈ノ走レルモノアルヲ以テ其分水區域ハ錯雜シ太平洋分水區域ニ於ケルガ如キ判然タル關係ヲ有セズ但シ越後ノ平野ニハ本州ニ於テ第一ノ長流タル信濃川及ビ阿賀野川アリ

信濃川ハ源ヲ信濃ノ東境ニ發シ長野ノ東ニ於テ犀川ヲ合セテ東北ニ向テ流レ新
 潟港ニ於テ海ニ注グ長サ凡ソ百里アリ
 阿賀野川ハ岩代ヨリ來ル其上流ヲ日橋川ト云フ阿賀野川ノ河口ハ信濃川ノ河口
 ニ近ク其間運河ヲ以テ相通ズ
 信濃ノ中央ニハ富士帶及ビ飛驒山脈ノ餘波蜿蜒トシテ連リ之レニヨリテ一ノ分
 水界ヲ作り爲メニ天龍木曾ノ二川ヲシテ太平洋ニ流下セシメ千曲川及ビ犀川ヲ
 シテ日本海ニ向ハシム

此區域ニ屬シテ諏訪湖及ビ猪苗代湖アリ諏訪湖ハ和田峠ノ西南ニアリ周回四
 里ニシテ海面ヲ抜クコト二千六百餘尺ノ高處ニアリ此湖面冬季ハ氷結シテ人
 馬其上ヲ往來ス湖邊ヨリ富士山ヲ眺ムルノ景至テ佳ナリ又此湖水ハ噴火口
 ノ跡ナリトシテ見ラレタル所ナルガ近時ノ研究ニヨレバ其實噴火口ニ非ズシ
 テ八ヶ岳ノ熔岩其南方ヲ塞ギタル爲メニ生シタル一ノ堰止湖ナリトゾ
 猪苗代湖ハ岩代國會津郡ノ中央ニアリ周回十六里其水流レテ日橋川トナリ越
 後ニ入りテ阿賀野川トナル此湖水ハ東方ニ向テ灌溉用ノ爲メニ疏水セラレタ

レバ此湖ノ水ハ此天然及ビ人爲ノ川ニヨリテ太平洋ト日本海トニ分流スルモ
 ノナリト云フコトヲ得ベシ此湖ノ北ニハ盤梯山高ク聳エテ風景甚ダ佳ナリ而
 シテ此湖ノ成因ハ歴史前ニ於テ盤梯山ヨリ噴出シタル灰泥等ノ爲メニ流水堰
 キ止メラレタルニアリ

越後平野ニ於ケル主要ナル河ニハ最上川御物川能代川等アリテ何レモ沿岸ニ
 峙立スル火山脈ノ間ヲ横斷シテ流ル但シ岩木川ノミハ源ヲ陸奥ノ南境ニ發シ
 テ山脈ニ並走シテ北ニ向ヒ海ニ入ル

沿岸 一般ノ事ハ略シ島嶼及ビ海流ニ關シテ一二ノ事實ヲ舉グレバ伊豆御倉
 島ト八丈島トノ間ニハ日本海流ノ最モ急駛ナル處アリテ黒瀬川ト稱ス小笠原島
 ハ今ヨリ凡ソ三百年前ニ小笠原貞頼ノ發見シタル島ニシテ其南ニ火山列島アリ
 所謂硫黃島ハ此中ニアリ明治廿四年法律ヲ以テ我版圖ニ屬スルコトヲ公然發布
 セラレタリ臺灣ノ地我ニ屬セシ前ニ於テハ本邦ノ南端ハ與那國島ナリヤ將タ此
 島ナリヤトシテ議論トナリシ所ナリ

交通 關東諸國ハ往昔政權ヲ握リシ武將ノ割據セシ地ニシテ天然ノ要害ヲ特

ミテ往來ノ便ヲ圖ラザリシガ徳川氏覇權ヲ執ルニ及ビ諸國大名ノ參勤スル街道ニ當レル所ノミハ大抵之ヲ修理シタリ而シテ汽船汽車ノ開ケテヨリ以來宿驛ノ繁昌ハ昔日ノ如クナラズト雖モ道路ハ依然トシテ尙寧ロ舊時ヨリモ進歩シタリ而シテ現今ハ汽車汽船ノ便備ハリ至ラザルコトナシ交通上其他ノ點ニ就テハ之ヲ教科書ニ讓ル

東京府

管轄區域 東京市ノ外武藏ノ中八郡伊豆ノ内伊豆七島及ビ小笠原島ヲ管轄ス面積百二十六方里アリ

伊豆七島及ビ小笠原島ヲ東京府ニテ支配スルハ是等離島ハ交通甚ダ不便ニシテ東京府ノ如キ中央政府所在地ノ地方行政機關ニテ種々ノ點ニ於テ便宜ヲ有スルモノガ之ヲ支配スルヲ以テ最モ便利ナリトスルガ故ナリ

東京市ノ人口ハ目下凡ソ百四十萬ヲ超ユ滯在見物等ノ人ヲ合スレバ凡ソ百五十萬ニモ達スベシ實ニ人口ノ點ニ於テハロンドン、ニユト、ヨーク、パリ、北京、廣東ヲ除クノ外第一ニシテ即チ世界第六ノ都府ナリ

東京市街ハ山ノ手下町ニ分ル而シテ全體頗ル不規則ニシテ京都ノ市街ニ似テ碁盤ノ目ノ如キハ僅カニ市ノ一部分ニ限レリ是レ中ノ城(今ノ宮城ノ所)ヲ中心トシテ次第ニ發達生長シタルニヨル而シテ其發達斯ノ如キガ故ニ審ニ之ヲ察スルトキハ猥ニ不規則ナルニ非ズシテ扇形ヲナセルモノナルコトヲ知ルベシ讀者ヨロシク東京市街ノ地圖ヲ開テ之ヲ考フベシ又凡テノ他ノ都府特ニ急劇ナル進歩ヲナセル都府ニ就テ其發達ノ模様及ビ其原因ヲ講究シ此ノ講究ニヨリテ得タル一般ノ諸法則ヲバ他ノ都邑ニ當ハメルコトヲカムベシ然レドモ是レ至テ難キコトニテ且往々誤謬ニ陥ルコトアリ注意セザル可ラズ

東京ニ對スル港ハ横濱ナルガ東京ソレ自身ノ港ハ品川ナリ東京ノ隅田川尻ニ當ル部分ハ舊時ハ斯ノ如ク淺カラザリシガ徳川氏ノ末ニ當リテ砲臺ヲ海中ニ築造シタルヲ以テ之レガ爲メニ川ノ流勢ヨドミ舊時ハ潮ノ差引ト共ニ河水モ遠ク砂泥ヲ遠方ニ流出堆積シタルモノガ今ハ之レガ爲メニ支ヘラレテ川尻近ク砲臺ノ手前ニ堆積シ遂ニ現今ノ如ク絶エズ浚渫ヲ要スルニ至レリ此舊時ノ砲臺ハ今尙臺場ト稱シ人ノ能ク知レル所ナリ

東京ノ如キ大都ガ横濱トノ間ニ鐵道アルノミニテハ交通ノ機關十分ナルモノニ非レバ東京ノ港ノ築成ノ如キハ急務中ノ急務ナリト云フベシ

東京ハ海邊ニアリト雖モ下總ノ銚子又伊豆ノ海岸ノ如キ位置トハ大ニ異ナルヲ以テ其氣候ノ上ニ於テ稍内地の性質ヲ帶ブルハ著シキ事實ナリトス(臺灣臺北ノ如キハ稍内地ニ位スルヲ以テ内地の氣候ノ性質稍著シク北海道上川ノ如キハ最モ内地ニ位スルヲ以テ内地の氣候ノ發達頗ル顯著ナリトス)

其他東京ニ就テノ事業ハ爰ニ畧スベシ

埼玉縣

管轄區域ハ武藏ノ内九郡面積二百六十五方里縣廳ハ浦和町(市ニ非ズ)ニアリ浦和ノ北ニ大宮アリ此處ニ官幣大社氷川神社アリテ武藏ノ一ノ宮ナリ此レ地名ノ由テ起ル所以ナリ又此地ハ中仙道鐵道ト東北鐵道ト分岐スル點ニ當リ日本鐵道會社ノ如キハ此地ニ大工場ヲ設ケタリ將來頗ル繁盛トナルベシ大宮ヨリ中仙道鐵道ニテ進ムトキハ熊谷アリ熊谷直實ノ墳墓ハ此ニアリ

神奈川縣

相模全國及ビ武藏ノ一市三郡ヲ管轄ス面積百五十六方里縣廳ハ横濱市ニアリ(神奈川ニアルニ非ズ)

横濱市ノ人口ハ目下二十萬ニ達セリ維新ノ時マデ葦ノ生ヒ茂リタル沼地ハ今ヤ變ジテ奈古屋ニ匹敵スルノ大市トナレリ其外國貿易ノ盛ナルコト我國第一ニシテ輸出入額ハ殆ンド二億圓ニ垂ントス(但シ神戸モ殆ンド横濱ニ劣ラザル貿易額ヲ有シ僅々ノ小差アルノミナルコトハ忘ルベカラズ)外國貿易ノ金融機關トシテ最モ大切ナル正金銀行ノ如キモ亦横濱ニ本店ヲ有ス又條約諸國ノ領事館アリモトハ不完全ナル港ナリシガ築港以來少クシ面目ヲ改ムルニ至レリ

横濱港ヨリ輸出スル主要ナル物品ハ生絲、茶、銅等ニシテ輸入ノ重要ナル物品ハ綿絲、砂糖、石油、唐縮緬、吳呂等ナリ

横濱ノ西南ニ突出スル半島ハ三浦半島ニシテ此半島ハ諸種ノ關係ニ於テ最モ重要ナルコトヲ忘ルベカラズ國防上ノ點ニ於テ横須賀軍港及ビ之ニ關係スル砲臺アリ安政年間ベルリノ始テ來リタル浦賀港アリ三崎ニハ東京帝國大學ノ臨海實驗所アリ

横須賀ノ西ニハ鎌倉アリ鎌倉ハ昔源頼朝ノ幕府ヲ開キシ地ニシテ鶴ヶ岡八幡建
長寺長谷観音等有名ナル神社佛閣尙存シ稻村ヶ崎由井ヶ濱等ノ故蹟頗ル多ク前
ニ近ク江ノ島ヲ控ヘ遙ニ富士山ヲ望ミ風景絶佳ナリ

鎌倉ノ如キ地ニ至ルモノハ皆其果シテ覇府ノ地タルニ適セルヤ否ヤヲ疑ハザル
ナシ然レドモ鎌倉時代ニ在テハ斯ノ如ク四方丘陵ヲ以テ取巻カレ僅カニ「切通シ」
ヲ以テ通行スベキ鎌倉ノ如キ土地ハ實ニ要害無雙ノ地ナリシコトヲ思ハザル可
ラザルナリ

鎌倉ノ近傍ニ金澤ト稱スル所アリ金澤八景ハ有名ナレドモ此景色ハ土地ノ變遷
ニヨリテ古ト今トハ大ニ趣ヲ異ニセリ此地ニ遊ブ人ハヨロシク此ニ就テ探究ス
可シ

箱根ハ舊火山ニシテ其複成火山ナルコト已ニ述ベタル所ナリ其温泉ハ最モ名ア
リ中央火山ニ近ク即チ火山活動現象ノ元ニ近キ所ノ蘆ノ湯ハ硫黄泉ナルニ反シ
テ火山ノ入口ナル湯本ノ湯ハ單純泉ナリ其中間ニアルモノハ諸種ノ鹽類泉ナリ
火山ノ部分ニヨリテ自ラ温泉ノ種類モ多少ノ相違アリヤ否ヤ火山地方ニ遊ブモ

ノ必ズ査究シ置クベキコトナリトス

千葉縣

管轄區域ハ安房上總ノ兩國及ビ下總ノ内六郡ナリ面積三百二十六方里ニシテ縣
廳ハ千葉町ニアリ

千葉町ニハ尙外ニ第三高等學校醫學部アリ銚子ニハ銚子縮及ビ醬油ヲ産ス又九
十九里濱ノ水産ハ世ニ名アリ

鋸山ハ上總安房ノ界ニアリテ第三紀ニ屬スル凝灰質砂岩ニヨリテ成レリ其山脊
或ル方向ヨリ見ルトキハ鋸ノ齒ノ如ク見ユルト雖モ實際就テ之ヲ見ルトキハ
然ラザルナリ山上ニ十州一覽臺ト稱スル名所アリ此山ヨリ盛ンニ石材ヲ切り出
ス

又房州ヨリ房州砂ナルモノヲ産ス是レ輕石ノ小ナルモノニシテ即チ火山灰ト質
ヲ等フス往昔大島箱根富士等ヨリ盛ンニ噴出シタルトキ海底ニ沈澱セシモノナ
リ東京ニテハ米商此房州砂ヲ以テ米ヲ白ラゲルモノ少カラズシテ都人士ノ困難
トスル所ナリ

茨城縣

管轄區域ハ常陸全國及ビ下總三郡ナリ面積三百八十五方里アリ縣廳ハ水戸市ニアリ

水戸市ハモト徳川氏ノ親藩ヲ置キシ所ニシテ稱シテ水戸家ト云ヒ所謂御三家ノ一トシテ非常ニ尊敬シタル所ナリ徳川光圀、徳川齊昭、藤田東湖ノ如キ名君賢臣ノ輩出シタル所ニシテ有名ナル弘道館及ビ借樂園ハ今尙存セリ筑波山ハ土浦ノ西北ニ聳エ花崗岩頂上ハ閃綠岩ヨリ成ル有名ナル「ミナノ川」ハ涓々タル點滴、溪間ノ清水タルニ過ギズ

栃木縣

管轄區域ハ下野全國ナリ面積百十二方里ナリ縣廳ハ宇都宮市ニアリ
宇都宮市ハ奥州街道ノ要路ニ當レリ蒲生君平ハ此地ニ生レタリ

日光ハ徳川祖廟ノ在ル所ニシテ其結構壯麗ニシテ日光ヲ見ザンバ結構ヲ云フコト勿レノ俗諺モアル位ナリ然レドモ今ヤ金ハ剣ダ朱ハ失セ凡テ昔日ノ觀ナク之ヲ舊時ノ有様ニ回復センニハ非常ナル費用ヲ要スルヲ以テ保晃會アリト雖モ未

ダ目的ヲ達スルコト能ハザルナリ日光ノ町ハ高サ六百メートル(海面上)ヲ越ユ

日光ノ西方及ビ北ニ聳ユル山ハ皆火山ニシテ其峯ノ最モ高キハ男體山ナリトス高サ二千四百メートルアリ其南麓ニ中禪寺ノ湖水アリ湖水ノ面ハ海面上一千三百メートルノ高サアリ其水落テテ華嚴ノ瀧トナル瀧ノ高サ七十五丈幅ハ上部ニ於テ二間下部ニ於テ八間ナリト稱ス湖水ハ周回八里南北一里東西三里ト稱ス湖中モト魚ヲ生ゼズ近年此ニ魚ヲ養成シテ今ヤ盛ニ繁殖セリ此湖水ハ男體山ノ噴火ニヨリ流水ヲ堰キ止メテ生成セシモノナリ即チ堰止湖ノ一種ナリ日光ニハ數多ノ瀑布アリ秋ノ紅葉ハ最モ名アリテ凡ソ風景ノ美ナルコト日光ノ如キハ類多カラズ

足尾銅山ハ日光ト峠一ヲ隔ツ本邦第一ノ銅山ナリ

足利ニハ足利學校アリ足利ノ近傍ナル太田ノ金山ニハ新田氏、栃木、佐野ノ間ナル唐澤ニハ藤原秀郷ノ城趾アリ

中禪寺湖ハ古放魚ヲ禁ジタルナリ又此邊ハ女人禁制ノ處ニテ婦人ノ至ルコト能ハザリシ地ナリ

群馬縣

管轄區域ハ上野全國ナリ面積四百七方里縣廳ハ前橋市ニアリ
碓氷峠ハ上野信濃ノ境ニアリ箱根山ト相應ジテ關東ノ境ヲナス此峠ハ又日本武
尊ノ故事ヲ以テ著ハル上州横川ト信州輕井澤トハ鐵道ヲ以テ連絡シ其一部ハ急
勾配ナルヲ以テ所謂アプト式鐵道ヲ用ユ

上野ノ國ハ火山ニ富ミ溫泉頗ル多シ又養蠶ノ業全國ニ冠タリ

福島縣

管轄區域ハ岩代全國及ビ磐城七郡ヲ含ム面積八百四十六方里アリ縣廳ハ福島町
ニアリ(市ニ非ズ)

東北ノ境ニハ靈山聳ユ麓ニ北畠顯家ヲ祭レル靈山神社アリ別格官幣社タリ中村
ハ東海岸ニアリ所謂相馬地方ノ中心ニシテ相馬燒ノ名産アリ平ハ磐城ノ中最モ
有名ナル都邑ニシテ磐城平トシテ古ヨリ有名ナリ

福島ノ北ニハ有名ナル半田銀山アリ西ニハ吾妻山アリ明治廿六年ノ破裂ニ於テ
農商務技師理學士三浦宗次郎氏官命ヲ奉ジテ本山破裂ノ實況ヲ調査スルノ際忽

然一大爆裂ニ遭遇シ土石雨ノ如ク下リテ終ニ非命ニ斃レタリ若松市ハ會津平原
ノ都會ニシテ北ニハ盤梯山アリ猪苗代湖ハ盤梯山ノ南麓ニアリテ湖上ニハ汽船
往復ス冬モ此湖ハ氷結スルコトナシ其水流レテ日橋川トナリ阿賀川ノ上流ヲナ
ス白河ハ戊辰ノ變ニ於テ有名ナリ其東南古關村ニ白河ノ關ノ跡アリ三春ハ郡山
ノ東方ニアリ其近傍ヨリ良馬ヲ産ス所謂三春駒ト稱スルモノ之レナリ
猪苗代湖ハ盤梯山破裂ノ爲メニ土砂流水ヲ滯溜セシメテ成生セシモノナリ即
チ一種ノ堰止湖ニ外ナラス

宮城縣

宮城縣ハ磐城ノ三郡及ビ陸前ノ十三郡ヲ管轄ス面積五百四十一方里縣廳ハ仙臺
市ニ在リ

仙臺市ハ奥羽第一ノ大會ニシテ東京ヲ距ルコト汽車ニテ十二時間程ノ所ニア
リ伊達氏ノ舊城下ニシテ林子平ハ此地ニ生レタリ第二師團司令部宮城控訴院及
ビ第二高等學校ノ所在地ナリ物産ニハ仙臺平及ビ埋木細工最モ名アリ埋木ハ仙
臺ノ南方ヲ流ル、名取川ヨリ産ス

鹽釜ハ仙臺灣ニ臨ミ有名ナル鹽釜神社アリ製鹽ニ由緒アル所ニシテ其地名ハコレニ由來セルモノナリ此地ヨリ松島ヲ望ムノ景頗ル宜シキヲ以テ來リ遊ブモノ少カラズ松島ハ仙臺灣ノ西部ニアリ數多ノ小島一面ニ羅列シ各ノ島上ニハ松樹生ヒ茂リ所謂日本三景ノ一トシテ世ニ名高シコレヲ構成セル地質ハ凝灰岩ニシテ其質水ニ浸サレ易キヲ以テ水蝕ノ結果トシテ斯ノ如キ數多ノ小島ヲナスニ至リシモノナリ石ノ卷ハ北上川ノ口ニアリテ商業繁盛ナル良港ナリ野蒜ハ其西ニ在リ萩ノ濱ハ石ノ卷ノ東南ニアリ野蒜ハ曾テ築港ノ計劃アリシ所ナルガ終ニ其ノ効ヲ奏セザリキ萩ノ濱ハ濱横ヲ發シテ本邦ノ北部ニ往來スル所ノ汽船ノ寄泊スル所ナルヲ以テ名アリ金華山ハ牡鹿半島ノ東方ニアル小島ニシテ眺望甚ダ佳ナリ

古來ヨリ有名ナル宮城野ハ北上阿武隈兩川ノ灌域ニ屬シ米穀ヨク登リテ重要ナル物産ノ一タリ北上川ハ汽船ノ往來頻繁ニシテ運送ノ便少カラズ此國ノ西北ニハ鍛冶屋澤ト稱スル地アリ此近傍ヨリ名馬ヲ産ス久シク御料ノ馬トシテ名高カリシ所ノ金華山ハ此地ニ出シモノナリ此地ヨリ西方ニ鬼首ト

稱スル所アリ吹上溫泉ト稱スル溫泉アリ時ヲ定メテ噴騰スル間歇溫泉ナリ我邦ニハ溫泉ハ多ケレドモ此種ノ溫泉ハ少シ伊豆ノ熱海ト此地トヲ除キテハ北海道膽振ノ登別ニ於ケルモノコレアルノミ臺灣ニハ間歇溫泉ノ存否未ダ明カナラズ

岩手縣

岩手縣ハ陸前ノ一郡陸中ノ十七郡及ビ陸奥一郡ヲ管轄ス面積八百九十九方里アリテ縣廳ハ盛岡市ニアリ

盛岡市ハ陸中第一ノ都會ニシテ南部氏ノ舊城下ナリ仙臺ヨリ青森ニ通ズルノ路ニ當リ其間ニ於テ最モ繁盛ナル都會ナリ有名ナル厨川ノ柵ノ跡ハ此近傍ニアリ水澤ハ陸中國ノ南部ニアリ萬國測地學協會ノ議決ニヨリ地球ノ緯度ノ變化ノ測定ヲナス爲メニ列國ノ費用ヲ以テ天文臺ヲ新設セントスルハ此地ニ於テスベキ筈ナリ鎮守府ノ舊跡モ水澤ノ近傍ニアリ

衣川ハ北上川ノ一支流ニシテ此附近ニハ古跡多ク衣川ノ柵ノ跡中尊寺等アリ一ノ關ハ國ノ南境ニ近キ名邑ナリ釜石ハ北上山脈ノ東部海岸ニアル良港ナリ此西

方ニハ有名ナル大鐵山アリテ所謂釜石鐵山トハ即チ是レニシテ概算ニヨリテモ
二千萬噸以上ノ製鐵原料アリト云フ

陸中ノ東海岸ハ去ル明治廿九年夏ニ大津浪アリテ非常ナル害ヲ被リタリ

青森縣

青森縣ハ陸奥八郡ヲ管轄ス面積六百七方里縣廳ハ青森市ニアリ

青森ハ本州ト北海道トノ間ノ交通ノ要點ニ當ルヲ以テ年ヲ追フテ盛大ニ赴ケリ
灣ノ東ニ夏泊崎突出シテ青森灣ト野邊地灣トノ界ヲナス野邊地灣頭ニハ同名ノ
市街アリ斗南半島突出シテ一大灣ヲ抱ク之ヲ陸奥灣ト云フ大湊ハ斗南半島ノ南
岸ニアリテ野邊地ト相對ス軍事上最モ必要ナル港トシテ世人ニ注目セラレタル
所ナリ

陸奥ノ東岸ニ八ノ戸ノ市街アリ八ノ戸ヨリ西北ニ當リテ三本木ト稱スル所ニ軍
馬育成所アリ

青森ノ西南ニ弘前市アリ陸奥ノ國ニ於テハ第一ノ都會ニシテ岩木川ニ臨ミ商業
モ亦繁盛ニシテ第八師團ノ司令部アリ津輕塗ハ此地ノ名産ナリ

碓ヶ關ハ弘前ノ東南ニアリ官設ノ奥羽線ハ此地マデ延長シ數年ナラズシテ山形
米澤ヲ經テ福島ニ通ズベシ

秋田縣

秋田縣ハ羽後ノ八郡及ビ陸中ノ一郡ヲ管轄ス面積七百五十四方里縣廳ハ秋田市
ニアリ

秋田市ハ御物川ノ河口ニアリ佐竹氏ノ舊城下ニシテ其名産ハ秋田織及ビ秋田蕎
ナリ秋田市ニ對スル港ハ土崎ニシテ其間僅ニ二里弱アリ鐵道馬車ヲ以テ相通ズ
秋田市ノ土崎ニ於ケルハ尙東京市本部ノ品川ニ於ケル、名古屋ノ熱田ニ於ケル、岡
山ノ三番港ニ於ケル、金澤ノ金石カネイシニ於ケル、熊本ノ百貫石ヒヤクカンシキニ於ケル、大坂市本部ノ川
口ニ於ケル、松山ノ三津濱ニ於ケルト關係相等シ

土崎ノ北方ニハ八郎潟アリ男鹿半島其西ニ突出シテ寒風山ノ火山其中ニ聳ユ此
半島ノ爲メニ船川灣ヲ生成ス此灣ハ適當ノ築港ヲナストキハ良港タルベキ價值
アリ良港灣ノ少キ日本海ノ岸ニ於テ船川灣ノ位置ハ決シテ輕視スベカラズ
八郎潟ハ一見スレバ單ニ堰止湖ニ外ナラザレドモ之レガ成因ニ就テハ地面ノ陷

没モ亦與テカアリ其證トシテ見ルベキハ湖底ハ往古ノ森林ノ埋没セラレタルモ
ノアリト是レ學友佐藤理學士ガ實見ノ後余ニ語ラレタル所ナリ
能代ハ能代川ノ口ニアリテ能代塗ノ名産アリ秋田ヨリ東南ニ進ムトキハ横手ニ
至ル此近傍ニ金澤ノ柵ノ跡アリ出羽富士ノ稱アル鳥海山ハ縣ノ南境ニ於テ海岸
ニ近ク立テリ

此縣内ニハ有名ナル鑛山多シ北部ニハ小坂鑛山及ビ尾去澤銅山アリ中部ニハ
阿仁鑛山及ビ荒川銅山アリ南部ニハ院内銀山アリ

山形縣

山形縣ハ羽前全國及ビ羽後ノ一郡ヲ管轄ス面積六百方里ニシテ縣廳ハ山形市ニ
アリ

山形市ハ藏王山ノ西北ニ位シ商業頗ル盛ナリ酒田ハ最上川ノ口ニアリテ船舶ノ
出入頗ル多シ

湯殿月山羽黒ノ三山ハ羽前ノ三山ノ稱アリ最上川ハ富士川球磨川ト共ニ日本ノ
三急流ト稱セラル最上川ノ上流ニハ米澤市アリ上杉氏ノ舊城下ニシテ精巧織等

ノ産出ヲ以テ名アリ

新潟縣

新潟縣ハ越後及ビ佐渡ヲ管轄ス面積八百二十五方里縣廳ハ新潟市ニアリ

新潟市ハ信濃川ノ口ニアリテ條約港ノ一ナリ然レドモ信濃川ヨリ流出スル土砂
河ノ口ヲ埋メテ大船ノ入港ニ適セズ故ニ五港ノ一トシテ名ハ高ケレドモ其實ナ
シト云フモ可ナリ但シ外國船ハ佐渡夷港ニ碇泊シテ風波ヲ避クルコトヲ許サレ
テアルナリ

新發田ハ新潟ノ東方ニアリテ第二師團ノ分營アリ新潟ヨリ信濃川ヲ溯レバ三條
ニ至ル三條ノ東北ニ五泉アリ五泉平ト稱スル袴地ノ名産アリ長岡ハ三條ノ南ニ
アリテ新潟ヲ距ルコト十七里此間小汽船ノ往來盛ナリ長岡ハ越後中部ノ大都邑
トモ稱スベキ處ニシテ商業盛大ナリ長岡ノ近傍ニハ石油ノ盛出頗ル盛大ナリ將
來越後重要産業ノ一トナルベシ

世界石油産地ノ主タルハアメリカ合衆國ノペンシルヴァニア州及ビ裏海ノ沿
岸ナルパーカー地方ナリサング諸島之レニ次グ本邦石油ノ輸入ハ非常ノ高ナ

ルガ翻テ内地ヲ見レバ越後ヲ除クノ外重要ナルモノ少シ遠江、信濃、羽前、羽後、北海道及ビ臺灣ニ多少ノ産出アレドモ未ダ本邦全體需用ノ十分ノ一ヲモ満スニ足ラザルナリ

朽尾ハ紬ヲ以テ、小千谷ハ縮ヲ以テ、十日町ハスキヤヲ以テ名アリ
直江津ハ國中ノ要津ニシテ鐵道ノ便アリ、高田ハ此南ニアリ、此地ト直江津トハ其間極メテ近ケレドモ降雪ノ分量ハ非常ナル相違アリテ、高田ノ深雪ハ世ニ名高シ、是レ地文學上特ニ注意スベキコトナリトス

越後ト越中トノ境ニハ親不知子不知ノ險アリ、此處ハ飛驒山脈ノ餘波大連華山小連華山等ヲ起シテ蜿蜒セル高山脈ノ北端ニシテ絕壁ヲ以テ海ニ入レル所ナリ一方ハ幾百尺ノ絶崖削ルガ如ク一方ハ岸ヲ打ツ波轟々トシテ絶エズ押寄セル間ニ細キ路ノ跡岩石ノ上ニ印セラレタルノミニテ唯處々ニ洞穴ノ様ノモノアリ、絶壁ノ横ヲエグリタルナリ、此處ヲ通行スルモノハ一ツノ波ノ退ケル僅カノ際ヲ考ヘテヒタ走リニ彼ノ洞穴ノ一ツニ走リコメバ荒波忽チ押シ返シテ寄せ來ルナリ、依テ其打チ上ゲタルヲ見澄シ其波ノ退ケル間ニ其洞穴ヲ拔ケ出デ、次ノ洞穴ニ走

文一三ノ八六

文一四ノ七七

リ込ムナリ其危險ノ狀得テ知ルベシ其危險ノ際ニ於テハ親子ノ情ヲ以テシテモ相救フニ違アラズ親ハ子ヲ捨テ子ハ親ヲ知ラズ原人的ノ動物性ヲ出現シテ唯己レノミ助カラント思フ一念強シ故ニ此處ヲ親不知子不知ノ險トハ云フナリ維新以後此惡路ヲ除テ交通ノ便ヲ圖ラントテ屢企圖アリテ途ニ道路ヲ山上ニ開キ今ハ其新道切開キノ側面ニ如坦如砥ト記シアリトゾ往年聖上北越御巡幸ノ際ニ於テハ已ニ此新道ヲ御通行アラセラレタリ

直江津ヨリ東方ノ海岸ニハ柏崎、出雲崎、寺泊ノ諸港アリ、出雲崎ノ西ニ尼瀬アリ、越後ニ大石油産地ノ一トシテ最モ有名ナリ、海底ヨリ石油ヲ噴出ス、今アメリカノ職工ヲ雇ヒ西洋ノ式ニヨリテ盛ンニ採取セリ
出雲崎ヨリ北方ノ海上十一里餘ニシテ佐渡ノ小木ニ至ル、小木ノ北ニ新町アリテ眞野灣ニ臨ム、其東方眞野村ノ山中ニ順德天皇ノ御陵アリ、相川ハ佐渡第一ノ都會ニシテ無名異燒ト稱スル陶器ヲ産ス、東北金北山ノ麓ニハ金銀ノ産出多シ、東ニ夷町アリ、新潟條約港トノ關係ハ前ニ之ヲ述ベタリ

長野縣

長野縣ハ信濃全國ヲ管轄ス面積八百五十四方里縣廳ハ長野市ニアリ
 長野市ハ有名ナル善光寺アリ千曲川ト犀川トハ此近傍ニ於テ相會シテ信濃川ト
 ナリ一川トナリテ越後ニ入ル信濃川即チ是レナリ
 此近傍ノ土地ハ平坦ニシテ善光寺平ノ通稱アリ此邊ノ氣候ハ内地性氣候ニシ
 テ寒暑ノ差甚シト云フ
 長野ノ近傍ナル千曲川犀川ノ會流點ハ即チ川中嶋ニシテ武田上杉兩雄ノ古戰
 場トシテ最モ世ニ名高シ
 松本ハ犀川ノ灌域ニ位シ松本平ノ中心トシテ知ラル長野縣ニ於テ第二ノ都會タ
 リ
 木曾川ハ源ヲ小木曾山中ニ發シ木曾山脈ノ西北ヲ經過シテ美濃ニ入ル此河谷ニ
 ハ有名ナル大森林アリテ良材ヲ産ス木曾街道ハ之レニ沿ンテ通ゼリ其谷ハ急峻
 ニシテ所謂木曾ノ棧道トハコレナリ
 飯田ハ天龍川谷ノ中央ニアリ南方參遠諸國ニ達スル要衝ニ當リ人馬ノ往來頻繁
 ニシテ傘、紙等ヲ産ス

文一四ノ七八

文一四ノ七九

天龍川ハ源ヲ諏訪湖ニ發シ南ニ流レテ遠江ノ國ニ入ル諏訪湖ハ和田峠ノ西麓ニ
 アリ冬季ニハ湖面堅ク氷結シテ人馬往復スベシ
 諏訪湖ハ噴火口ノ跡トシテ久シク人ニ知ラレタリシガ最近ノ調査ニヨレハ噴
 火口ニ非ルコト明カトナレリ即チ此湖ノ生成ハ八ヶ岳ノ噴出ニヨリテ甲斐國
 ニ向ケテ流下セシ昔ノ河ヲ塞ギテ今ノ諏訪湖ヲナセシモノニテ即チ堰止湖ノ
 一種トシテ見ルベキモノナリ彼ノ猪苗代湖ノ如キト其ノ生因ヲ同ジクセルモ
 ノナリ
 天龍川ノ谷ハ伊那地方ト稱シ養蠶甚ダ盛ナリ
 信濃ト上野トノ境ニ碓氷峠アリ日本武尊ノ故事ヲ以テ有名ナリ其他佐久間象山
 ノ生地ヲ以テ有名ナル松代觀月ノ勝地トシテ知ラレタル姨捨山ハ皆此國ニアリ
 トス

山梨縣

山梨縣ハ甲斐全國ヲ管轄ス縣廳ハ甲府市ニアリ
 縣内ノ區域ノ水ハ大抵富士川トナリテ富士山ノ西麓ヲ經テ駿河灣ニ入ルカシカサワ 嶽澤ヨ

リ小舟ニテ下レバ水勢矢ノ如ク日本三急流ノ一タル名ニ背カザルナリ
 南ニ身延山アリ日蓮宗ノ本山アルヲ以テ有名ナリ
 甲斐ノ物産ヲ絹及ビ葡萄トス絹ハ都留郡世ニ此地方ヲ郡内ト稱ス葡萄ハ勝沼最
 モ名アリ相模川ノ上流ニ猿橋驛アリ其橋ハ日本三奇橋ノ一ナリ
 甲府ハ往古ノ湖底タル證跡アリ其市街ノ井水ハ大抵其質不良ナリ
 官設ニヨリテ甲州街道ニ沿フテ敷設セラルベキ鐵道ハ今工事中ナルガ隧道ノ多
 キコト甚シク就中笹子峠ハ一萬六千尺小佛峠ハ八千尺ノ大隧道アリ此工事落成
 ノ曉ニハ日本ニ於テ第一第二ノ大隧道トナルベシ

第二章 中區ノ西部

區域 中區ノ内ニテ富士帶以西ノ府縣ヲ包括ス即チ京都、大阪ノ二府、静岡、愛知、
 岐阜、三重、和歌山、徳島、高知、宮崎、鹿兒島、熊本、長崎、佐賀、福岡、島根、鳥取、福井、石川、富山、滋
 賀、奈良、兵庫、岡山、廣島、山口、大分、愛媛、香川ノ二十七縣ヲ包括ス

山系 此部ノ山系ハ崑崙山系ニ屬シ之ヲ内外兩帶ニ分ツ其外帶ニ屬スルモノ
 ニハ九州南部山脈、四國山脈、赤石山脈アリ内帶ニ屬スルモノニハ中國山脈、飛驒山

脈等アリ別ニ霧島帶ノ火山脈アリ是等ハ既ニ前ニ詳述シタルヲ以テ爰ニ略ス
 水系 此區域ノ河川ハ其分水區域ニヨリテ太平洋、瀬戸内海、日本海及ビ支那東
 海ノ四斜面區域ニ分ツ

太平洋斜面區域ニハ木曾川、矢作川、豊川、天龍川、大井川、安倍川、富士川アリテ皆南流
 ス又此區域ノ西部ニ於テ宮川ハ東流シ熊野川ハ南流シ紀伊川ハ西流ス其他四國
 ニ吉野川、仁淀川、渡川アリ九州ニ五箇瀬川、美々津川、大淀川等アリ

支那東海斜面區域ニハ川内川、球磨川、白川、菊池川、筑後川等アリ
 日本海斜面區域ニハ山陰、山陽兩道ヲ横斷スル江ノ川最モ名アリ瀬戸内海斜面區
 域ニハ獨リ淀川ヲ推ス琵琶湖ノ水モ亦此斜面區域ニアリ

以上ノ中球磨川ハ日本三急流ノ一ナルヲ以テ知ラル其上流ニ人吉下流ニ八代
 ノ市街アリ川内川ハ九州第一ノ長流ナルヲ以テ知ラル下流ニ川内ノ市街アル
 アリ筑前ノ遠賀川ハ其流大ナラザレドモ石炭産出地ヲ通過スルヲ以テ運送ノ
 關係大ナリ筑後川ハ九州第一ノ大河ニシテ筑紫二郎ト稱ス此河ノ沿岸ニハ菊
 池氏勤王ノ遺跡アリ吉野川ハ四國第一ノ大河ニテ下流ノ沿岸ニハ藍ノ名産ヲ

以テ知ラル淀川ノ灌域ハ實ニ日本既往、現在、將來ノ大關係アル土地ニテ之ニ就
 テハ爰ニ論及セズ熊野川ハ下流ニ瀨八町ノ名所アリ此河谷ノ如ク山脈ヲ横斷
 セルモノハ横谷ナリ(四國ノ吉野川ノ如キハ之ニ反シテ山脈ニ沿フテ流ル、ヲ
 以テ其谷ハ縱谷ナリ)縱谷横谷ノ區別ハ人ノ能ク混ジ易キ事柄ナルヲ以テ注意
 スベシ三河ノ矢作川ハ豐川及ビ矢作川ノ一支流タル大平川ト並稱シテ此國ニ
 三河ノ名稱ヲ生ゼシメタリ富士川ハ日本三急流ノ一ナリ天龍川ハ信濃ノ諏訪
 湖ヨリ發源ス大井川ハ舊幕府時代ノ交通上ニ於テハ其運臺越ヲ以テ有名ナリ
 キ伊勢ノ雲出川ハ南伊勢北伊勢ヲ分ツノ界ナリ木曾川本支流ノ灌域夏季雨多
 ク其下流洪水ノ憂少カラズ神戸ノ湊川近江ノ姊川何レモ小河就中湊川ノ如キ
 ハ平時水ナキ程ナレドモ歴史上ノ關係ニテ有名ナリ
 琵琶湖ハ周回六十里アリ舊來七十三里ト稱シタレドモ此數ヲ以テ正ニ近シトス
 但シ琵琶湖ノ周回ノ如キハ降雨ノ模様ニヨリテハ頗ル其範圍ヲ異ニスルモノナ
 レドモ滋賀縣廳ノ調査ニヨリテ六十里トスルヲ至當トス此湖ノ南北ノ長サハ十
 六里幅ハ一里乃至五里アリ湖中ニ竹生島、沖ノ島、奥島、多景島等アリ近時此湖ノ水

文一四ノ八二

ヲ引キ其水力ヲ利用セルハ即チ所謂京都ノ疏水工事はレナリ琵琶湖ノ沿岸ニハ
 所謂八景ノ勝アリ他ノ地方ニハ何々八景ト稱スルモノハ皆此近江八景ニ擬シテ
 名稱ヲ下セルモノナリ

沿革

伊豆半島ノ沿岸ニハ絶壁多ク其東南ノ端ニアル下田港ハ幕府ノ末外交

ノ歴史ニ最モ有名ナリ又安政年間ニ大津浪アリテロシアノ軍艦此處ニテ破壊シ
 タリ此時ノ津浪ハ遠ク太平洋ヲ横ギリテ北アメリカ合衆國ノサンフランシスコ
 ニ至ルマデ餘波ヲ及ボシタリキ伊豆半島ノ南端ヲ石廊崎ト稱ス遠江ノ御前崎ト
 相對スコレヨリ以西ハ即チ有名ナル遠州灘ナリ御前崎ト石廊崎トノ間ハ清水灣
 ヲナス此灣内ニハ清水港アリテ特別輸出港ノ一タリ清水港ノ近傍ニハ三保ノ松
 原アリ下田ヨリ以西志摩ノ島、羽ニ至ルマデハ右ニ述ベタル遠州灘ノ區域ニ屬シ
 其間七十五里沿岸ニ良港ナシ故ニ舊時日本形船ニテ此灘ヲ横ギリテ江戸ニ到着
 センコトハ非常ノ困難ナルコトニテ船頭ハ皆鳥羽又ハ的矢港ニテ能ク天氣ヲ見
 定メルソ航海中ノ無難ヲ豫想シテ出發シタルモノナリキ故ニ舊時ニ於テハ鳥羽
 的矢、下田ノ如キハ現今ヨリモ遙カニ繁盛ナリシト云フ

文一四ノ八三

三河ノ渥美半島ト志摩半島トハ伊勢内海ノ口ヲ扼セリ東京灣、大阪灣、伊勢内海此三者ハ本邦ノ人文地理學上最モ重要ナル關係ニ立テルモノナリ東京灣、大阪灣ハ商業上軍事上共ニ既往將來人ノ注目スル所ナルガ伊勢内海ノ沿岸ハ諸般ノ發達大ニ劣レルハ是レ主トシテ交通上ノ關係之レヲシテ然ラシムルモノナルベシ今ヤ此沿岸ニ於ケル鐵道ハ他ニ比類稀レナル程ノ進歩ヲナシタリ又熱田ノ築港モ着々歩ヲ進メントス而シテ木曾川ノ改修工事モ遠カラズシテ成就シ沿岸ノ地此水利ヲ知リテ此水害ヲ見ル能ハザルニ至ラントス即チ此内海ガ地理學上將ニ享有スベキ發達ノ機運モ亦遠カラザルベシ

伊勢内海ノ一支トシテ見ルベキハ三河灣ナリ尾張ノ知多半島ト三河ノ渥美半島トニヨリテ圍マレ更ニ知多灣ト渥美灣トニ分ル知多灣ニハ武豐港アリテ碇泊ニ便ナリ

志摩半島ヨリ紀伊半島ノ潮岬ニ至ル間ヲ熊野浦ト稱シ所々ニ絶壁多シト雖モ沿岸ニハ水産ノ利アリテ小都會少カラズ潮岬ノ近傍ニ大島アリ東京ヨリ神戸ニ航スル船ハ日本海流即チ黒潮ノ影響ヲ受ケテ其航路ニ變動ヲ受ケ屢此邊ニテ難破

ノ患アリ潮岬以西ノ紀伊沿岸ハ其性質畧ボ熊野浦ニ似タリ而シテ北方紀淡海峽ヲ經テ大阪灣ニ入ル

大阪灣ハ廣サ(東西又南北)各十里アリ其沿岸ノ有様ハ普通ノ教科書ニ詳ナルヲ以テ爰ニ省ク

瀬戸内海ハ非常ニ屈曲ニ富メリ而シテ島嶼ノ數非常ニ多クシテ景色ノ明媚ナルハ世界ニ於テモ稀ニ見ル所ナリ且海上常ニ穩ナルヲ以テ船舶ノ往來頗ル頻繁ナリ

瀬戸内海ハ所ニヨリテ名稱ヲ異ニス播磨灘、水島灣、備後灘、硫黃灘、燧灘、周防灘是ナリ大阪灣ハ舊來瀬戸内海中ニハ算入セラレザリシト雖モ地理學上ヨリ見ルトキハ瀬戸内海中ニ算入スベキモノトス

瀬戸内海ハ早瀬海峡即チ馬關海峡ヲ以テ日本海ニ通ジ速吸海峡即チ豊後海峡ヲ以テ太平洋ニ通ゼリ而シテ淡路島ト本州トノ間ハ明石海峡ニシテ同島ト四國トノ間ハ有名ナル鳴門ナリ本邦潮流(海流ニ非ズ)ノ現象未ダ此海峡ニ於ケル如ク甚シキモノハアラズ舊時ハ舟行極メテ困難ナル處トシテ知ラレタルガ近時ノ調査

ニヨレバ滿潮ノ極點或ハ潮流靜ナルトキハ艦船ノ通行ニ困難ヲ感ゼズト此處ニ砲臺建築ノ步ヲ進メツ、アルハ此故ナリ

四國ノ沿岸南部ハ半圓形ノ大灣ヲナス之ヲ土佐灣ト云フ往古地變ノ爲メニ土地陷沒シテ此大灣ヲナシタルノ説アレドモ古書ニ舉ゲタル土地面積ノ單位ハ後世普通ニ解釋スル如キモノナリヤ否ヤハ十分調査ヲ要スベキコトナリ且地質學上ヨリ見ルモ此ノ如キ廣大ナル土地ノ陷沒ガ歴史時代ニ起レリトハ受取リ難キ事ナリ嘗テ本邦地質調査ノ基ヲ開キタルナウマン氏モ之ニ論及シタルコトアリ固ヨリ土地一部ノ陷落ハ之レアリシコトハ疑ヒナシ

九州ノ沿岸特ニ其西部ハ全國中最モ出入ニ富ミタル所ナリ其土地ノ生産力ニ富メルト外國ニ對スル關係トヨリシテ將來益發達ノ機運ニ向フベキ九州ノ土地ハ其沿岸ノ有様ニ於テモ亦此ノ如キ事實アルハ我邦ニ取リテ最モ喜ブベキコトナリトス

別府灣ノ生成モ亦土佐灣ノ如ク土地ノ陷沒大ニ與リテ力アリト云フ但シ土佐灣ニ於ケル如ク正史上ノ記録ニ乏シ鹿兒島ハ中ニ火山島ナル櫻島アリ有明灣ハ潮

ノ昇降差大ナルヲ以テ名高ク八代海ハ不知火ノ現象ヲ以テ著シ博多灣ニハ海ノ中道ト稱シテ天ノ橋立的ノ現象アリ天草洋ハ頼山陽ノ詩ヲ以テ有名ナリ

日本海沿岸ニ屈折ノ多カラザルハ國防上誠ニ惜ムベシ獨リ若狹灣アリテ中ニ舞鶴宮津敦賀ノ良港ヲ存スルハ稍人意ヲ強フスルニ足レリ又隱岐ノ西郷港能登ノ七尾港ノ如キハ何レモ良港ナリ

島根半島ハ東ニ突出シ伯耆ノ夜見ヶ濱ノ砂嘴ニヨリテ中ニ一ノ半鹹湖ヲ成セリ境港ハ夜見ヶ濱ノ盡クル所ニアリ

交通 本區ハ山陰道及ビ四國ヲ除クノ外鐵道ノ布設稍多シ特ニ京都大阪奈良ノ近傍ニハ頗ル盛ナルコトハ旅行案内ヲ見テ之ヲ知ルベシ所謂蛛網ノ如キ状態ニ至ラントス山陽道鐵道ハ目下周防徳山マデニテ止マレドモ遠カラズシテ馬關ニ通ズベシ

山陰道ノ交通ハ海陸共ニ不便ヲ極ム鐵道ノ如キハ僅カニ生野ノ近傍ニ於テ播但鐵道ノ少シク延ビタルモノアルノミ陸路ニ在テハ所謂山陰街道ト雖モ一人曳ノ車ニテハ通行スルコト能ハザル急峻ナル峠少カラズ舞鶴ニ至ルベキ鐵道モ其敷

設何レノ日ニアルヤハ今日ノ有様ニテハ確知シ難シ海岸ニハ良港乏シク且冬季ハ風波非常ニ荒キヲ以テ小舟ノ往來ハ殆ンド杜絶ス
今中部ノ西區ニ屬スル各府縣ノ地誌ニツキ二三ノ重要ナル事實ヲ附記スベシ

静岡縣

静岡市ハ人口殆ンド四萬昔ハ駿府又ハ府中ノ名アリ山田長政ハ此地ニ生レ徳川家康ハ此地ニ退隠セリ漆器製茶ノ産アリ
清水ハ静岡ノ東ニ當レル特別輸出港ナリ田子浦三保松原ハ此近傍ニ在リ久能山モ亦此處ヲ距ルコト遠カラズ

駿河ノ富士山ハ其高サ三千七百七十八米(參謀本部陸地測量部ノ精密ナル測定ニヨル)即チ一萬二千四百六十七尺餘ナリ臺灣ノ我版圖ニ歸セザルマデハ此山ハ本邦第一ノ高山タリシナリ今富士山ノ高サニ就テ諸家測定ノ結果ヲ震災豫防調査會第二十四號ヨリ抄録スベシ

- 三九二七七米突 伊能忠敬
- 三八九五、一 福田某(享保中測量)

參謀本部陸地測量部

- 三七七八、〇 シーボルト氏
- 三七九四、五 アルコツク氏
- 四三二二三、三 フアガン氏
- 三九八八、四 ウキリヤム氏
- 三二六七、一 ルビエー氏
- 三五一九、三 クニツピング氏
- 三七八〇、四 ステワート氏
- 三七七一、〇 フェントン氏
- 三七七三、四 ファブルブランド氏
- 三七六九、四 メンデンホール氏
- 三八二〇、七 チャブレン氏
- 三七九三、八 ライン氏
- 三七四七、五 シユット氏
- 三七六六、四

寶永山ハ一ノ寄生火山ト見ルヲ得ベシト雖モ少シク趣ヲ異ニシ其生成ハ恰モ明治二十年磐梯山ノ破裂ノ如ク爆裂的噴火ニヨリテ生成セルモノナリトス富士山ニ就テハ右ニ述ベタル震災豫防調査會第二十四號理學士平林武氏ノ報文ヲ見ルベシ

富士ノ西麓ヲ流ルル富士川ハ日本三急流ノ一ナリ又平軍敗走ノ跡ヲ以テ聞ユ富士ノ八湖ノ中蘆湖ハ箱根火山ニ屬シ浮島沼(富士ノ南方ニアリ)及ビ甲斐市川大門ノ近傍ナル四尾連湖ハ正常ニ云ハ、共ニ富士火山體ニ屬スルモノニアラザルナリ山中、本栖、精進、西、河口ノ五湖ノミ富士ニ屬スルモノナリ其詳略ハ前記平林氏ノ記事ヲ参照スベシ

沼津ハ箱根ニ通ズル東海道ノ名邑ニシテ氣候最モ良好ナルヲ以テ知ラル沼津ノ東南ニ韭山及ビ北條アリ蛭ヶ小島及ビ修善寺モ此近傍ニアリ伊豆半島ニハ天城火山聳ユ同半島ノ南ニ下田アリ維新ノ歴史ニ其名高シ之レヨリ北ニ熱海アリ間歇溫泉ヲ以テ知ラル

静岡ヨリ南西ニ進ムトキハ焼津アリ日本武尊ノ故事ヲ以テ名高シ濱松ハ遠州第一ノ都會ニシテ東海道鐵道ノ路中央ニ位スルヲ以テ旅客ノ此所ニ下車スルモノ少カラズ故ニ鐵道開通後大抵ノ宿驛ハ其繁昌ヲ奪ハレタレドモ濱松ハ依然トシテ其繁華ヲ維持セリ此地ハ又加茂真淵ノ生地ナリトス濱松ノ西ニ濱名湖アリモト海ト通セザリシニ今ヨリ四百餘年前津浪ノ爲メニ湖口墮缺シテ海ニ通ゼリ其口ヲ今切ト云フ鐵道ハ此部ヲ通過スルガ故ニ旅行スルモノハ宜シク注意スベシ

愛知縣

名古屋市ノ人口ハ殆ンド二十五萬三府ニ亞ゲル大都會ニシテ徳川御三家ノ一ナル尾州家ノ城下タリシ所ナリ其城ハ金ノ鯨ヲ以テ名高シ(厚ク金ヲ着セタルモノナリ)愛知縣廳、第三師團司令部、控訴院ノ所在地ナリ又七寶燒、名古屋扇等ノ名産アリ

名古屋ノ南ニ熱田アリ市街相連レリ此處ニハ草薙劔ヲ祭レル官幣大社熱田神宮アリ故ニ通稱ヲ宮トイフ名古屋ニ對スル港ナレドモ港内淺ニシテ大船ヲ入ル

ルコト難シ故ニ近時築港ノ舉アリ半田武豊ハ知多半島ノ東岸ニ於ケル良港ニシ
テ西岸ノ常滑ハ常滑燒ヲ以テ名高シ
鳴海有松桶峽間豊橋鳳來寺山瀬戸長湫清洲等ハ普通ノ教科書ニ讓リテ爰ニ説カ
ズ

三河ニハ大井川矢作川豊川ノ三川アリ大平川ハ矢作川ノ支流ナリ此三川國中ヲ
流過スルニヨリテ參河ノ國名アリ

岐阜縣

岐阜市ハ縣廳ノ所在地ニシテ長良川ニ臨ム此川ノ鵜飼ハ有名ナリ又岐阜提燈ノ
名産アリ岐阜ヨリ西スレバ大垣ニ至ル大垣ノ西北ニ赤阪アリ大理石ノ產地トシ
テ其名高シ其西ナル關ヶ原ハ有名ナル古戰場ニシテ今ハ東海道鐵道此地ヲ通過
ス美濃平野ノ南ナル多度山中ニ養老瀧アリ
此國ハ木曾川灌域ニ當リ地味肥沃良米ノ產出アリ然レドモ後ニ雨量多キ高原ヲ
控フルヲ以テ夏秋ノ候水害稀レナリトセズ
此國ニハ各務野加茂野大野ノ三野アルヲ以テ美濃ノ稱アリ

三重縣

津市ハ三重縣廳ノ所在地ナリ一ニ安濃津ト稱ス近傍ニ結城神社アリテ南朝ノ忠
臣結城宗廣ヲ祀ル四日市ハ特別輸出港ノ一ニシテ近時市制ヲ布ケリ宇治山田ハ
宇治ト山田トヲ合シタル名ニシテ此町ニハ太廟アリ即チ宇治ニハ内宮アリ山田
ニハ外宮アリ宇治山田ノ如ク二ツノ町ヲ合シテ其名ヲ並ベルハ外國ニモ其例ア
リ彼ノハンガリー王國ノ首府ブダペストハブーダトベストノ二府ノ合セ稱シ
タルモノナリ其他ハ普通ノ教科書ニ讓ル

和歌山縣

和歌山市ハ紀伊川ノ三角洲上ニ立テリ知ルベシ三角洲上都會ノ多キコトヲ此市
ハモト徳川御三家ノ一タル紀州家ノ城下ナリ今ハ大阪ヨリ鐵道ヲ通ズ綿フラン
キルノ名産アリ此市ノ近傍ニ和歌浦アリ風景ノヨキヲ以テ有名ナリ昔者聖武天
皇此地ニ幸セラレテ其名ヲ明光浦ト命ジ玉ヒキ

和歌山ヨリ東方ニ高野山アリ此山ニ金剛峰寺ト稱スル寺アレドモ通常高野山ト
云フトキハ此寺ヲ意味スルナリ僧空海ノ開キタル靈地ニシテ昔時ハ僧侶ノ數三

千ニ上リシト云フ

紀州蜜柑、那智ノ瀑布其他尙數多記スベキコトアレドモ爰ニ略ス

德島縣

德島市ハ人口六萬一千德島縣廳ノ所在地ニテ吉野川ノ三角洲上ニ立テリ蜂須賀氏ノ舊城下ニシテ阿波縮ハ此地ノ名産ナリ近時德島ヨリ西方ニ向ツテ鐵道ノ敷設ヲ見ルニ至レリ

撫養ハ三好氏ノ據リシ所今尙製鹽ヲ以テ名高シ鳴門ハ本邦中潮流ノ最モ劇シキ地トシテ知ラル今ヤ砲臺ノ建設ニ着手セラレタリ

吉野川ノ灌域ハ藍ヲ産スルコト本邦第一ナリ中流地方ノ谷ノ傾斜面ヨリハ又煙草ヲ生ズ池田貞光ハ其中心ナリトス

吉野川ハ四國第一ノ大河ニシテ四國三郎ノ名アリ又其谷ノ大部ハ地層ノ走向ニ並行セル縦谷ナリ

高知縣

高知市ハ縣廳ノ所在地ニシテ山内氏ノ城下ナリ此ニ對スル港ハ浦戸ナルガ入口

文一五ノ七八

極メテ惡シク良港ト云フベカラズ然レドモ浦戸ハ昔時長曾我部元親ノ勇ヲ四國ニ振ヒタル根據地ナルコトハ忘ルベカラズ

土佐灣ガ嘗テ陥没ニヨリテ成レルコトノ全ク正當ナリヤ否ヤニ就テハ已ニ前ニ述ベタルガ如シ又土佐ノ西南岸ニハ珊瑚ヲ産ス又沖合ヨリハ鯉魚ヲ産スルコト多シコレ黒潮ノ流レニ沿フテ來ルモノナリ鯨ノ捕獲モ亦コレアリ

土佐西南隅ニアル柏島等ハ降霜ナシ此島ノ蓬ハ高く生長シテ杖トナシ得ベキモノアリ又高知近傍ニテハ一年二回米ノ收穫アリ以テ土佐沿岸ノ氣候ノ如何ナルカヲ知ルニ足ルベシ且夏季雨ノ多キコトハ本邦中稀レニ見ル所ナリトス

宮崎縣

宮崎町ハ縣廳ノ所在地ナルガ左程繁華ナル所ニハアラズ凡ソ縣廳所在地ニテ商業地トシテ有名ナラザルハ浦和、宮崎、大分、千葉、山口ノ五ヶ所トス日向ニハ小都會數多アリ海岸出入ニ乏シク良港ナシ然ルニ此沖合ハ險惡ナルヲ以テ名高キ日向洋ナリ

近時^ナ鉄肥^ナノ近傍ニテ鑛物肥料トモ稱スベキ燐鑛石ヲ發見セリ適當ニコレヲ用フ

文一五ノ七九

ルトキハ國益少々ナラザルベシ
日向ハ人口甚ダ少ク其他諸般ノ關係ニ於テ未ダ進歩セザルヲ以テ動モスレバ九
州ノ北海道ナリトノ惡評ヲナスモノアリ然レドモ人情ハ頗ル淳朴ニシテ高尙ナ
リ

鹿兒島縣

鹿兒島市ハ縣廳ノ所在地ニシテ後ハ城山ヲ負ヒ前ハ櫻島ニ對シ其港ハ頗ル良好
ナリ維新ノ前英艦擊退ノ跡明治十年戰役ノ故跡皆此地ニ存ス此地ニハモト高等
中學アリシガ其後廢セラレタルハ惜ムベシ
谿山ハ錫ヲ産スルヲ以テ名アリ本邦ニハ著シク錫ヲ産スルハ獨リ此地アルノミ
此地ニハ又軍馬育成所アリ
山川港ハ干潮ノ際海底ヨリ溫泉ヲ噴出ス舊噴火口ノ跡ナレハ怪ムニ足ラズ坊津
ハ往時唐船ノ來リシ地ナルヲ以テ有名ナリ山川ニ於テ舊藩時代ニハ外國貿易ヲ
密カニナシタリト云フ
薩摩大隅ノ沖合ニハ數多ノ島嶼羅列ス之ヲ薩隅諸島ト云フ

文一五ノ八〇

文一六ノ七一

薩隅諸島ハ種子ケ島、屋久島、川邊十島、大島諸島ヨリ成ル、大島諸島ノ主要ナル島ハ
大島、徳ノ島、喜界島、沖ノ永良部島、與論島ナリ

種子ケ島ハ天文年間ボルチユガル人此ニ來リテ始メテ我國ニ鐵砲ヲ傳ヘタル
所ナリ

屋久島ハ中央ニ八重岳ト稱スル高山アリ未ダ嘗テ此島ヲ横斷シタルモノナキ
ヲ以テモ此島ノ峻岨ナルコト推シテ知ルベシ

川邊十島ハ皆火山質ナリ其中竹島ニハ竹ヲ産シ硫黃島ニハ硫黃ヲ産ス此硫黃
島ハ鬼界ケ島ノコトニテ俊寛ノ流サレタルハ此地ナリ

大島諸島ハ言語風俗大ニ琉球ニ似タリ又喜界島、沖ノ永良部島ヲ除キ「ハブ」ト稱
スル毒蛇アリ甚ダ恐ルベキモノニシテ其害ヲナスコトハ「マムシ」ノ比ニ非ルナ
リ但シ大島本島ニハ良好ナル港灣アルハ注意スベキコトナリ

熊本縣

熊本縣ハ肥後全國ヲ管轄ス縣廳ノ所在地タル熊本ハ九州第一ノ都會ニシテ第五
高等學校、第六師團司令部ノ設ケアリ加藤清正ノ築ケル熊本城ハ市ノ中央ニ位ス

明治十年ノ役谷將軍之ヲ固守シテ動カザリシ事蹟ハ人ノヨク知レル所ナリ此市街ハ細川氏五十四萬石ノ城下ナリ市ノ近郊ニ水前寺ト稱スル所アリ清水盛ンニ湧出シ其傍ニ庭園アリテ市民遊覽ノ所トス
 加藤清正ノ事蹟ハ單ニ築城ノミナラズ其他土木開墾ノコトニ於テモ偉大ナル功アリ國人今尙傳ヘテ美談トス此等ノ事蹟ハ國中殆ンド至ル所ニ之ヲ見ルヲ得ベキヲ以テ此國ニ遊ブ人ハヨク注意スベシ
 植木田原ハ十年ノ役ノ戰場ナリ隈府ニハ別格官幣社ナル菊池神社アリ百貫石ハ熊本市ニ對スル港ナリ三角ノ特別輸出港ハ其港ノ狹隘ナル缺點アリ人吉ハ球摩川上流灌域ノ中心ニアリ八代ハ全河ノ出口ニアリ八代ノ沖ニハ不知火ノ現象アリ國ノ東方ノ山中ニ五家ノ莊アリ天草島ニハ石炭ノ産出アリ其西ハ萬里泊舟ノ天草洋ナリ

長崎縣

長崎縣ハ肥前ノ内一市六郡及ビ壹岐對馬二國ヲ管轄ス縣廳ノ所在地タル長崎市ハ條約港ノ一ナリ第五高等學校醫學部及ビ控訴院アリ街路狹ク且高低アリト雖

文一六ノ七二

文一六ノ七三

凡港内深クシテ自然ノ良港ナリ

佐世保ハ鎮守府ノ所在地口ノ津ハ特別輸出港ナリ五島列島ハ捕鯨ヲ以テ有名ナリ島原半島ノ温泉岳ハ歴史時代ニ起リタル大破裂ヲ以テ有名ナリ對馬ニハ竹敷ノ要港アリ嚴原鹿見佐須奈ハ朝鮮ニ對スル特別輸出入港ナリ嚴原ハ又島廳ノ所在地ニシテ且警備隊ノ設ケアリ

佐賀縣

肥前ノ内一市八郡ヲ管轄ス縣廳所在地ナル佐賀市ハ鍋島氏ノ舊城地ナリ武雄ハ九州ニ有名ナル温泉場有田ハ陶磁器製造ニ有名ナル所ナリ有田燒ハ伊萬里港ヨリ輸出スルヲ以テ伊萬里燒ノ通稱アリ有田燒ヲ伊萬里燒ト別物ノ如ク考フルハ非ナリ

唐津ハ特別輸出港ニシテ近傍ニ石炭ノ産アリ町ノ東ナル領巾振山及ビ東松浦半島ノ北端ナル名古屋屋ハ歴史上頗ル有名ナリ

福岡縣

筑前筑後及ビ豊前ノ内一市四郡ヲ管轄ス縣廳所在地ナル福岡市ハモト福岡及ビ

博多ノ二市街ヨリ成ル黒田氏ノ舊城地ニシテ其港ナル博多港ハ特別輸出港ニシテ又朝鮮ニ對スル特別輸出入港ナリ有名ナル貝原益軒ハ此地ノ人ナリ久留米市ハ久留米飛白ヲ以テ名高ク三池ハ本邦第一ノ炭山ナリ小倉ハ第十二師團司令部及ビ西部都督部ノ所在地ニシテ小倉織ノ名産アリ門司ハ九州鐵道ノ起點ニシテ又特別輸出港ナリ近來市トナレリ其他諸般ノ關係ニ於テ福岡縣ハ實ニ有名ナル所トナレルヲ以テ詳細ハ余ノ新撰地理日本之部ヲ參照スベシ

島根縣

出雲石見隱岐ノ三國ヲ支配スル島根縣廳ノ所在地ハ松江市ナリ松江市ハ山陰道第一ノ市街ニシテ宍道湖ニ臨ミ風景甚ダ佳ナリ支那ノ松江ニ似タルヲ以テ松平氏封ヲ此地ニ移スニ及ビ斯ク命名セシト云フ杵築ハ出雲大社ノ所在地ニシテ斐伊川ハ源ヲ簸川上ナル船通山ニ發ス隱岐ノ中ノ島ニハ後鳥羽天皇ノ舊跡アリ西島ニハ後醍醐天皇ノ舊跡アリ又島後ノ西郷港ハ有名ナル良港ナリ其他本縣ノ事實ハ此ニ略ス但シ出雲風土記ヲ讀ミテ現今ノ地理ニ對照スルトキハ少カラザル發明ヲナシ得ベシ

文一六ノ七四

鳥取縣

因幡伯耆二國ヲ支配スル鳥取縣廳ノ所在地ハ鳥取市ニアリ鳥取市ハ池田氏ノ舊城下ナレドモ頗ル寂寥タリ但シ現今聯隊ノ衛戍地トナリタリ大山ハ中國第一ノ高山ニシテ其北ニ船上山アリ名和長年勤王ノ故事ヲ以テ聞ユ境ハ此國ニ屬シ山陰道ニ於テハ有名ナル港ナレドモ良港トハ稱シ難シ

文一六ノ七五

福井縣

越前若狹兩國ヲ支配スル福井縣廳ノ位置ハ福井市ニアリ福井市ハ松平氏ノ舊城地ニシテ奉書紬ノ名産アリ藤島神社ハ今ハ福井市ニ遷シタリ鯖江ハ聯隊ノ衛戍地ナリ敦賀ハ北國主要ノ港ナリ若狹ノ小濱ハ若狹塗ヲ以テ著ハル

石川縣

加賀能登兩國ヲ支配スル石川縣廳ノ所在地ハ金澤市ニアリ金澤市ハ前田氏百二萬石ノ城下ニシテ第九師團司令部及ビ第四高等學校アリ能登ノ七尾ハ良港ニシテ特別輸出港ノ一ナリ輪島ハ輪島塗ヲ以テ名高シ古ノ安宅關ノ趾ハ今ハ海中遠キ所ニアリ桑田碧海ノ變以テ想見スベシ

富山縣

越中全國ヲ支配スル富山縣廳ノ所在地ハ富山市ナリ此市ハ商業繁盛ナル市街ニシテ賣藥ヲ以テ最モ名アリ魚津ノ海上ニハ辰氣樓ノ現象見エ越後トノ境ニハ有名ナル親不知ノ險アリ伏木ハ特別輸出港ノ一ニシテ高岡市ハ又有名ナル都會ナリ加賀トノ境ニハ俱利加羅峠アリテ源平ノ戰ノ跡ヲ想見セシム

滋賀縣

近江全國ヲ支配スル滋賀縣廳ノ位置ハ大津市ニアリ大津ハ琵琶湖ノ沿岸ニアリテ聯隊ノ衛戍地ナリ彦根ハ井伊氏ノ舊城地ニシテ米原ハ北陸鐵道ト東海道鐵道トノ分岐點ナリ琵琶湖ノ沿岸ニハ有名ナル八景アリ又湖北ノ賤ヶ岳ハ羽柴柴田ノ古戰場ヲ以テ有名ナリ本縣人ハ商業ニ巧ニシテ近江商人ノ名世ニ高シ

京都府

山城丹後及ビ丹波五郡ヲ支配スル京都府廳ノ位置ハ京都市ニアリ京都市ハ山城ノ中央ニアリ人口三十三萬餘京都帝國大學第三高等學校美術學校博物館ノ設ケアリ市街ノ清潔ニシテ規則正シキハ當初建設ノ規模ノ由ル所ヲ示シ飲用水ノ善

文一六ノ七六

文一六ノ七七

キコトハ地質ノ構造ノヨキヲ顯ハセリ琵琶湖ノ疏水事業ハ將來工業ノ發達ヲ促スベク四近名所古跡ノ夥多ナルハ日本ノ大公園トシテ内外人ノ足ヲ留ムベキナリ况ンヤ舊帝都ニシテ自今モ即位ノ大禮ハ此都ニ於テ行ハセラルトノコトナレバ京都ノ京都タル所以ハ天壤ト共ニ無究ナルベキナリ

丹波ノ福知山ハ聯隊ノ衛戍地ニシテ丹後ノ舞鶴ハ第四海軍鎮守府ノ指定地ナリ宮津ハ特別輸出港ノ一ニシテ近傍ニハ日本三景ノ一ナル天橋立アリ其成因ハ三保松原ト全シク地文學上特ニ注意スベキモノ、一ナリ

京都ノ南ニ伏見アリ聯隊ノ衛戍地ナリ伏見ヨリ西南ニ八幡アリ石清水ノ八幡宮アルヲ以テ知ラレ伏見ハ京都大阪奈良ニ對シテ緊要ナル位置ヲ占ムルヲ以テ古ヨリ事アルノ日ニハ常ニ戰爭ノ衝タルヲ免レズ又八幡ハ山崎ト共ニ南方ヨリ京都ニ入ルノ要地タルヲ以テ戰亂ノ際ニハ常ニ爭點トナレリ

宇治川ノ南岸ナル宇治ハ茶ヲ以テ有名ナリ本邦茶ヲ産スルノ地ハ少カラズ其産額ヲ以テスレバ静岡縣ノ如キハ全國ニ最タリ其他三重縣ノ如キモ亦少カラザル産額アリト雖モ最モ有名ナルハ宇治茶ナリトス

奈良縣

大和全國ヲ支配スル奈良縣廳ノ位置ハ奈良市ニアリ奈良市ハ大和ノ北隅ニ位シ
 單ニ圖上ニテ見ルトキハ甚シク一方ニ偏セリ然レドモ大和ノ大部ハ山多キ吉野
 郡ニ屬スルヲ以テ單ニ地圖ノ中央ト云フノミヲ以テ決シテ地理上ノ中心トシテ
 見ルベキニ非ルナリ例之バ山口縣ノ山口町ノ如キハモト防長二國ノ中心タリシ
 ガ今日ノ如キ交通ノ關係一變シタル時世ニ於テハ山口町ハ山口縣ノ中心ヨリ甚
 シキ外ニ立テルモノナリ其他斯ノ如キ關係ヲ有スルモノ少カラズ故ニ交通人口
 産業其他地勢等ヲ參酌シ凡テノ點ニ於テ中心トシテ見ルベキ位置ヲ求ムルトキ
 ハ地理上ノ中心ハ其面積ノ中心トハ著シク差違アルコトヲ發見スベシ滋賀縣大
 津ノ如キモ亦然リトス

奈良市ハ元明天皇ヨリ七代八十餘年間ノ帝都タリシ所ナレバーニ之ヲ南都ト稱
 ス春日神社ノ神鹿東大寺ノ大佛ノ如キハ夙ニ人口ニ膾炙スル所ニシテ其他寺院
 ニハ日本古代ノ工藝美術ノ如何ニ進歩シタリシカヲ徵スベキ遺物少シトナサズ
 正倉院ノ如キハ即チ是レニシテ今帝室ノ御所有タリ斯ノ如キガ故ニ奈良市ニハ

文一六ノ七八

文一六ノ七九

帝國奈良博物館ノ設ケアリ

月ヶ瀬ノ名所ハ東方木津川ノ上流ニアリ往々伊賀ヨリ此ニ至ルコトヲ便利トス
 レドモ其實際ハ大和ノ月ヶ瀬ニシテ伊賀ノ月ヶ瀬ニ非ルコトヲ記憶セザル可ラ
 ザルナリ又多武峯ニハ藤原鎌足公ヲ祭レル談山神社アリ別格官幣社ノ一ナリ
 前ニ述ベタル如ク大和ノ大部ハ吉野郡ニ屬セリ吉野郡ハ山頗ル多ク櫻花ヲ以テ
 有名ナル吉野山ハ又南朝皇居ノ跡トシテ幾世ノ後巡拜ノ人ヲシテ慷慨已ムコト
 能ハザラシム吉野郡ノ南部ハ十津川及ビ北山川ノ灌域ニシテ此二川ハ南流シ紀
 伊ニ入り熊野川ノ水源ヲナス

十津川ノ谷ハ頗ル峻峻ニシテ削ルガ如ク其住民ハ古代ノ遺風ヲ存シ性質亦質朴
 頗ル愛スベシト云フ明治二十二年洪水ノ憂アリテ大ナル山崩ヲ生ジタリ是レガ
 爲メニ住民ハ去テ北海道ニ移住シタルモノ頗ル多シ

大阪府

攝津ノ内一市四郡河内和泉二國ヲ支配スル大阪府廳ノ位置ハ大阪市ニアリ大阪
 市ノ人口ハ七十五萬アリト云ハ、最近ノ統計ヲ知ラザルモノハ一驚ヲ喫スベシ

ト雖是レ事實ナリ是レマデハ五十萬内外ナリシモノ如何ニシテ一躍七十五萬ナル人口ニ達シタリシカト云フニ是レ最近ノ時ニ於テ接續ノ町村ヲ大阪市ノ中ニ編入シタル結果ニ外ナラザルナリ蓋シ接續セル町村ノ人口ヲ加フルト否ナラザルトハ一市ノ人口ニ就テ非常ナル差異アルコトヲ覺悟セザル可ラズ(コレ皆地方地方ノ都合ニヨリ或ハ之ヲ合シ或ハ之ヲ合セザルモノナリ)例之ハロンドンノ如キハ人口四百四十萬餘ナルガ接續セル市街ヲ算入スルトキハ六百萬ヲ超ユルヲ以テ之ヲ知ルベシ

大阪ハ所謂三府ノ一トシテ日本三大都會ノ一ナリ内地商業ノ中心ニシテ又條約港ノ一ナリ運河市内ヲ貫通シ橋ノ多キヲ以テ名アリ(但シ東京人ハ大阪ヨリ橋三ツ多シトテ誇レリ是レ東京ハ大市ナルユエ橋ノ如キモ左程目ニ立タザルニヨルナラン)仁徳天皇ノ都シ給ヒシ所ニシテ豊臣氏城ヲ此地ニ築キシヨリ徳川氏ノ世ニ及ンデ日本内地商業ノ中心トナリ日本ノ臺所ト稱アリキ第四師團司令部砲兵工廠造幣局及ビ大阪控訴院ハ此地ニアリ其他大阪市及ビ大阪府下ノ他ノ都邑ニ就テハ爰ニ畧ス

文一六ノ八〇

兵庫縣

攝津ノ内一市三郡丹波ノ内二郡但馬播磨淡路ノ三國ヲ支配ス即チ其管轄區域ハ畿内山陰山陽南海ノ四道ニ跨レリ縣廳ノ所在地ハ神戸市ナリ

神戸市ノ人口ハ凡ソ二十萬アリ本邦條約港中横濱ニ匹敵シ昨三十一年ノ如キハ神戸港ノ輸出入總額ハ横濱ヨリ多シ(但シ輸入ノ頗ル多キニヨル)昔時ハ神戸兵庫ノ二部ニ分レ其間ニ有名ナル湊川アリ湊川神社ハ元ノ兵庫ニアリテ別格官幣社ノ一ナリ神戸牛ト稱シテ東京其他ニテ賞用スレドモ是レ神戸ニ産スルニ非ズ中國地方ニ産シ神戸ヨリ輸送シ來レルヲ以テナリ

神戸ノ北ニハ有馬ノ温泉アリ西ニハ須磨明石アリ明石ノ西ニ姫路市アリ第十師團ノ司令部アリ是レヨリ北鐵道ニヨリ但馬ノ生野銀山ニ至ルコトヲ得ベシ但馬ノ出石ニハ出石燒ノ名産アリ豊岡ニハ柳行李ノ名産アリ此附近ニ火山岩ノ奇景玄武洞アリ

姫路ヨリ西スレバ龍野室津赤穂等ノ名邑アリ赤穂ハ鹽ノ名産ト四十七士ノ事蹟ヲ以テ世ニ名高シ

文一七ノ七一

淡路ニハ洲本福良由良等ノ邑アリ就中由良福良ニハ要塞アリ福良ハ阿波ト相對シテ著名ナル鳴門海峡ヲナス淡路ニハ淡路燒ノ名産アリ

岡山縣

美作備前備中ノ三國ヲ支配スル岡山縣廳ノ位置ハ岡山市ニアリ岡山市ハ池田氏ノ舊城地ニシテ第三高等學校醫學部ノ設ケアリテ又第六高等學校設立ノ指定地ナリ

備前ニハ名産少カラズ伊部ノ陶器長船ノ劍三石ノ煉化石皆名アリ又備前ノ前ニ突出セル兒島半島ハ昔ハ島ニテ藤戶渡今ハ地頸ヲナセリ

美作ノ津山ハ國ノ中央ニ位スル名邑ニシテ其西ニ院庄アリ兒島高德ノ題詩ヲ以テ其名著ハル

備中ニハ倉敷玉島笠岡高梁等ノ小都會頗ル多ク笠岡ノ東北ニハ高松アリ秀吉ノ水攻ヲ以テ最モ名アリ

廣島縣

備後安藝二國ヲ支配スル廣島縣廳ノ位置ハ廣島市ニアリ廣島市ハ中國第一ノ大

都會ニシテ人口凡ソ十一萬淺野氏四十二萬石ノ舊城地ナリ第五師團司令部及ビ廣島控訴院ハ此地ニアリ明治廿七八年ノ役大本營ヲ此地ニ置カレシニヨリテ廣島ノ名ハ本邦ノ歷史上特ニ忘ルベカラザルモノトナレリ頼山陽ハ此地ニ生レタル人ナリト云フ廣島市ハ太田川ノ三角洲ノ上ニ立テルモノナルガ此市街ニ對スル港ハ宇品ニシテ近年ノ築港ニ係レリ

宇品ヨリ西南ニ當リテ嚴島アリ日本三景ノ一タルヲ以テ特ニ名アリ通常此地ヲ宮島ト稱スルハコレガ爲メナリ宇品ヨリ東南ニ當リテ吳港アリ吳港ハ第三海軍鎮守府ノ所在地ニシテ其前ニ江田島アリ此島ニ海軍兵學校ノ設ケアリ

備後ニハ鞆尾道三原福山等ノ小都會少カラズ就中尾道ハ山陽道中ニ於ケル要港ニシテ市街年ヲ追フテ盛大トナリ現今ハ市制ヲ布クニ至レリ

山口縣

周防長門兩國ヲ支配スル山口縣廳ノ位置ハ山口町ニアリ山口町ノ市況ハ繁盛ナラズト雖モ聯隊衛戍地トシテ山口高等學校ノ所在地トシテ最モ大切ナリ

周防ニハ三田尻宮市徳山柳井津岩國等ノ名邑アリ山陽鐵道ハ目下三田尻マデ其

線路ヲ延長セシガ九州本州間交通ノ要點ハ徳山タリ
 長門ニハ豊浦下ノ關萩等ノ名邑アリ中央ニハ秋吉臺ノ高原アリ其近傍大理石ヲ
 出ス西南ノ海岸ニハ石炭ノ産出多ク又小野田ニハ有名ナルセメント會社アリ
 豊浦ハ一ニ長府ト云フ長府ノ西下ノ關ノ東ニハ壇浦ノ古戰場アリ下ノ關ハ公ニ
 ハ赤間關ト云フ地方ノ人ハ馬關或ハ單ニ關ト云フ特別輸出港ノ一ニシテ又特別
 輸出入港ナリ
 赤間關市ヨリ東北ニ萩アリ毛利氏ノ舊城地ニシテ夏橙ノ名産アリ昔時ハ非常ニ
 繁華ナリシガ今ハ全ク衰頽セリ

大分縣

豊前ノ内二郡ト豊後トヲ支配スル大分縣廳ノ位置ハ大分町ニアリ大分町ハ豊後
 ニ在テハ第一ノ都會ナレドモ他ノ縣廳所在地ニ比較シテハ盛ナラズ大分町ノ北
 三里ニ別府アリ有名ナル温泉場ニシテ肥前ノ武雄温泉ト共ニ九州ニ在テハ最モ
 人ニ知ラル別府ノ近傍ニハ鶴見岳由布岳等ノ火山發ユ由布岳ハ豊後富士ノ稱ア
 リ鶴見岳ハ貞觀年間ニ大噴火ヲナシタルコト正史ニ見ユ由布岳モ嘗テ盛ンニ鳴

文一七ノ七四

文一七ノ七五

勳セシカバ朝廷此山ニ從五位ヲ授ケラレタルニ忽チ辭カニナリシトゾ(因ニ云フ
 阿蘇山ヲ祭レル神ハ正二位勳五等ナルコト之ヲ阿蘇神社本末帳ニテ見タリ)豊前
 ノ宇佐ニハ官幣大社タル宇佐神宮アリ應神天皇及ビ神功皇后ヲ祭り歷代ノ天皇
 之ヲ崇敬セラル、コト淺カラズ特ニ和氣清應ノ事蹟ヲ以テ此神社ハ歷史上最モ
 名高シ

宇佐ヨリ西シテ中津ニ至レバ此町ノ西ヲ流ル、ハ山國川ナリ山國川ノ上流ニハ
 有名ナル耶馬溪アリ耶馬溪ノ景色ハ妙義山ト異ナルコトナシ均シク集塊岩ノ景
 ナリ本邦奇景ヲ以テ鳴ルノ地ハ大抵集塊岩ノ地質ナルコトハヨク記憶シ置クベ
 キコトナリ

豊後ニハ大分町ノ外ニ佐賀關白杵佐伯等ノ名邑アリ就中佐伯ノ如キハ海軍ノ要
 港トシテ指定セラル、ヤノ噂アリテ非常ニ人ノ注意ヲ要スル所トナレリ

愛媛縣

伊豫全國ヲ支配スル愛媛縣廳ノ位置ハ松山市ニアリ松山市ハ聯隊ノ衛戍地ニシ
 テ其港タル三津濱トノ間ニハ鐵道ノ便アリ市ノ東北ニハ道後ノ温泉アリ

伊豫國ハ鑛産少カラズ就中別子ノ銅山ハ産額本邦第二ニ位シ(第一ハ足尾ナリ)又市ノ川ノアンチモニ一鑛山ハ産額世界第一ナリ
其他今治八幡濱宇和島ノ名邑アリ高繩半島ノ波止濱ハ製鹽ノ産出ト要塞ノ建築地ナルトヲ以テ有名ナリ

香川縣

讃岐全國ヲ支配セル香川縣廳ノ位置ハ高松市ニアリ高松市四近ハ源平ノ戰ニ其名高ク此市邑ハ今尙地方ノ一中心トシテ頗ル繁盛ナリ屋島ハ其東方ニアリ形屋根ノ如キヲ以テ此名アリ

此國ニテ有名ナル山ニハ五劍山飯野山白峰アリ五劍山ハ地質花崗岩ヲ貫ケル火山岩ヨリ成リ其頂上五峰並列セシニヨリ此名アリシガ今ハ唯四峰ヲ存シ一峰ハ全ク崩壞シ去レリ飯野山ハ讃岐富士ノ別名アリ塊狀火山ノ例トシテ特ニ吾人ニ知ラル白峰ハ崇徳院崩御ノ舊跡ナリ高松ヨリ西ニ當ル
丸龜ハ高松ヨリ西ニ當ル今ハ市制ヲ布キタリ第十一師團司令部ノ所在地ナリト云ヘドモ其實ハ善通寺ニアリ四國ニ名高キ琴平神社ハ善通寺ノ南ニアリ僧空海

ノ生地ナリトノ口碑アリ

第三章 北區

爰ニ北區ト稱スルハ北海道本島及ビ千島ヲ包含ス其面積ヲ合スレバ殆ンド本州ノ半バニ及バントスレドモ人口ハ東京市ノ半バニモ足ラザルナリ現今北海道廳ヲ置キテコレヲ支配ス

北海道本島(北州)

北海道本島ニ對スル特別ナル名稱ナキガ如シ日本水路誌ニハ北州トアリテ本邦ノ海軍ノ記録ニ用ヒラル、モノ、如シ此名稱ハ實ニ適當ナルベシ
北海道ノ地勢ヲ考フルニ其地質構造ト密接ナル關係アルコトヲ知ルニ足ルベシ即チ石狩平原ヲ通シ石狩川口ナル石狩ヨリ南ノ方苦小牧ニ至ル一線ハ即チ日本地質構造上ノ中央線ノ一部ニ當リコレヨリ以東ハ外面ノ區域ニ屬シ以西ハ内面ノ區域ニ屬ス外面ハ高山頗ル多ケレドモ地勢比較的急峻ナラズ廣大ナル平野處々ニ存ス内面ハ地勢峻嶮錯雜シ廣大ナル原野更ニナシ

千島火山脈ハ千島諸島ヲ噴起シテ本島ニ入り東西ノ方向ニ走ル雄阿寒岳雌阿寒

岳ハ最モ名アリ又内面ノ區域ニ於テ噴火灣ノ四近ニ火山頗ル多シ噴火灣ノ名稱ヲ得タルハ全ク是レニヨリモト内浦灣ト稱セシモノナルガ灣内ヨリ數多ノ火山ヲ想見シ得ベキニヨリテイギリスノ海圖ニ噴火灣ト稱シタリシヲ其儘用フルコトトナリタリ

今北海道ノ地名ニ就テ一言センニ元來アイヌ語ニテ呼ベル地名ヲ困難ナル漢字ニテ妄リニ當ハメ而シテ此無理ニ當ハメタル漢字ニ拘泥シテ奇異ナル讀ミ方ヲナスコトナレバ實ニ不都合極マルナリ北海道廳ニテハ國名郡名等已ニヨク知ラレタルモノヲ除キ他ハスベテ假名ニスルコトトナレリコレ大ニ贊成スベキコトナリ然レドモ吾人ハ尙進ンデ北海道地名ノ漢字ヲ全廢シ一層進ンデ内地ノ地名ノ漢字ヲ全廢センコトヲ希望スルモノナリ

北海道ノ河流ニ就テ云フベキコト第一ハ大河ノ多キコト是レナリ特ニ石狩川ノ如キハ其長サ百六十七里ニ達シ本邦第一ノ長流ニシテ又第一ノ大河ナルベシ第二ハ河流屈曲ノ多キコト是レナリ是レ流水ノ爲メニ河流沮害セラレ爲メニ紆餘萎微トシテ蛇ノ如キ路ヲ作ルニ至レルナリ此レガ爲メニ舟楫ヲ通ズルニ困難少

カラザレバ之ヲ除カザルベカラズ然ルニ姑息ノ方法ニヨリテ單ニ妨害トナル上部ヲ伐リ去ルノミニテ根本的ニ悉皆之ヲ取り去ルコトヲナサハルヲ以テ絶エズ交通ノ不完全ナルコトヲ忘レザルナリ此河流屈曲ノコトハ石狩川ニ於テ其現象最モ甚シク北海道廳ニテ作ラレタル五十萬分一ノ地圖ヲ披クトキハ此有様ヲヨク悟リ得ベシ又北海道ノ河ニハ河口ニ於テ海岸ト並行ニ屈折スルコト實ニ甚シキモノアリコレ砂丘ノ作用ニヨリテ然ルモノナリ

北海道ニハ湖水少カラズ其成因ニヨリテ之ヲ二大別スルコトヲ得ベシ第一ハ舊噴火口ニ水ノ溜リタルモノニシテ洞爺湖ノ如キハコレガ適例ナリ一ハ砂丘ニヨリテ成レル澤湖ニシテ猿瀧湖ノ如キハ是レナリ

北海道ノ氣候ハ東部ト西部トニ於テ多少ノ差違アリ西部ハ東部ニ比シテ稍暖カナリ是レ恐ラクハ對馬海流ノ影響ニヨルナルベシ東部ノ寒冷ナルハ親湖ノ作用ニヨルモノナリ西部ノ小樽ト東部ノ根室トハ殆ンド同緯度ニ位ス然ルニ根室ハ冬季氷結シ小樽ハ然ラザルニテ氣候ノ一斑ヲ推知スルコトヲ得ベシ又北海道ノ氣候ニテ特ニ注意スベキハ海霧ノ深キコト是レナリ航海者之ヲ「瓦斯」

ト稱ス航海上甚シキ妨害ヲナス其最モ著シキハ根室海峡ナリ思フニ是レ寒暖二流ノ衝突ニヨルモノナラン
 北海道ノ交通ハ尙不十分ナリ海上ノ交通ヲ見ルニ西部ハ海岸ノ屈曲多キニヨリテ多少發達セリト雖モ東部ハ然ラズ又道路ハ西部ノ一局部ヲ除クノ外未ダ發達セザルナリ鐵道ハ炭鑛鐵道會社ノ線アリ又官設ノ線路ハ目下延長中ニテ已ニ上川ニ達セリ
 今左ニ北海道ノ地方誌ニツキ二三ノ緊要ナル事實ヲ畧述スベシ
 函館區 所謂五港ノ一ナリ函館控訴院ノ所在地ニシテ遠カラズ要塞モ設ケラルベシ(北海道ニハ未ダ市制町村制ヲ布カズシテ函館ノ如キ人口多ク商業盛ナル市街ニハ區制ヲ布ケリ小樽札幌モ亦然リ)此地名ヲ函館ト稱スル所以ハ文政年間河野加賀守館ヲ築キコレヲ近傍ヨリ望ムニ恰モ箱ノ加クナリシニヨル
 室蘭 第五鎮守府ノ指定地ナレドモ諸般ノ關係ニヨリ未ダ開港セラレズ(或ハ云フ第五鎮守府ハ陸奥國大湊ニ移サルベシト)室蘭ハ現今特別輸出港ノ一ニシテ又北海道ノ交通上緊要ナル位置ヲ占ム

文一七ノ八〇

文一八ノ八五

室蘭ヨリ東ニ進ミ日高ニ入レバ好牧場多シ新冠ノ如キハ其一ナリ日高ノ南端ハ襟裳岬ニシテ往時ハコレヨリ以東ヲ奥蝦夷ト稱シ以西ヲ口蝦夷ト稱シタリキ
 十勝ハ十勝川ノ灌域ニシテ原野多シ日高及ビ十勝ニハ「アイヌ」人少カラズ「アイヌ」ハ本島ニ先住シタルモノニシテ我大和民族トハ全く別種ノモノタリ其男子ハ鬚髯ニ富メルガ如キモ特性ノ一ナリ
 十勝ヨリ釧路ニ入レバ釧路港アリ特別輸出港ノ一ニシテモト盛ニ硫黃ヲ輸出セシガ現今ハ微々タルモノナリト云フ
 其他北海道東部及ビ北部ノ都邑ニ就テハ爰ニ省略ス今左岸ノ都邑ニツキ二三ノ重要ナルモノヲ掲グベシ
 札幌區 北海道中政治上ノ中心ナリ北海道廳及ビ第七師團司令部アリ又札幌農學校ハ農科大學ニ準ズル專門學校ナリ
 小樽區 特別輸出港ノ一ニシテ又北海道港灣ノ中最モ繁盛ナルモノナリ内地商業ニ於テハ遙カニ函館ノ上ニ出ヅ
 福山 舊時北海道ニ於テ最モ緊要ナル處ニシテ松前氏ノ居城アリシ所ナリ

故ニモト松前ト稱シタリキ

千島諸島

千島諸島ハ四國ニ匹敵スルノ面積ヲ有ス殆ンド全ク火山質ナリ即チ千島帶火山脈ハコレニヨリテ命名セラレタルモノナリ千島諸島中以東ノ端ヲ占守島トス千島海峽ニヨリテロシア領カムチャツカ半島ノロバトカ岬ニ對ス海軍大尉郡司成忠氏同志ノ士ヲ糾合シテ報効義會ヲ設立シテ本島ノ開拓ニ從事ス占守島ノ西北ニアル阿頼度島ハ本邦ノ極北ナリ其他千島及ビ北海道本島ニ關スルコトニ就テハ余ノ新撰地理日本之部ヲ參照スベシ

第四章 南區

爰ニ南區ト稱スルハ琉球及ビ臺灣ヲ包括ス琉球群島ハ沖繩縣ニヨリテ支配シ臺灣ハ臺灣總督府ニテ支配ス

琉球諸島

琉球諸島ヲ分テ二トナス沖繩諸島及ビ先島諸島是レナリ
沖繩諸島 此中最モ大ナルヲ沖繩島トナス縣廳ノ所在地ナル那覇及ビ舊王城ノ

文一八ノ八六

所在地ナル首里モ此島ニアリ沖繩島ハ三部ニ分ル國頭中頭及ビ島尻是レナリ國頭ヲクニガミト讀ムベカラズ又クンヂヤンニ非ズシテクンヂヤンナリ地質ハ水成岩ナリ但シ沖繩本島以外ノ島ニハ火山岩アリト知ルベシ

文一八ノ八七

沖繩本島ニ至リテ人ノ注意ヲ引クハ墓ノ構造ノ特別ナルコト是レナリ一種ノ倉ノ如キモノニテ沖繩人ノ最モ大切ナル財産ナリ之ヲ擔保トナシテ金錢ノ融通ヲ計ルコトハ珍シカラザルガ時トシテハ之ヲ賣買スルコトモアリト云フ又沖繩本島ノ中那覇四近ニテハ飲用水缺乏シ皆天水即チ雨水ヲ滯溜シテ之ヲ用フ此飲用水ヲ多量ニ所持スルモノハ即チ財產家タリ

先島諸島 先島諸島ハ分テ二トナス宮古諸島及ビ八重山諸島是レナリ八重山

諸島又分レテ二ツトナル石垣諸島及ビ西表イリオモテト讀ミニシオモテト讀ムベカラズ諸島トニ分ル軍艦八重山ノ名ハ此八重山諸島ニ由來セルモノナリ

先島諸島ハ臺灣ト同ジク西部標準時ヲ用フ故ニ先島ニテノ時計ハ東京ノ時計ヨリ一時間遅シ

八重山諸島ニハマラリヤノ如キ一種ノ風土病アリ

沖繩本島ニハ「ハブ」ト稱スル毒蛇アリ共ニ琉球ニ於テ最モ恐ルベキモノナリトス

臺灣

臺灣ハ現今臺北臺中臺南ノ三縣ト宜蘭臺東澎湖ノ三廳ニテ支配セラル(臺灣ノ縣及ビ廳ハ共ニ行政區劃ノ名ナリ内地ノ縣廳ノ廳ト混ズベカラズ)

臺灣本島ノ地形ヲ考フルニ南北ニ長ク東西ニ短ク其輪廓恰モ木葉ノ如シ此地形ニ從テ地勢ハ支配セラレ南北ノ方向ニ走レル山脈アリコレヲ臺灣山系ト稱ス臺灣山系ハ平行セル數多ノ山脈ヨリ成ル其最モ著明ナルモノヲ舉グレバ中央ヨリ東ニ偏シテシルグイア山脈アリ其全體ノ高度ハ最モ高シト雖モ臺灣山系中ノ最高點ハシルグイア山脈ノ西ニ走レル新高山脈中ノ新高山トス新高山ノ實際ノ位置ハ未ダ十分明瞭ナラズト雖モ要スルニ一萬四千尺内外即チ富士山ノ高度ヨリ遙カニ高キ高山ノ存在スルコトハ疑フベカラザルガ如シ支那人此山ヲ稱シテ玉山ト云フ外國人ハコレヲモリソン山ト云フ

臺灣ノ河流ニハ大ナルモノナク舟楫ヲ通ズルハ淡水溪ノ下流ノミ臺灣ノ河ハ皆狹流ニシテ其谷ハ皆峽谷ナリ河底深ク岩石ノ間ヲ刻ミ山上ヲ歩ムノ人ハ水底ヲ

見ルコト能ハズ又河中ノ人ハ山上ヲ見ルコト能ハズ而シテ兩岸ハ殆ンド削ルガ如シ凡ソ道路ハ凡テ小川ニ沿フテ開クヲ常トスレドモ臺灣ノ川ニ於テハ此規則ノ應用ヲ許ササルナリ而シテ河流ハ山脈ノ區域内ヲ脱シテ平野ニ出ルヤ濁水溪流シテ荒蕪ナル河礫ヲ作ル斯ノ如キ所以ハ他ナシ臺灣ニハ急劇ニ多量ノ降雨アリ即チ所謂熱帶的ノ降雨アリコレガ爲メニ急勾配ヲ下リテ急劇ナル出水アリ故ニ河水ノ威ヲ恣ニスルニ任ジテ堤防等ヲ作ルコトナシサレバ内地ニハ河ノ左右ニ肥沃ナル地アルニ反シテ臺灣ノ河ハ荒蕪ノ地ヲ存シ唯段階(テレイス)ノミ人ノ耕作ニ堪フ地文學上ノ現象タル段階ハ人文地理學上ニ關係アルコト臺灣ノ例ニテヨクコレヲ悟ルコトヲ得ベシ

臺灣ノ沿岸ニハ良港ナシ基隆ノ如キモ築港セザレバ良港ト稱スルヲ得ズ唯澎湖島ニ良港アルノミ(沖繩諸島ノ中ニテハ沖繩本島ニ良港アリ)

臺灣ノ氣候ハ北部ナル臺北基隆四近ヲ除キテハ衛生ニ不適當ナルニ非ズ但シ夏秋ノ際ノ颶風ハ内地ニ於ケルヨリモ猛烈ナリ又降雨ハ前ニ述べタル如ク非常ニ急劇ナルモノアリテ内地ニテ通常一年間ニ降ル量一日ノ中ニ降ルコトアリト云

臺灣ノ人種ハ移住支那人ト蕃人トニ別チ得ベシ蕃人ハ往時支那政府ノ時熟蕃生蕃ノ二ツニ分チタルガ今ハ之ヲ區別スベキ必要ナシ
 臺灣ノ交通ハ基隆新竹間ノ鐵道アルノミ其他鳳山ニ至ルノ輕便鐵道アレドモ交通ノ機關トシテハ不十分ナリ沿海及ビ内地トノ航海ハ大阪商船會社政府ノ保護ヲ受ケテコレヲナセリト雖モ未ダ十分ナラズ西岸ハ支那ノ海岸ヲ距ルコト遠カラザルニヨリ支那形船ノ往來モ頗ル盛ナリトス
 今左ニ臺灣ノ中二三ノ重要ナル都邑ニ就テ略述スベシ
 臺北ハ臺灣總督府及ビ臺北縣廳ノ所在地ナリ基隆ハ條約港ノ一ニシテ臺灣鐵道ノ起點ナリ淡水ハ臺北ノ北ニアリテ淡水河口ノ港ニシテ條約港ノ一ナリ臺中ハ臺中縣廳ノ所在地ニシテモト臺灣府ト稱シ往時支那政府ハ嘗テ此處ヲ以テ全島ノ治所トナセシコトアリ遙カニ南方ニアル臺南ハ臺南縣廳ノ所在地ニシテ其他安平及ビ打狗ノ二條約港アリ
 又東部ニ卑南アリ其近傍ニ數多ノ蕃社アリ嘗テ琉球人ノ漂着セシヲ虐殺シ征臺

ノ役ノ本ヲナシタル牡丹社ハ此中ニアリ
 澎湖列島ハ火山岩ヨリ成リ臺灣海峽ノ中央ニ位シテ東海ノ門戸ヲ扼ス五十有餘ノ島嶼ヨリ成リ其中澎湖島北海島漁翁島最モ大ナリ澎湖島ト漁翁島トハ相對シテ大灣ヲ擁スコレヲ澎湖港ト云フ港内水深クシテ無比ノ良港ナリ澎湖全島ヲ支配スル澎湖廳ハ澎湖島ノ西南部ナル媽宮ニアリ

結論

本邦ノ位置 アジア大陸ノ東部ニ位シ西ハ我ト友邦ノ關係アル支那及ビ朝鮮アリ北及ヒ北西ニハロシア領シベリアアリ東ハ遙ニ北アメリカニ對シ南ハ北アメリカ合衆國領ナル呂宋島ト相臨ミ四隣ニローロッパ強國ノ領地少カラズ

本邦ノ面積 面積二萬七千六十餘方里ニシテ支那トロシアトヲ除キイギリスフランス等ノ諸強國ノ面積ト比較スルトキハ我ハ彼レノ二倍ニ垂ントスルアリ或ハ半バニ當ルモノアレドモ甚シキ相違アルニ非ズ要スルニ我邦ハ面積ノ點ヨリ見ルモ小國トシテ見ルヲ得ザルナリ

本邦ノ海岸線 本邦ハ頗ル海岸線ノ屈曲ニ富ミ特ニ太平洋岸ヲ多シトス抑

海岸線ノ有様ハ一國ノ交通上至大ナル關係アリ本邦ニ於テ日本海沿岸ノ方ヨリモ太平洋沿岸ノ方諸般ノ點ニ就キ遙カニ發達セルハ全クコレガ爲メナリ但シ臺灣ハ東海岸即チ太平洋海岸ノ方比較的屈曲ニ乏シク西岸即チ臺灣海峽ノ方比較的屈曲ニ富メリ我邦全體ヲ通ジテ海岸線ノ延長ハ大ナルヲ以テ適當ニ修築ヲ行フトキハ良港灣ヲ得ルコト難キニ非ズ

本邦ノ山系 精密ニ云フトキハ本邦ハ五ツノ弓形ヨリナレリ第一千島ノ弓ニ相當スベキ山系ハコレヲ發見スルヲ得ズシテ千島諸島ハ殆ンド全ク火山岩ヨリ成レリ第ハ二本邦富士帶以北ノ弓ヲ構成スル樺太山系ナリ第三ハ富士帶以南ノ弓ヲ構成スル崑崙山系ナリ第四ハ薩隅諸島琉球諸島ノ弓ヲ構成スル琉球山系ナリ第五ハ臺灣ノ弓ヲ構成スル臺灣山系ナリトス

本邦ノ火山 本邦ノ火山ニ富メルコトハ世界中其類稀レナリ歴史時代ノ前ニ於テハ非常ナル大破裂頻繁ニシテ其災害大ナリシカドモ歴史時代以後ハ頗ル靜穩ナリ而シテ火山地方ハ風景ニ富ミ溫泉多ク原野少カラズ硫黃ノ産出等其利至大ナリ本邦ニテ有名ノ地日光ノ如キ箱根ノ如キ何レモ火山岩ノ地方ニアリ

本邦ノ氣候及天産 本邦ノ緯度ハ北緯凡ソ二十一度ヨリ五十度ニ亘リ其一部熱帶ニ入レルノミニテ殆ンド全部北溫帶ニアリ且四面海ヲ廻ラシ海洋ノ影響ヲ受クルヲ以テコレヲアジア洲中同緯度ノ地ニ比スルトキハ非常ニ溫和ナリ凡ソ大陸ノ東岸ハ風向及ビ海流ノ關係ニヨリテ西岸ニ比シテ寒冷ナルモノナリ然ルニ本邦ハアジア大陸ノ東岸ニ位スレドモコレガ例外ナリ

本邦ノ天産ハ非常ニ富裕ナレドモ利源ハ未ダ十分ニ開發セラレザルモノト云フベシ古來農ヲ以テ國ヲ立テタルハ固ヨリ然リト雖モ現今世界ノ大勢ニヨレバ必ズ商工業ノ擴張ヲ計ラザル可ラザルナリ本邦ノ天産已ニ豐富ニシテ又近傍ノ國例ヘバ支那ノ如キモ頗ル製造原料ニ富メリ故ニ一方ニ於テ内國ノ富源ヲ開拓スルト同時ニ外國ヨリ材料ヲ取り寄セ盛ンニ工業ヲ獎勵スルノ必要アリ

本邦國民ノ氣質 各國々民ノ特質各一ナラズ本邦人ノ如キハ忠君愛國ノ情ニ富メルノ點ニ於テハ世界中其比ナカルベシ然レモ輕躁ニシテ忍耐力ニ乏シキノ弊アリ維新前ハ然ラザリシモ近來ハ禮節大ニ亂レタルノ觀アリ依頼心強クシテ特立ノ氣象ニ乏シキノ弊アリ空論ニ馳セテ不生産的ノ職業ヲ好ムノ弊アリ

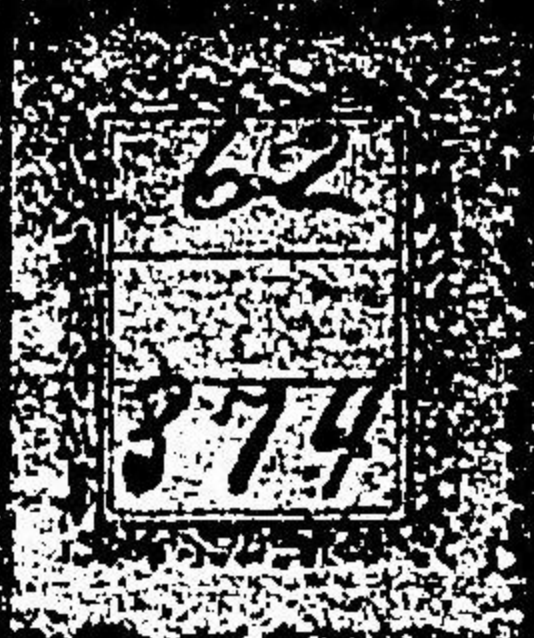
62
374

且熱心トナルモ忽チニ冷淡トナルノ弊アリ公共ノ道徳ニ缺キ慈善事業ニ冷淡ナル如キノ弊アリ我國民ハ深ク其短所ヲ知リテコレガ矯正ノ策ヲ講ビザル可カラズ

日本地理 終

帝國文





202573-000-9

62-374

日本地理

山上 万次郎/述

〔出版事項不明〕

EDE-0113



62

374

日本地理

三卷



日本地理

三卷